

(様式第10)

機構名病総 63 号

厚生労働大臣 殿 令和 6 年 10 月 2 日
開設者名 国立大学法人東海国立大学機構
機構長 松尾 清一

名古屋大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和5年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒464-8601 名古屋市千種区不老町
氏名	国立大学法人 東海国立大学機構

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

名古屋大学医学部附属病院

3 所在の場所

〒466-8560 名古屋市昭和区鶴舞町65番地
電話(052)744 - 2111

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

1	医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
2	医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1)内科

内科	有		
内科と組み合わせた診療科名等			
1呼吸器内科	2消化器内科	3循環器内科	4腎臓内科
5神経内科	6血液内科	7内分泌内科	8代謝内科
9感染症内科	10アレルギー疾患内科またはアレルギー科	11リウマチ科	
診療実績			
神経内科:脳神経内科にて医療を提供 / 内分泌内科、代謝内科:糖尿病・内分泌内科にて医療を提供 感染症内科:内科全般にて医療を提供 / アレルギー疾患内科またはアレルギー科:内科全般と小児科にて医療を提供			

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2)外科

外科				有			
外科と組み合わせた診療科名							
1呼吸器外科		2消化器外科		3乳腺外科		4心臓外科	
5血管外科		6心臓血管外科		7内分泌外科		8小児外科	
診療実績							
消化器外科:消化器・腫瘍外科にて医療を提供 / 乳腺外科、内分泌外科:乳腺・内分泌外科にて医療を提供 心臓血管外科:心臓外科、血管外科にて医療を提供							

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3)その他の標榜していることが求められる診療科名

1精神科		2小児科		3整形外科		4脳神経外科	
5皮膚科		6泌尿器科		7産婦人科		8産科	
9婦人科		10眼科		11耳鼻咽喉科		12放射線科	
13放射線診断科		14放射線治療科		15麻酔科		16救急科	

- (注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4)歯科

歯科				有			
歯科と組み合わせた診療科名							
1小児歯科		2矯正歯科		3歯科口腔外科			
歯科の診療体制							

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5)(1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 糖尿病・内分泌内科	2 老年内科	3 脳神経内科	4 移植外科	5 消化器・腫瘍外科
6 乳腺・内分泌外科	7 形成外科	8 児童精神科	9 病理診断科	10 リハビリテーション科
11	12	13	14	15
16	17	18	19	20
21	22	23	24	25

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
50				1030	1080

(単位:床)

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数	
医師	434	441	621.5	看護補助者	60	診療エックス線技師	0	
歯科医師	10	28	24.7	理学療法士	37	臨床検査 臨床検査技師	87	
薬剤師	81	8	88.5	作業療法士	8		衛生検査技師	0
保健師	0	0	0	視能訓練士	11		その他	0
助産師	57	3	59.3	義肢装具士	0	あん摩マッサージ指圧師	3	
看護師	1140	26	1156.4	臨床工学士	43	医療社会事業従事者	12	
准看護師	1	0	1	栄養士	0	その他の技術員	100	
歯科衛生士	6	0	6	歯科技工士	1	事務職員	339	
管理栄養士	10	0	10	診療放射線技師	74	その他の職員	14	

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	127	眼科専門医	11
外科専門医	117	耳鼻咽喉科専門医	11
精神科専門医	17	放射線科専門医	30
小児科専門医	42	脳神経外科専門医	27
皮膚科専門医	11	整形外科専門医	51
泌尿器科専門医	12	麻酔科専門医	27
産婦人科専門医	27	救急科専門医	9
		合計	519

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (丸山 彰一) 任命年月日 令和 6 年 4 月 1 日

平成31年4月から、患者安全推進委員会の構成員を務めている。

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	775.8 人	6.6 人	782.4 人
1日当たり平均外来患者数	2034.2 人	87.6 人	2121.8 人
1日当たり平均調剤数	821.6		剤
必要医師数	199		人
必要歯科医師数	6		人
必要薬剤師数	27		人
必要(准)看護師数	463		人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	1179 m ²	鉄筋コンクリート	病床数 人工呼吸装置 その他の救急蘇生装置	52 床 有 有	心電計 心細動除去装置 ペースメーカー	有 有 有
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 535 m ² [移動式の場合] 台数 台		病床数	32 床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床面積 54 m ² [共用室の場合] 共用する室名		薬歴管理室、高度医療薬剤支援室			
化学検査室	559 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	生化学自動分析装置、免疫自動分析装置		
細菌検査室	128 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	バクテアラート3D、マイクロスキャン		
病理検査室	341 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	検体検査装置クリオスタット、自動脱水包埋装置		
病理解剖室	66 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	解剖台、クリーンベンチ、臓器撮影台		
研究室	142 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	次世代シーケンサー、質量分析装置		
講義室	55 m ²	鉄筋コンクリート	室数 1 室	収容定員 35 人		
図書室	41 m ²	鉄筋コンクリート	室数 1 室	蔵書数 8400 冊程度		

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	79 %	逆紹介率	77.6 %
算出根拠	A: 紹介患者の数	16,614 人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	16,844 人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	518 人	
	D: 初診の患者の数	21,698 人	

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
柵木 充明	愛知県医師会 会長		愛知県医師会会長を務めており、医療安全に精通しているため。	無	1
三島 信彦	AOI名古屋病院 病院長		AOI名古屋病院 病院長を務めており、医療安全に精通しているため。	無	1
長谷川 ふき子	成田・長谷川法律事務所 弁護士		医療安全管理を得意とする弁護士であり、法律に関する高い識見を有しているため。	無	1
松下 敏幸	全国健康保険協会 愛知支部 支部長		全国健康保険協会愛知支部長を務めており、医療を受ける者として、医療に係る高い見識を有しているため。	無	2
矢野 昌浩	名古屋大学 副総長		総長が指名する理事・副総長	有	3

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
本院ホームページ上に公表。	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数 (人)
抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子検査	3人
ウイルスに起因する難治性の眼感染疾患に対する迅速診断(PCR法)	81人
	0人
先進医療の種類合計数	2
取扱い患者数の合計(人)	84人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
インターフェロン 皮下投与及びジドブジン経口投与の併用療法 成人T細胞白血病リンパ腫(症候を有するくすぶり型又は予後不良因子を有さない慢性型のものに限る。)	0人
テモゾロミド用量強化療法	0人
S-1内服投与並びにパクリタキセル静脈内及び腹腔内投与の併用療法 膵臓がん(遠隔転移しておらず、かつ、腹膜転移を伴うものに限る。)	0人
周術期デュルバルマブ静脈内投与療法	0人
ネシツムマブ静脈内投与療法 切除が不可能なEGFR遺伝子増幅陽性固形がん(食道がん、胃がん、小腸がん、尿路上皮がん又は乳がんに限る。)	2人
生体肝移植術 切除が不可能な肝門部胆管がん	0人
骨髄由来間葉系細胞による顎骨再生療法	0人
イマチニブ経口投与及びペムブロリズマブ静脈内投与の併用療法 進行期悪性黒色腫(KIT遺伝子変異を有するものであって、従来の治療法に抵抗性を有するものに限る。)	2人
生体肝移植術 適応症 切除が不可能な転移性肝がん	0人
	0人
先進医療の種類合計	9
取扱い患者数の合計(人)	4人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	0
取扱い患者数の合計(人)	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	35	56	ベーチェット病	63
2	筋萎縮性側索硬化症	78	57	特発性拡張型心筋症	71
3	脊髄性筋萎縮症	5	58	肥大型心筋症	14
4	原発性側索硬化症	1	59	拘束型心筋症	0
5	進行性核上性麻痺	11	60	再生不良性貧血	64
6	パーキンソン病	416	61	自己免疫性溶血性貧血	5
7	大脳皮質基底核変性症	5	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	2
8	ハンチントン病	3	63	特発性血小板減少性紫斑病	60
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	3
10	シャルコー・マリー・トゥース病	3	65	原発性免疫不全症候群	29
11	重症筋無力症	90	66	IgA 腎症	69
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	36
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	99	68	黄色靱帯骨化症	6
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/ 多発性運動ニューロパチー	72	69	後縦靱帯骨化症	69
15	封入体筋炎	3	70	広範脊柱管狭窄症	1
16	クローウ・深瀬症候群	2	71	特発性大腿骨頭壊死症	137
17	多系統萎縮症	22	72	下垂体性ADH分泌異常症	32
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	58	73	下垂体性TSH分泌亢進症	1
19	ライソゾーム病	6	74	下垂体性PRL分泌亢進症	6
20	副腎白質ジストロフィー	2	75	クッシング病	14
21	ミトコンドリア病	5	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
22	もやもや病	21	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	47
23	プリオン病	1	78	下垂体前葉機能低下症	120
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	1
25	進行性多発性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	2	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	2
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	81	83	アジソン病	1
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	66
30	遠位型ミオパチー	0	85	特発性間質性肺炎	57
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	87
32	自己食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	1
33	シュワルツ・ヤンベル症候群	0	88	慢性血栓性肺高血圧症	122
34	神経線維腫症	111	89	リンパ脈管筋腫症	11
35	天疱瘡	10	90	網膜色素変性症	55
36	表皮水疱症	5	91	バッド・キアリ症候群	4
37	膿疱性乾癬(汎発型)	6	92	特発性門脈圧亢進症	3
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	0	93	原発性胆汁性胆管炎	38
39	中毒性表皮壊死症	0	94	原発性硬化性胆管炎	21
40	高安動脈炎	64	95	自己免疫性肝炎	28
41	巨細胞性動脈炎	3	96	クローン病	438
42	結節性多発動脈炎	3	97	潰瘍性大腸炎	812
43	顕微鏡的多発血管炎	27	98	好酸球性消化管疾患	1
44	多発血管炎性肉芽腫症	6	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	1
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	20	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	3	101	腸管神経節細胞減少症	0
47	パージャー病	1	102	ルピンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	5	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	378	104	コストロ症候群	0
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	98	105	チャーシ症候群	0
51	全身性強皮症	87	106	クリオピリン関連周期熱症候群	1
52	混合性結合組織病	11	107	若年性特発性関節炎	3
53	シェーグレン症候群	25	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人発症スチル病	11	109	非典型性溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	9	110	ブラウ症候群	0

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	1	166	弾性線維性仮性黄色腫	2
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	167	マルファン症候群/ロイス・ディーツ症候群	8
113	筋ジストロフィー	14	168	エーラス・ダンロス症候群	4
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	169	マンケス病	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	170	オクシタル・ホーン症候群	0
116	アトピー性脊髄炎	0	171	ウィルソン病	5
117	脊髄空洞症	5	172	低ホスファターゼ症	1
118	脊髄髄膜瘤	0	173	VATER症候群	0
119	アイザックス症候群	0	174	那須・ハコラ病	0
120	遺伝性ジストニア	1	175	ウィーバー症候群	0
121	脳内鉄沈着神経変性症	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
122	脳表ヘモジドリン沈着症	0	177	ジュベール症候群関連疾患	0
123	HTRA1関連脳小血管病	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0	179	ウィリアムズ症候群	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	180	ATR-X症候群	0
126	ペリー病	0	181	クルーゾン症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	0	182	アペール症候群	0
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎	1	183	ファイファー症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	184	アントレー・ピクスラー症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	185	コフィン・シリズ症候群	0
131	アレキサンダー病	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	187	歌舞伎症候群	0
133	メビウス症候群	0	188	多脾症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	189	無脾症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	190	鯉耳腎症候群	0
136	片側巨脳症	0	191	ウェルナー症候群	2
137	限局性皮質異形成	0	192	コケイン症候群	0
138	神経細胞移動異常症	1	193	ブラダー・ウィリ症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	194	ソトス症候群	0
140	ドラベ症候群	0	195	ヌーナン症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	1	196	ヤング・シンプソン症候群	0
142	ミオクロニー欠神てんかん	0	197	1p36欠失症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	198	4p欠失症候群	0
144	レノックス・ガスター症候群	0	199	5p欠失症候群	0
145	ウエスト症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
146	大田原症候群	0	201	アンジェルマン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	202	スミス・マギニス症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	203	22q11.2欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	204	エマヌエル症候群	0
150	環状20番染色体体症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
151	ラスムッセン脳炎	0	206	脆弱X症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	207	総動脈幹遺残症	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	208	修正大血管転位症	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	209	完全大血管転位症	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	210	単心室症	0
156	レット症候群	0	211	左心低形成症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	212	三尖弁閉鎖症	0
158	結節性硬化症	9	213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0
159	色素性乾皮症	0	214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	1
160	先天性魚鱗癬	5	215	ファロー四徴症	1
161	家族性良性慢性天疱瘡	0	216	両大血管右室起始症	0
162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	13	217	エプスタイン病	0
163	特発性後天性全身性無汗症	0	218	アルポート症候群	1
164	眼皮皮膚白皮症	1	219	ギャロウェイ・モワット症候群	0
165	肥厚性皮膚骨膜症	0	220	急速進行性糸球体腎炎	4

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
221	抗糸球体基底膜腎炎	3	276	軟骨無形成症	4
222	一次性ネフローゼ症候群	84	277	リンパ管腫症/ゴーム病	2
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	3	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
224	紫斑病性腎炎	5	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
225	先天性腎性尿崩症	3	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	2	281	クリッペルト・レノネー・ウェーバー症候群	2
227	オスラー病	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
228	閉塞性細気管支炎	0	283	後天性赤芽球癆	1
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	1
230	肺胞低換気症候群	0	285	ファンconi貧血	0
231	1-アンチトリプシン欠乏症	0	286	遺伝性鉄芽球性貧血	1
232	カーニー複合	0	287	エプスタイン症候群	1
233	ウォルフラム症候群	0	288	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症	10
234	ベルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	1
235	副甲状腺機能低下症	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	2
236	偽性副甲状腺機能低下症	1	291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸型)	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	292	総排泄腔外反症	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	7	293	総排泄腔遺残	1
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
240	フェニルケトン尿症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
241	高チロシン血症1型	0	296	胆道閉鎖症	9
242	高チロシン血症2型	0	297	アラジール症候群	0
243	高チロシン血症3型	0	298	遺伝性膀胱炎	1
244	メープルシロップ尿症	0	299	嚢胞性線維症	0
245	プロピオン酸血症	0	300	IgG4関連疾患	7
246	メチルマロン酸血症	0	301	黄斑ジストロフィー	5
247	イソ吉草酸血症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	303	アッシャー症候群	0
249	グルタル酸血症1型	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
250	グルタル酸血症2型	0	305	遅発性内リンパ水腫	1
251	尿素サイクル異常症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	11
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	307	カナパン病	0
253	先天性葉酸吸収不全	0	308	進行性白質脳症	0
254	ポルフィリン症	1	309	進行性ミオクローヌステんかん	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	310	先天異常症候群	0
256	筋型糖原病	0	311	先天性三尖弁狭窄症	0
257	肝型糖原病	0	312	先天性僧帽弁狭窄症	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	313	先天性肺静脈狭窄症	0
259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0	314	左肺動脈右肺動脈起始症	0
260	シトステロール血症	0	315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/LMX1B関連腎症	0
261	タンジール病	0	316	カルニチン回路異常症	0
262	原発性高カイロミクロン血症	0	317	三頭酵素欠損症	0
263	脳脾黄色腫症	0	318	シトリン欠損症	0
264	無リポタンパク血症	0	319	セピアテリン還元酵素(SR)欠損症	0
265	脂肪萎縮症	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
266	家族性地中海熱	9	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
267	高IgD症候群	0	322	ケチオラーゼ欠損症	0
268	中條・西村症候群	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	1	324	メチルグルタコン酸尿症	0
270	慢性再発性多発性骨髄炎	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
271	強直性脊椎炎	24	326	大理石骨病	2
272	進行性骨化性線維異形成症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	9
273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0	328	前眼部形成異常	0
274	骨形成不全症	1	329	無虹彩症	0
275	タナトフォリック骨異形成症	0	330	先天性気管狭窄症/先天性声門下狭窄症	0

	疾 患 名	患者数
331	特発性多中心性キャスルマン病	10
332	膠様滴状角膜ジストロフィー	0
333	ハッチンソン・ギルフォード症候群	0
334	脳クレアチン欠乏症候群	0
335	ネフロン癆	0
336	家族性低 リポタンパク血症1(ホモ接合体)	0
337	ホモシスチン尿症	0
338	進行性家族性肝内胆汁うっ滞症	0
339	MECP2重複症候群	0
340	線毛機能不全症候群(カルタゲナー症候群を含む。)	0
341	TRPV4異常症	0

(注) 「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	139
合計患者数(人)	4812

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・医療DX推進体制整備加算	・感染対策向上加算1
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・患者サポート体制充実加算
・歯科外来診療医療安全対策加算2	・重症患者初期支援充実加算
・歯科外来診療感染対策加算3	・報告書管理体制加算
・特定機能病院入院基本料	・褥瘡ハイリスク患者ケア加算
一般病棟 7対1入院基本料	・ハイリスク妊娠管理加算
精神病棟 7対1入院基本料	・ハイリスク分娩管理加算
・救急医療管理加算	・呼吸ケアチーム加算
・超急性期脳卒中加算	・術後疼痛管理チーム加算
・診療録管理体制加算1	・後発医薬品使用体制加算3
・医師事務作業補助体制加算2	・病棟薬剤業務実施加算1
・急性期看護補助体制加算	・病棟薬剤業務実施加算2
・看護職員夜間配置加算	・データ提出加算
・療養環境加算	・入退院支援加算
・重症者等療養環境特別加算	・認知症ケア加算
・無菌治療室管理加算1	・せん妄ハイリスク患者ケア加算
・無菌治療室管理加算2	・精神疾患診療体制加算
・放射線治療病室管理加算(治療用放射性同位元素による場合)	・精神科急性期医師配置加算
・放射線治療病室管理加算(密封小線源による場合)	・地域医療体制確保加算
・緩和ケア診療加算	・地域歯科診療支援病院入院加算
・小児緩和ケア診療加算	・特定集中治療室管理料1
・精神科身体合併症管理加算	・総合周産期特定集中治療室管理料
・精神科リエゾンチーム加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・摂食障害入院医療管理加算	・小児入院医療管理料2
・栄養サポートチーム加算	・小児入院医療管理料4
・医療安全対策加算1	・看護職員処遇改善評価料64

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・入院時食事療養/生活療養()	・乳癌センチネルリンパ節生検加算 ² 及びセンチネルリンパ節生検(単独)
・ウイルス疾患指導料	・乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
・外来栄養食事指導料の注 ² に規定する基準	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・心臓ペースメーカー指導管理料の注 ⁵ に規定する遠隔モニタリング加算	・乳腺悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法
・糖尿病合併症管理料	・胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・がん性疼痛緩和指導管理料	・気管支バルブ留置術
・がん性疼痛緩和指導管理料の注 ² に規定する難治性がん性疼痛緩和指導管理加算	・胸腔鏡下肺切除術(区域切除及び肺葉切除術又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・がん患者指導管理料イ	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除で内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・がん患者指導管理料ロ	・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。)
・がん患者指導管理料ハ	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・がん患者指導管理料ニ	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(気管支形成を伴う肺切除)
・外来緩和ケア管理料	・同種死体肺移植術
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・縦隔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・糖尿病透析予防指導管理料	・内視鏡下筋層切開術
・小児運動器疾患指導管理料	・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、等
・乳腺炎重症化予防ケア・指導料	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・腎代替療法指導管理料	・胸腔鏡下弁形成術
・一般不妊治療管理料	・胸腔鏡下弁形成術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・生殖補助医療管理料 ²	・胸腔鏡下弁置換術
・二次性骨折予防継続管理料 ¹	・経カテーテル弁置換術(経心尖大動脈弁置換術及び経皮的大動脈弁置換術)

・二次性骨折予防継続管理料3	・経皮的僧帽弁クリップ術
・下肢創傷処置管理料	・不整脈手術左心耳閉鎖術(胸腔鏡下によるもの)
・慢性腎臓病透析予防指導管理料	・不整脈手術左心耳閉鎖術(経カテーテル的手術によるもの)
・院内トリアージ実施料	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・夜間休日救急搬送医学管理料の注3に規定する救急搬送看護体制加算	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
・外来放射線照射診療料	・両心室ペースメーカー移植術(心筋電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(心筋電極の場合)
・外来腫瘍化学療法診療料1	・両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)
・連携充実加算	・植込型除細動器移植術(心筋リードを用いるもの)及び植込型除細動器交換術(心筋リードを用いるもの)
・外来腫瘍化学療法診療料の注9に規定するがん薬物療法体制充実加算	・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極除去術
・療養・就労両立支援指導料の注3に規定する相談支援加算	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(心筋電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合)
・がん治療連携計画策定料	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)
・ハイリスク妊産婦連携指導料1	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・ハイリスク妊産婦連携指導料2	・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)
・肝炎インターフェロン治療計画料	・補助人工心臓
・こころの連携指導料()	・植込型補助人工心臓(非拍動流型)
・プログラム医療機器等指導管理料	・同種心移植術
・薬剤管理指導料	・骨格筋由来細胞シート心表面移植術
・医療機器安全管理料1	・経皮的下肢動脈形成術
・医療機器安全管理料2	・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(後腹膜)
・医療機器安全管理料(歯科)	・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)
・在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料	・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)
・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料	・内視鏡的逆流防止粘膜切除術
・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定	・腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)

・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)	・腹腔鏡下胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
・遺伝学的検査の注1に規定する施設基準	・腹腔鏡下噴門側胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下噴門側胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
・遺伝学的検査の注2に規定する施設基準	・腹腔鏡下胃全摘術(単純全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃全摘術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
・染色体検査の注2に規定する基準	・腹腔鏡下胃縮小術
・骨髄微小残存病変測定	・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
・BRCA1/2遺伝子検査	・腹腔鏡下総胆管拡張症手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・がんゲノムプロファイリング検査	・腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)
・先天性代謝異常症検査	・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
・抗アデノ随伴ウイルス9型(AAV9)抗体	・体外衝撃波胆石破碎術
・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)	・腹腔鏡下肝切除術
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・腹腔鏡下肝切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(SARS-CoV-2核酸検出を含まないもの)	・腹腔鏡下胆道閉鎖症手術
・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(髄液)	・生体部分肝移植術
・検体検査管理加算()	・同種死体肝移植術
・検体検査管理加算()	・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術
・国際標準検査管理加算	・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
・遺伝カウンセリング加算	・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・遺伝性腫瘍カウンセリング加算	・腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・胎児心エコー法	・腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ヘッドアップティルト試験	・腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・人工膵臓検査、人工膵臓療法	・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術

・長期継続頭蓋内脳波検査	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・長期脳波ビデオ同時記録検査1	・腎悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法
・終夜睡眠ポリグラフィー(安全精度管理下で行うもの)	・腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・脳波検査判断料1	・同種死体腎移植術
・神経学的検査	・生体腎移植術
・補聴器適合検査	・膀胱水圧拡張術及びハンナ型間質性膀胱炎手術(経尿道)
・黄斑局所網膜電図	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・全視野精密網膜電図	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・ロービジョン検査判断料	・腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術
・内服・点滴誘発試験	・尿道狭窄グラフト再建術
・前立腺針生検法(MRI撮影及び超音波検査融合画像によるもの)	・人工尿道括約筋植込・置換術
・経気管支凍結生検法	・精巣温存手術
・有床義歯咀嚼機能検査1の口及び咀嚼能力検査	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・睡眠時歯科筋電図検査	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・画像診断管理加算4	・女子外性器悪性腫瘍手術センチネルリンパ節生検加算
・ポジトロン断層撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合を除く。)	・腹腔鏡下仙骨脛固定術
・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合を除く。)	・腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ポジトロン断層・磁気共鳴コンピューター断層複合撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合に限る。)	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・CT撮影及びMRI撮影	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
・冠動脈CT撮影加算	・腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術
・血流予備量比コンピューター断層撮影	・胎児胸腔・羊水腔シャント術
・心臓MRI撮影加算	・胎児輸血術及び臍帯穿刺
・乳房MRI撮影加算	・体外式膜型人工肺管理料
・小児鎮静下MRI撮影加算	・尿道形成手術(前部尿道)(性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。)
・頭部MRI撮影加算	・尿道下裂形成手術(性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。)

・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・陰茎形成術(性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。)
・無菌製剤処理料	・会陰形成手術(筋層に及ばないもの)(性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。)
・心大血管疾患リハビリテーション料()	・造脘術、脘閉鎖症術(遊離植皮によるもの、腸管形成によるもの、筋皮弁移植によるもの)(性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。)
・脳血管疾患等リハビリテーション料()	・子宮全摘術(性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。)
・運動器リハビリテーション料()	・腹腔鏡下腔式子宮全摘術(性同一性障害患者に対して行う場合に限る。)
・呼吸器リハビリテーション料()	・子宮附属器腫瘍摘出術(両側)(性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。)
・がん患者リハビリテーション料	・医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の休日加算1
・リンパ浮腫複合的治療料	・医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の時間外加算1
・歯科口腔リハビリテーション料2	・医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の深夜加算1
・通院・在宅精神療法の注4に規定する児童思春期精神科専門管理加算	・医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術
・通院・在宅精神療法の注8に規定する療養生活継続支援加算	・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る。)
・認知療法・認知行動療法1	・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術)
・精神科作業療法	・輸血管理料
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・コーディネート体制充実加算
・医療保護入院等診療料	・自己生体組織接着剤作成術
・静脈圧迫処置(慢性静脈不全に対するもの)	・同種クリオプレシテート作製術
・導入期加算3及び腎代替療法実績加算	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレシス療法	・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・ストーマ合併症加算	・歯根端切除手術の注3
・手術用顕微鏡加算	・レーザー機器加算
・口腔粘膜処置	・麻酔管理料()
・歯科技工士連携加算1及び光学印象歯科技工士連携加算	・麻酔管理料()
・CAD/CAM冠及びCAD/CAMインレー	・周術期薬剤管理加算

・歯科技工加算1及び2	・放射線治療専任加算
・皮膚悪性腫瘍センチネルリンパ節生検加算	・外来放射線治療加算
・自家脂肪注入	・高エネルギー放射線治療
・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・一回線量増加加算
・四肢・躯幹軟部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の注に掲げる処理骨再建加算	・強度変調放射線治療(IMRT)
・骨悪性腫瘍、類骨骨腫及び四肢軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法	・画像誘導放射線治療(IGRT)
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(同種骨移植(非生体)(同種骨移植(特殊なものに限る。)))	・体外照射呼吸性移動対策加算
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	・定位放射線治療
・人工股関節置換術(手術支援装置を用いるもの)	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)	・画像誘導密封小線源治療加算
・椎間板内酵素注入療法	・デジタル病理画像による病理診断
・腫瘍脊椎骨全摘術	・病理診断管理加算2
・緊急穿頭血腫除去術	・悪性腫瘍病理組織標本加算
・脳腫瘍覚醒下マッピング加算	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・内視鏡下脳腫瘍生検術及び内視鏡下脳腫瘍摘出術	・看護職員処遇改善評価料64
・脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術	・外来・在宅ベースアップ評価料()
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・歯科外来・在宅ベースアップ評価料()
・頭蓋内電極植込術(脳深部電極によるもの(7本以上の電極による場合)に限る。)	・入院ベースアップ評価料79
・癒着性脊髄くも膜炎手術(脊髄くも膜剥離操作を行うもの)	・
・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(過活動膀胱)	・
・角結膜悪性腫瘍切除術	・
・羊膜移植術	・
・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・
・緑内障手術(緑内障手術(流出路再建術(眼内法)及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術))	・

・緑内障手術(濾過胞再建術(needle法))	・
・毛様体光凝固術(眼内内視鏡を用いるものに限る。)	・
・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)	・
・網膜再建術	・
・経外耳道的内視鏡下鼓室形成術	・
・人工中耳植込術	・
・植込型骨導補聴器(直接振動型)植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	・
・耳管用補綴材挿入術	・
・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)	・
・内喉頭筋内注入術(ボツリヌス毒素によるもの)	・
・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術	・
・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)	・
・顎関節人工関節全置換術(歯科)	・
・乳腺腫瘍画像ガイド下吸引術(一連につき)(MRIによるもの)	・
・頭頸部悪性腫瘍光線力学療法	・
・乳房切除術(性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。)	・
・乳癌センチネルリンパ節生検加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・ 実物大臓器立体モデルによる手術計画 (頭蓋顎顔面領域の骨変形、欠損若しくは骨折 又は骨盤、四肢骨若しくは脊椎の骨格に変形を 伴う疾患に係るものに限る。)	・
・ 悪性黒色腫又は乳がんにおけるセンチネル リンパ節の同定と転移の検索	・
・ 腹腔鏡下前立腺摘除術	・
・ 膀胱水圧拡張術(間質性膀胱炎に係るものに限 る。)	・
・ 内視鏡的大腸粘膜下層剥離術	・
・ インプラント義歯	・
・ 抗悪性腫瘍剤感受性検査 (HDRA法又はCD - DST法)	・
・ 泌尿生殖器腫瘍後腹膜リンパ節転移に対する腹腔 鏡下リンパ節郭清術	・
・ 内視鏡下手術ロボットを用いた腹腔鏡下腎部分切除 術	・
・ LDLアフェレシス療法	・
・ 腹腔鏡下広汎子宮全摘術	・
・ MRI撮影及び超音波検査融合画像に基づく前立腺針 生検法	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二 年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	14	
剖 検 の 状 況	剖検症例数(例)	20
	剖検率(%)	5.8

① 「臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況」欄については、選択肢の1・2どちらかを選択する(で囲む等)こ

(注)2 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
可変培養環境下で合目的に調製した細胞外小胞によるカスケード的骨再生法の開発	日比 英晴	顎顔面外科学	2,600,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
マイオカインを標的とした運動による加齢関連疾患の制御機構の解明と創薬への応用	大内 乗有	循環器内科学(分子循環器寄附講座)	8,710,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
CHRN2を標的とした革新的がん抗体医薬とコンパニオン診断技術の創出研究	神田 光郎	消化器外科学	3,250,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
特定波長光によるメラノーム増殖・転移抑制メカニズムの解明-Gq変異を巡って	橋川 和信	形成外科学	3,900,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
フレイルインデックス開発のためのコホート研究	梅垣 宏行	地域在宅医療学・老年科学	3,640,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
新規の病態解明を企図した自閉スペクトラム症多発家系のロングリードシーケンス	木村 大樹	精神医学	650,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
補体第4成分(C4)と精神疾患の包括的関連研究: MHCの関連に決着をつける	池田 匡志	精神医学	3,380,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
流体構造連成解析による大動脈瘤成長・破裂のリスク予測システムの開発	竹原 康雄	量子医学(新規低侵襲~寄附講座)	3,120,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
ホルモン連関とクローン性造血から探る糖尿病性心筋症の原因解析	室原 豊明	循環器内科学	5,070,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
直接リプログラミングによる気道上皮細胞の効率的誘導法の確立	石井 誠	呼吸器内科学	5,590,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
魚鱗癣での表皮脂質異常・バリア障害と炎症とのクロストークの解明と新規治療への展開	秋山 真志	皮膚科学	5,460,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
細胞接着因子を標的とするデュアル修飾型アンチセンス核酸を用いた革新的癌治療薬創出	小寺 泰弘	消化器外科学	4,680,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
固形癌に対するCAR-T、ウイルス療法の併用による新規免疫療法の開発	粕谷 英樹	国際連携室	1,430,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
脱気変形アルゴリズムとバードビュー機能を用いた肺表面位置情報ガイドの開発への挑戦	芳川 豊史	呼吸器外科学	3,900,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
超音波併用脳内局所薬剤送達システムの臨床応用に向けた研究	齋藤 竜太	脳神経外科学	4,030,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
脳と免疫系相互作用の観点からの多階層的研究による精神疾患病態解明	尾崎 紀夫	精神疾患病態解明学	13,000,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
間葉系幹細胞の微小環境での炎症制御機構に着眼した次世代型免疫・炎症制御法の創成	丸山 彰一	腎臓内科学	8,190,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
球脊髄性筋萎縮症レジストリデータを用いた病態進行に関わる因子の同定	橋詰 淳	臨床研究教育学	1,300,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
機械学習を用いた統合失調症の運転適性判断指標の抽出	岩本 邦弘	精神医学	910,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
MRIによる脳内リンパ系の評価法の開発: 睡眠との関連による評価	田岡 俊昭	量子医学	1,170,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
治療抵抗性致死的不整脈に対する定位放射線治療の研究	川村 麻里子	量子医学(量子介入治療学)	1,170,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
新規抗炎症性アディポカインによる心臓病、腎臓病制御機構の解明	大橋 浩二	循環器内科学(分子循環器寄附講座)	1,040,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
日本の一過性膜性腎症における新規責任抗原の同定と臨床実態および病態機序の解明	秋山 真一	腎臓内科学	910,000	補委 独立行政法人日本学術振興会

ループ腎炎における補体副経路の役割解明と治療への応用	金 恒秀	腎不全システム治療学寄附講座	780,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
消化器外科手術後感染性合併症を予防するプロバイオティクス製剤の開発	横山 幸浩	腫瘍外科学(外科周術期 - 寄附講座)	1,170,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
生体吸収性ポリマーと機能性ペプチドの複合化による再生型癒着防止人工心膜の開発	緒方 藍歌	心臓外科学(特任研究プロジェクト)	1,560,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
術後せん妄の病態生理および睡眠障害との因果関係の解明	森 厚詞	麻酔・蘇生医学(周術期寄附講座)	1,170,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
覚醒下脳手術における島皮質の自律神経機能に関わる新規神経基盤の解明	本村 和也	脳神経外科学	1,170,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
卵巣癌細胞を貪食した腹膜中皮細胞による抗腫瘍免疫抑制の機序解明と再賦活化法の検討	小屋 美博	産婦人科学	1,170,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
内リンパ水腫疾患に対する新規治療法の開発	曾根 三千彦	耳鼻咽喉科学	1,430,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
網膜色素変性症治療のための高効率なゲノム編集遺伝子治療の開発	藤田 幸輔	眼科学	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
幹/前駆細胞のシーケンシャル体内移動を基軸とした新しい骨再生治療の開発	藤尾 正人	顎顔面外科学	1,690,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
人工知能を用いた画像診断報告書の自然言語処理解析に関する検討	伊藤 倫太郎	量子医学	910,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
妊娠出産が家族性中枢性尿崩症のバソプレシンおよびオキシトシンに与える影響の解析	宮田 崇	糖尿病・内分泌内科学(特任研究プロジェクト)	780,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
臓器嗜好性に焦点をあてた食道癌転移の分子機序解明からの創薬研究	小寺 泰弘	消化器外科学	1,950,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
合併症軽減をめざした新規破骨細胞分化抑制薬の開発	西田 佳弘	整形外科(ハビリテーション科)	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
腹腔内細胞コミュニケーションが誘導するオカルト播種の休眠維持環境構築のメカニズム	梶山 広明	産婦人科学	910,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
可塑性の制御による固形癌の革新的治療法の開発	赤松 秀輔	泌尿器科学	1,950,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
片頭痛の発作発症時期同定のための疼痛筋電位解析	下田 真吾	手の外科学	1,820,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
腹水中ペプチド・デグラドミクスに注目した進行卵巣癌に対する腹腔内環境戦略の創生	梶山 広明	産婦人科学	5,460,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
免疫チェックポイント阻害薬による下垂体機能障害の発症予測システムの確立	有馬 寛	糖尿病・内分泌内科学	6,240,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
敗血症病態のトランスクリプトーム解析による創薬基盤形成	松田 直之	救急・集中治療医学	5,850,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
マルチモーダルVR技術を利用した外科実技教育DX	藤原 道隆	クリニカルシミュレーションセンター	6,240,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
異所性神経節誘導による感覚運動統合制御システム	栗本 秀	手の外科学	4,550,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
AI画像解析と鉗子の位置情報を利用した食道閉鎖症手術ナビゲーションシステムの開発	内田 広夫	小児外科学	5,980,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
唾液腺高悪性度転化癌の病態解明と治療応用を踏まえた癌免疫微小環境の解析	中黒 匡人	臓器病態診断学(病態構造解析学)	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
胎児に対する免疫学的寛容を誘導するマクロファージの同定	大木 拓究人	手の外科学	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
RNA結合蛋白質FUSの機能異常に伴う筋萎縮側索硬化症のシナプス病態解明研究	横井 聡	神経内科学	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会

人工知能を用いたバーチャル高分解能CTによる肺癌の過去・未来画像シミュレーション	岩野 信吾	量子医学	780,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
非可逆的電気穿孔法の出力設定最適化と心室性不整脈治療への応用に関する検討	因田 恭也	循環器内科学	910,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
脂肪組織由来間葉系前駆細胞を用いたリンパ浮腫に対するリンパ管新生療法の開発研究	清水 優樹	循環器内科	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
補体関連蛋白の遺伝子変異と自己抗体の存在に着目したC3腎症の病因・病態解明	水野 正司	腎不全システム治療学寄附講座	1,430,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
慢性腎臓病患者における生体内細菌叢をターゲットにした新規抗老化療法の開発	加藤 佐和子	腎臓内科学	1,040,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
がん関連マクロファージを標的化したCTRP13発現ウイルスを用いた新規治療法開発	松村 繁	国際連携室	1,430,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
クローン病術後抗TNF 抗体維持療法の有効性と安全性に関する検討	中山 吾郎	消化器外科学	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
感染を予防・制御する抗菌性ポリマー人工血管の創出	六鹿 雅登	心臓外科学	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
脳死関連肺障害の病態解明と予防・治療法の開発ーNPY,VEGFと腸換気法の検討	西脇 公俊	麻酔・蘇生医学	1,690,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
もやもや病脳動脈COL15A1発現低下のエピゲノム制御機構と病態生理の解明	荒木 芳生	脳神経外科	1,040,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
小児大腿骨頭壊死症の線維化を中心とした病態解明と新規骨再生促進薬の開発	三島 健一	整形外科	1,430,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
腫瘍特異抗体を用いた蛍光イメージングのリンパ節転移への治療応用	西尾 直樹	耳鼻咽喉科学	1,560,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
In silico解析を活用した球脊髄性筋萎縮症の骨格筋病態の解明	飯田 円	神経内科学	2,990,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
Exploring the mechanisms of synaptic dysfunction related to loss-of-TDP-43 function in the pathogenesis of ALS/FTLD	李 佳益	神経内科学	2,340,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
腹部大動脈瘤形成の血行力学的なリスク因子・予防因子の考察・研究	杉山 将隆	量子医学(新規低侵襲~寄附講座)	260,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
血液透析患者における大動脈弁石灰化の進展様式の解明と予後予測法の開発	倉沢 史門	臨床研究教育学	1,040,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
低分子ヘパリンの脊髄損傷に対する治療効果	伊藤 定之	整形外科(障害児(者)寄附講座)	2,210,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
尿中miRNAsを用いた小児もやもや病の診断と病期進行予測	金森 史哲	脳神経外科学	2,470,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
プラスマ活性化乳酸リンゲル液による口腔がん細胞特異的殺傷作用のオミクス解析	佐藤 康太郎	顎顔面外科学	1,690,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
中枢神経系原発悪性リンパ腫の治療抵抗性獲得機構の解明と新規治療法の同定	前田 紗知	脳神経外科学	1,430,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
運動ニューロン疾患におけるニューロン・オリゴデンドロサイト病態の時間連続性の解明	勝野 雅央	神経内科学	16,120,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
次世代遺伝子発現解析法に立脚したシーケンスレスながん分子サブタイプ規定法の開発	赤松 秀輔	泌尿器科学	20,150,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
新規病態・HTLV-1陽性HRS細胞を伴う成人T細胞白血病/リンパ腫の統合的解析	加留部 謙之輔	臓器病態診断学	2,990,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
脳と感覚器の血管透過性と老廃物排泄機能評価から切り拓く未病状態早期検出	長縄 慎二	量子医学	6,630,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
分子標的薬による急性骨髄性白血病クローンの選択・耐性に関わる分子異常の解明と克服	清井 仁	血液・腫瘍内科学	7,020,000	補委	独立行政法人日本学術振興会

腹腔内エコシステムに基軸をおいた難治性卵巣癌に対する新規規間質標的治療戦略の創生	梶山 広明	産婦人科学	7,280,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
革新的なゲノム編集遺伝子治療実現のための包括的基盤形成	西口 康二	眼科学	10,920,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
症例を基盤にした行動科学・社会科学の教育と学修者評価のベストプラクティスモデル	錦織 宏	総合医学教育センター	4,420,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
肺神経内分泌腫瘍に対する腫瘍血管新生を標的とした治療の低侵襲効果予測法の確立	森瀬 昌宏	呼吸器内科学	1,430,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
精神科リゾン医療における口腔慢性疼痛患者のSNRI治療抵抗性要因の解明に関する研究	木村 宏之	精神医学	910,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
網羅的プロテオーム解析に基づいた肺高血圧症病変における新規治療ターゲットの検証	加藤 太一	小児科学	1,170,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
頸動脈波の微小柱状信号解析を用いた、有効で安全な次世代不整脈治療法の確立	柳澤 哲	循環器内科学(先進循環器寄附講座)	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
脂肪組織由来幹細胞濾液を用いた心血管病の治療開発	柴田 玲	循環器内科学(先進循環器寄附講座)	1,560,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
皮膚筋炎の抗OJ抗体が認識する新規エヒトープとウイルス蛋白の相同性探索	室 慶直	皮膚科学	1,820,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
ヒト多能性幹細胞から下垂体前葉の幹細胞作出とその性質検討	須賀 英隆	糖尿病・内分泌内科学	910,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
胆道癌肝切除における術後経過の視覚的解析手法と経過不良群予測システムの開発	江畑 智希	腫瘍外科学	1,950,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
整形外科領域の新規治療に向けたdrug repositioning戦略	今釜 史郎	整形外科	1,690,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
視覚と上肢の運動に注目した不確実性に対応する手術技術の数値化・習熟に関する研究	建部 将広	手の外科学(四肢外傷学寄附講座)	2,210,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
多層的ゲノム解析を用いた絨毛性腫瘍の悪性化因子同定による新規治療開発	新美 薫	産婦人科学	1,820,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
早発卵巣不全予測マーカー測定法開発と妊孕性温存療法への展開	大須賀 智子	産婦人科学	1,820,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
睡眠時異常行動の簡便な検出法の開発	宮田 聖子	精神医学(精神医療学寄附講座)	910,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
高齢者の有害イベントの予測因子としての膝伸展筋力の有用性の検討	山田 洋介	地域在宅医療学・老年科学	2,730,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
神経線維腫症1型における遺伝型と精神医学的表現型の解析 - 早期発見と介入を目指して	名和 佳弘	精神医学(障害児(者)寄附講座)	2,730,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
膵癌細胞由来細胞外小胞が誘導する癌微小環境の腸管神経リプログラミング機構の解明	砂川 真輝	腫瘍外科学(428外科周術期 - 寄附講座)	2,080,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
新たな麻痺治療技術開発における再支配筋の筋肥大実証と変性疾患への適応拡大に向けて	徳武 克浩	手の外科学(四肢外傷学寄附講座)	1,690,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
空間的トランスクリプトーム解析による卵巣明細胞がんの治療抵抗性微小環境の解明	吉田 康将	産婦人科学	3,120,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
異種移植による新しい麻痺治療法開発のための末梢神経内の免疫機構の解明	佐伯 総太	手の外科学	1,950,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
自己修復性ハイドロゲルを用いた新しい消化器組織被覆補強材の開発	神田 光郎	消化器外科学	1,820,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
自閉スペクトラム症・知的能力障害を主とする神経発達症のゲノム解析による病態解明	古川 佐和子	精神科	1,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
ドライバー癌遺伝子誘導性の細胞老化を作用機序とする変異KRAS肺癌の創薬研究	佐藤 光夫	呼吸器内科学	6,760,000	補委	独立行政法人日本学術振興会

長鎖非翻訳RNAを標的とする変異KRAS肺癌の合成致死治療の開発	佐藤 光夫	呼吸器内科学	3,250,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
非侵襲的シミュレーションを可能とするコネクターム基盤型機能外科手術の開発研究	前澤 聡	脳神経先端医療開発学	1,430,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
肺癌細胞の早期転移とdormancyに関する機序解明とその治療法の検討	山口 淳平	消化器外科一	2,600,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
呼吸器疾患患者に対するリハビリテーション方策(振動刺激療法)の新規開拓	井上 貴行	リハビリ部門 J	650,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
脳磁場計測による小児急性脳炎脳症後の脳神経ネットワークの解明	山本 啓之	小児科	650,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
地域の大規模疫学データが抗菌薬適正使用に与える影響の評価	森岡 悠	臨床感染制御学(中央感染制御部)	780,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
難治性卵巣がんにおける細胞外小胞機能解析と臨床応用基盤創生	横井 暁	産科婦人科	5,330,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
感覚情報処理系の解析を含めた手指巧緻運動障害の定量化と未病早期検出技術の開発	米田 英正	手の外科	1,950,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
one carbon metabolismによる膵癌制御の可能性	林 真路	消化器外科二	910,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
DNAメチル化パネルによる多癌種鑑別診断技術の確立	清水 大	消化器外科二	260,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
産後うつ病の全ゲノム・メタボローム解析による病態解明とバイオマーカーの開発	高橋 長秀	親と子どもの心療科	1,560,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
統合失調症における加齢に伴う脳神経回路病態を解明する	山本 真江里	精神科	1,170,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
ノンコーディング領域と中間サイズの変異に着目した精神疾患の遺伝要因解明	久島 周	精神医学(ゲノム医療センター)	390,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
肝内門脈側副路の評価と肝静脈血栓を組み込んだ拡大肝切除のためのIVRの新戦略	駒田 智大	放射線科	1,040,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
微生物叢・シングルセル遺伝子解析によるウイルス性肺炎の重症化機序の解明	川田 潤一	小児科学	1,430,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
ChIP-Seqを用いた若年性骨髄球性白血病の網羅的ヒストン修飾解析	村松 秀城	小児科	1,430,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
小脳障害に着目した早産児の神経学的障害の病態解明と幹細胞療法の治療機序解明	佐藤 義朗	小児科(総合周産期(新生児))	650,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
免疫チェックポイント阻害剤抵抗性を改善する革新的肺癌治療法の開発	飯田 忠	消化器内科(救急診療等運営本部)	780,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
劇症型心筋炎における急性期管理法の確立および低侵襲早期診断マーカーの探索と開発	奥村 貴裕	循環器内科(重症心不全治療センター)	1,170,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
肺癌免疫チェックポイント阻害剤併用療法のバイオマーカー研究	長谷 哲成	呼吸器内科	1,170,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
間質性肺炎急性増悪病態における新規病的微小環境因子・ミトコンドリアDNAの役割	阪本 考司	呼吸器内科	650,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
ヒトPS細胞由来間葉系幹細胞を用いた新規腎疾患治療法の開発	田中 章仁	腎臓内科	780,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
活性値の乖離に着目した血友病性関節症の病態解明とアンメットニースの開拓	鈴木 伸明	輸血部(検査部)	1,560,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
好塩基球を介した2型炎症調節機構の解明ーアレルギー性・好酸球性肺疾患と肺恒常性	若原 恵子	呼吸器内科	1,170,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
グルココルチコイドによるバソプレシン分泌調節機構ー仮面尿崩症の病態解明に向けてー	萩原 大輔	糖尿病・内分泌内科	1,560,000	補委	独立行政法人日本学術振興会

小児がんの診断治療に資する新規蛍光プローブの開発研究	城田 千代栄	小児外科	650,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
胆道癌の全ゲノム解析による化学療法抵抗性に関する遺伝子変異の探索と機能解析	水野 隆史	腫瘍外科学	1,170,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
ロイコリエン-リボキシゲナーゼ代謝系をターゲットとした新規血管病治療の探索研究	川井 陽平	血管外科(一外)	1,430,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
胸部大動脈ステントグラフト内挿術後脊髄障害発症機序の解明と新規予防戦略の展開	坂野 比呂志	血管外科学	1,040,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
大動脈瘤抑制のための血流変化モデルの解析	新美 清章	血管外科(一外)	1,430,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
無痛性除細動を可能にする導電性繊維電極心臓サポートネット開発	秋田 利明	心臓外科学	130,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
モーションセンサからの位置情報を利用する神経筋反応評価アルゴリズムの開発	中村 のぞみ	麻酔科	260,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
プロポフォルによる細胞障害とカルシニューリン	赤根 亜希子	麻酔科	1,040,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
Wntシグナル経路の至適な活性化による大腿骨頭壊死症の新規治療法の応用開発	竹上 靖彦	整形外科	520,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
代謝リプログラミングによる鍵由来間葉系幹細胞の分化制御の解明	浅井 秀司	整形外科	1,170,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
患者由来組織を用いた神経線維腫に対する新規治療開発:神経線維腫症1型の進行予防	生田 国大	整形外科	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
間質性膀胱炎の病態と制御性T細胞による免疫応答の関連性に関する研究	石田 昇平	泌尿器科	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
放射線性萎縮モデルにおける唾液腺幹細胞再生メカニズムの分子基盤	酒井 陽	歯科口腔外科	1,170,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
歯肉癌をターゲットとした長鎖非翻訳RNA「TUG1」の抗腫瘍効果の検討	市村 典久	歯科口腔外科	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
地方自治体がボビュレーションストラテジーとして行う減塩対策事業の費用対効果の評価	佐藤 寿一	総合診療科	780,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
デジタルテクノロジーについていけない教職員の苦悩	近藤 猛	総合診療科	650,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
サルコペニア患者に対する腸内細菌叢への介入による効果的な運動療法の開発	石津 洋二	消化器内科	1,170,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
高齢消化器癌手術症例における術後自立度低下に関するリスク評価と介入の有効性の検討	田中 千恵	消化器外科二	1,040,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
リアルワールドデータを用いた新たな臨床研究における品質マネジメント基盤の構築	諸橋 朱美	先端医療開発部	130,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
腹腔洗浄液の高深度プロテオーム解析による肺癌腹膜播種再発予測法の開発	川勝 章司	消化器外科一	1,170,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
放射線誘導免疫応答のメカニズム解明および免疫放射線治療の最適化	奥村 真之	放射線科	1,560,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
チロシキナーゼ遺伝子異常による先天性心疾患を伴う症候群の発症メカニズム解析	山本 英範	小児科	1,560,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
炎症性腸疾患の多様化を見据えた新規インフラマソーム標的治療法の開発	前田 啓子	消化器内科	1,170,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
アルコール性肝障害におけるUBXD8機能の解明	今井 則博	消化器内科学	1,170,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
ネットワーク解析を用いた腸内細菌が合成するアミノ酸と肝硬変・筋肉量の関連性の解明	山本 健太	光学医療診療部	1,690,000	補委	独立行政法人日本学術振興会

炎症性腸疾患における線維芽細胞の多様性の生物学的意義の解明とその制御	水谷 泰之	消化器内科	1,430,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
心脾連関に注目した新しい心不全治療法の開発	平岩 宏章	循環器内科	130,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
免疫チェックポイント阻害薬による下垂体障害のバイオマーカーの同定	小林 朋子	糖尿病・内分泌内科	1,040,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
心臓外科手術における揮発性麻酔薬による予後改善効果の研究	田村 高廣	麻酔・蘇生医学	910,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
電気生理学的手法を用いた内因性疼痛抑制能の測定法の確立	絹川 友章	麻酔科	910,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
急性肝不全の病態解明と遺伝子治療を含めた新規創薬イノベーション	田中 卓	救急科	910,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
新規オルガノイドモデルを用いた下垂体腺腫の薬剤反応メカニズムの解明	永田 雄一	脳神経外科	1,560,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
大腿骨壊死に対するFGFR3シグナル活性化による骨形成の検討	大澤 郁介	整形外科	1,560,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
ヒアルロン酸合成酵素の遺伝子導入による新たな変形性膝関節症の治療に向けて	石塚 真哉	整形外科	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
進行卵巣癌の病勢制御を目指した癌関連上皮細胞の機能解析と腹膜再生治療の開発	吉原 雅人	産婦人科学	2,080,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
早産減少を目指した新規管理法の検討～生体内水素産生能と免疫細胞Th17の関わり～	今井 健史	総合周産期母子医療センター(生殖)	1,820,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
機械学習理論を応用した進行性下顎頭吸収の発症リスク評価システムの開発	佐世 暁	歯科口腔外科	1,820,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
静圧検知IoTセンサーを用いた動的荷重測定と解析による腰痛の発症前兆候の解明	佐伯 将臣	先端医療開発部	780,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
持続血糖測定機会提供と学習支援を併用した糖尿病患者への新しい体験型学習方法の開発	尾上 剛史	糖尿病・内分泌内科	780,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
胆膵疾患の十二指腸主乳頭擦過採取による表在細菌叢プロファイル作成と臨床応用の探索	川嶋 啓揮	消化器内科学	780,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
施設居住高齢者のフレイルに関する研究	坂井 智達	老年内科	2,233,411	補委	独立行政法人日本学術振興会
神経異常タンパク質の凝集抑制治療の開発	佐橋 健太郎	神経内科学	7,150,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
間葉系幹細胞カラムとiPS細胞・遺伝子編集技術を融合した新規治療システム	古橋 和弘	腎臓内科	5,980,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
生体タンパク模倣短鎖ペプチドの創成と低侵襲的大動脈瘤治療法開発の試み	成田 裕司	心臓外科	4,940,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
DNA付加体の同定による肺癌発癌メカニズムの解明	服部 憲史	消化器外科二	1,040,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
CAR-T細胞機能を向上させるCAR構造の最適化	西尾 信博	先端医療開発部	1,560,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
高齢がん患者における免疫チェックポイント阻害薬のバイオマーカー探索	下方 智也	化学療法部	1,170,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
中脳から捉える22q11.2欠失症候群患者の脳内分子・細胞病態	有岡 祐子	精神疾患病態解明学	1,040,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
稀なゲノム変異に着目した統合失調症脳組織表現型の神経病理解析	鳥居 洋太	精神科	1,040,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
深層学習を用いた脳深部の高精細MR画像～7テスラ超高磁場MR画像に迫る～	中根 俊樹	放射線科	780,000	補委	独立行政法人日本学術振興会

シングルセル遺伝子発現解析を用いた小児骨髄不全症の病態解明	成田 敦	小児科	1,430,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
横紋筋肉腫メタボローム解析(尿/組織)による診断マーカーとオンコメタボライト探索	住田 互	小児外科(小児がん治療センター)	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
メタゲノム解析とオミクス解析を用いたFontan術後蛋白漏出性胃腸症の病態解明	郷 清貴	小児科	1,170,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
肺細動脈内皮細胞で特徴的变化を示す分子に着目した肺高血圧症への新規治療戦略の開発	加藤 勝洋	循環器内科	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
免疫チェックポイント阻害薬による自己抗体関連有害事象の検証を目的とした研究	森本 竜太	循環器内科	650,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
難治性ネフローゼ症候群のエネルギー代謝動態から迫る新たな治療標的の探索	前田 佳哉輔	腎臓内科	1,430,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
aHUS早期診断及び抗補体薬の適応判断に必要な補体機能検査開発	加藤 規利	腎臓内科	1,430,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
急性骨髄性白血病で高発現する好中球エラスターゼの機能解明と新規治療開発	石川 裕一	血液・腫瘍内科学	1,430,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
CUL5の発現抑制を介したT細胞の活性制御のメカニズム解明とその臨床応用	寺倉 精太郎	血液内科	1,560,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
線溶・抗線溶のバランスを捉える包括的線溶系スクリーニング検査法の開発研究	鈴木 敦夫	検査部	780,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
CTLA-4およびPD-1阻害による下垂体障害マウスモデルを用いた自己抗原の解明	岩間 信太郎	糖尿病・内分泌内科	1,430,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
膵癌における低酸素応答性エレメントのターゲット遺伝子群の同定	猪川 祥邦	消化器外科二	1,690,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
胆道癌における融合型ノココーディングRNAの機能解明と臨床応用	國料 俊男	消化器外科一(ゲノム医療センター)	1,430,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
大動脈ステントグラフト術後タイプ2エンドリークに対する新規診断・治療戦略の開発	杉本 昌之	血管外科	1,040,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
大動脈瘤におけるマクロファージAIM炎症機構の解明と治療法の開発	寺澤 幸枝	心臓外科	1,430,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
経カテーテル僧帽弁置換のための安定した経心房中隔アクセス法の確立	徳田 順之	心臓外科	650,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
線維芽細胞の多様性理解に基づく肺線維症合併肺癌の病態の解明と治療戦略の探索	仲西 慶太	呼吸器外科	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
ビッグデータと凝固プロファイリングによる敗血症性凝固障害主要メカニズムの解明	春日井 大介	救急科	1,820,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
塩基性ヘリックスループヘリックス転写機構制御と細胞治療を融合する神経再生治療開発	西村 由介	脳神経外科	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
超音波関節鏡を併用した次世代型関節鏡ARシステムの開発	山本 美知郎	手の外科学	1,560,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
FGFR3インヒビターのマウスモデルへの長期投与と作用機序の検討	松下 雅樹	整形外科	1,430,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
AIによる前立腺癌病理情報に基づく遺伝子変異診断法の開発	加藤 真史	泌尿器科	130,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
早産児の神経学的予後向上に向けた病態解明～腸脳相関に着目して～	小谷 友美	産婦人科学(総合周産期(生殖))	1,820,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
寄生虫感染とシリコンオイル使用眼で観察される網膜障害の原因はフェロトシスか?	兼子 裕規	眼科学	1,430,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
被膜拘縮を抑制するベプチドコーティング乳房インプラントの開発	神戸 未来	形成外科	1,170,000	補委	独立行政法人日本学術振興会

病院情報システムを活用した臨床試験データ品質管理手法の確立	鍛塚 八千代	先端医療開発部	910,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
高度専門性をもつ医療安全管理者人材養成プログラムの開発と効果測定	平松 真理子	患者安全推進部	1,040,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
精神科診療ガイドラインの利用実態と今後の普及促進に必要な条件に関する研究	小笠原 一能	卒後臨床研修・キャリア形成支援センター	390,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
EPAを用いたエキスパート外科医育成のための評価基準の開発	高見 秀樹	消化器外科二	1,170,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
COVID-19の後遺症の人類学・生物医療・漢方鍼灸・アーユルヴェーダを事例に	梅村 絢美	総合医学教育センター	910,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
遺伝性骨髄不全症候群に対する網羅的プロテオミクス解析	若松 学	小児科	1,820,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
キメラ抗原受容体を樹状細胞に組み込んだ新規細胞療法の抗腫瘍効果機序解析	向山 宣昭	耳鼻いんこう科	2,470,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
ポリグルタミン病における神経変性の超早期病態解明と核酸医薬開発	蛭藤 智紀	脳神経内科	2,210,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
集束超音波療法と脳機能画像解析を通じた振戦性疾患の病態メカニズム解明	坪井 崇	脳神経内科	2,340,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
せん妄下にみられる各精神症状の要因や予後に関する研究	立花 昌子	精神科	260,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
精神障害の病態としてのヒストンメチル化異常ー患者におけるゲノム変異を起点としてー	加藤 秀一	親と子どもの心療科	3,510,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
統合失調症心臓病態を反映した心循環系副作用リスク評価系の構築	奥村 啓樹	精神疾患病態解明学	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
原発性肺癌の予後予測: 超高精細3D-CTによる腫瘍体積とFDG-PET/CT	神谷 晋一郎	放射線部	910,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
3次元CTを用いた微小臓癌の新規画像診断技術の確立	山雄 健太郎	光学医療診療部	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
肝内マクロファージ極性と類洞内皮障害に着目したirAE肝障害の発症機序の解明	伊藤 隆徳	消化器内科	1,950,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
冠動脈疾患進展の新規曝露危険因子と好中球を介した機序及び新規予防戦略の探索	田中 哲人	循環器内科	1,950,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
クローン性造血がHfPEF病態を修飾するメカニズムの解明	由良 義充	循環器内科(救急診療等運営本部)	2,470,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
気管支基底細胞を標的とした特異性肺線維症の病態解明と治療薬開発	表 紀仁	呼吸器内科(救急診療等運営本部)	2,080,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
部位別腎病理スコアと機能学的メタボローム解析を融合した新規腎病理評価系の確立	今泉 貴広	先端医療開発部	1,430,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
先天性魚鱗癬の病態におけるリソリン脂質の役割解明と新規治療標的への展開	榎橋 華奈	皮膚科学	2,080,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
毛孔性紅色秕糠疹V型を含めたCard14関連炎症性角化症の病態解明への挑戦	吉川 剛典	皮膚科	1,820,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
全ゲノム解析による食道癌の周術期補助療法と早期再発に関する研究	杉田 静紀	消化器外科一	1,170,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
オリガミ理論に基づいた正確な肺部分切除法の創出	門松 由佳	呼吸器外科	2,080,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
細胞外小胞の革新的サーフェソーム解析を用いた肺癌早期診断バイオマーカーの開発	加藤 毅人	呼吸器外科	2,080,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
脳硬膜マクロファージを中心とした新たなせん妄発症機序の解明	佐藤 威仁	麻酔科	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会

COVID-19の過剰な呼吸ドライブを起点とした病態ダイナミクスの解明	神宮司 成弘	救急科(救急・内科系集中治療部)	910,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
変形性関節症の新しい治療 - OAモデルのCD44断片化とADAM10に注目して -	鈴木 望人	整形外科(救急診療等運営本部)	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
解糖系阻害剤は関節滑膜炎の抑制、関節軟骨保護のための新規治療薬となり得るか?	大橋 禎史	整形外科	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
新規ヒアルロニダーゼKIAA1199活性阻害を標的とした骨肉腫に対する薬剤開発	小池 宏	整形外科	1,690,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
Drug repositionを用いたFSDHの新規治療の開発	坂口 健史	整形外科	1,170,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
CRISPR-Cas9スクリーニングによる卵巣奇形腫悪性転化の新規治療の開発	玉内 学志	産科婦人科	2,600,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
子宮内膜微小環境に着目した子宮内膜症の病態解明と抜本的新規治療法の開発	村岡 彩子	総合周産期母子医療センター(生殖)	1,430,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
妊娠高血圧症候群による児の神経学的後障害の病態解明と先制医療への戦略	牛田 貴文	産科婦人科	1,560,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
革新的CAR-T細胞療法の開発を目指した膜播種免疫抑制機構の解明と克服	芳川 修久	産科婦人科	1,690,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
内リンパ水腫の質的診断に関する新規評価法と治療のアルゴリズムの開発	小林 万純	耳鼻いんこう科	130,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
老化細胞の選択的除去による糖尿病網膜症の予防と早期治療のための薬剤開発	鈴村 文那	眼科	1,560,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
遺伝性網膜変性疾患のゲノム医療実現に向けた大規模な病因遺伝子変異探索	小柳 俊人	眼科	1,560,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
環境負荷に応答した幹細胞が分泌する細胞外小胞による機能的血管網構築と歯周組織再生	坂口 晃平	歯科口腔外科	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
生体内微量体液に対する革新的がん細胞外小胞Heterogeneity解析	横井 暁	産科婦人科	9,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
運動ニューロン疾患の初期軸索病態の解明	佐橋 健太郎	神経内科学	3,250,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
遠位型遺伝性運動ニューロパチー7型の病態解明と病態抑止療法の開発	井口 洋平	脳神経内科	3,900,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
糸球体周囲マクロファージは基底膜を貫く樹状突起によりポドサイト恒常性を維持する	古橋 和弘	腎臓内科	2,210,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
食がもたらす喜びと行動を評価する解析システムの開発と脳内機序の解明	溝口 博之	薬剤部	3,250,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
膵癌分子サブタイプの可塑性の解明とその作用機序に基づく新規診断治療法の開発	馬場 泰輔	消化器外科一	1,430,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
脳波-機能的MRI同時記録による小児急性脳症後てんかんの脳内ネットワークの解明	伊藤 祐史	小児科	1,430,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
加齢黄斑変性の新規治療法開発に向けた眼内環境評価と網膜形態評価	佐治木 愛	眼科	1,430,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
下肢筋力低下の検出と足底感覚強化によりフレイルを予防するスマートインソールの開発	山賀 崇	リハビリテーション科	1,430,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
Twinfilin-1による神経スパインの形態と認知機能の制御機構の解明	山田 清文	薬剤部	8,060,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
Atypical kinaseが修飾する心臓の拡張調節機序とHFpEF病態の解明	竹藤 幹人	循環器内科学	6,630,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
人工衛星による大気汚染情報を活用した間質性肺炎プレジジョンメディスンの実現	古川 大記	メディカルITセンター	13,650,000	補委	独立行政法人日本学術振興会

ピリジン塩基合成経路を標的としたLKB1不活化肺癌に対する新規治療法の開発	田中 一大	呼吸器内科	7,020,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
革新的な呼吸補助手段「腸換気法」の臨床開発への薬理機序の解明	藤井 祐	麻酔科	6,760,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
ストレス関連精神疾患における脳内ニコチン受容体を介する神経精神機能調節	内田 美月	薬剤部	480,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
新生児・乳幼児におけるロクロニウム臭化物持続投与の適正化	瀧田 雄平	薬剤部	470,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
IoT技術を活用して看護師が働き続けられる環境構築のための技術開発	山下 佳子	メディカルITセンター	480,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
未成年の子どもをもつがん患者のACPと子どもへの支援についての検討	杉下 美保子	化学療法部	390,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
球脊髄性筋萎縮症における超早期バイオマーカーの開発	山田 晋一郎	脳神経内科	1,690,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
脳性麻痺に対する脱落乳歯歯髄幹細胞(SHED)を用いた遠隔期細胞療法の開発	鈴木 俊彦	小児科(総合周産期(新生児))	1,430,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
チロシン系代謝物マーカーによる神経芽腫MYC遺伝子増幅判別モデルの改良と検証	牧田 智	小児外科	1,690,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
胎児炎症性反応候群に伴う臓器障害の病態解明と幹細胞を用いた新規治療法開発	村松 友佳子	小児科	1,950,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
膵がんにおける組織採取法の最適化と線維芽細胞の多様性に基づく個別化医療の開発	石川 卓哉	消化器内科	1,170,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
網羅的遺伝子解析によるirAE肝障害発症メカニズムの探索および治療アルゴリズムの開発	水野 和幸	消化器内科	2,340,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
腎所属リンパ節を標的とするAKI-to-CKD transitionの新規治療戦略の構築	佐藤 由香	腎臓内科	2,210,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
悪性リンパ腫のクローン解析による病変形成および治療抵抗性獲得機序の解明	島田 和之	血液内科	1,690,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
難治性急性前骨髄球性白血病の分子病態解明と新規治療標的分子の探索	牛島 洋子	血液内科	2,080,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
ECFCにおけるV2 vasopressin receptorの局在・機能解析によるVWF分泌刺激機構の解明	松下 正	輸血部	1,040,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
コンプライアンスミスマッチを解消できる人工タンパク質GPG小口径人工血管の開発	吉住 朋	心臓外科	1,560,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
血液凝固ポリマー・ヘプテド複合体を用いた局所止血材料の開発	尾関 貴啓	心臓外科	1,430,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
オルガノイドモデルを用いた脳腫瘍の悪性転化を誘導する分子メカニズムの解明	大岡 史治	脳神経外科学	2,080,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
グリア性瘢痕を乗り越える胎生期神経の糖鎖環境の解明	大内田 隼	整形外科	1,690,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
下垂体腫瘍に対する新規遺伝子学的診断法の探求―術前計画と術中判断への応用―	竹内 和人	脳神経外科	1,820,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
脊髄損傷後の歯髄幹細胞治療に脊髄硬膜外刺激療法を組み合わせた新しい治療法開発	永島 吉孝	脳神経外科	1,950,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
炎症下における滑膜細胞の代謝リプログラミング	佐藤 良	整形外科	1,560,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
肉腫様腎癌に有効な併用療法の骨軟部肉腫への応用に向けた基盤研究	浦川 浩	先端医療開発部	1,690,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
臨床情報と人工知能を基盤とした卵巣腫瘍診断システムの構築	池田 芳紀	産科婦人科	1,820,000	補委	独立行政法人日本学術振興会

細胞老化からアプローチする子宮内膜症の病態解明と新規治療の確立	中村 智子	産科婦人科(総合周産期(生殖))	1,820,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
新規細胞接着選択性ペプチド付加工神経を用いた神経再生に関する基礎的研究	姥沢 克己	形成外科	1,820,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
OAT ユニットを利用した電子的診療プロセス標準化のための取り組み	白鳥 義宗	メディカルITセンター	1,950,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
医療資源適正化の定量的評価法の開発と地域医療データプラットフォームの構築	佐藤 菊枝	メディカルITセンター	1,820,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
大腸癌における病理学的転移陰性腫大リンパ節の免疫微小環境と新規治療戦略の構築	小倉 淳司	消化器外科一	1,950,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
進行再発子宮体癌における免疫トランス維持機構の解明	清水 裕介	産科婦人科(病院戦略室)	1,820,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
腫瘍微小環境局所で産生される補体が腫瘍免疫を制御する機構の解明とその制御法の開発	宮井 雄基	化学療法部	3,250,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
肺癌切除症例の所属リンパ節におけるmetastatic toleranceの術後遠隔転移形成への影響	中川 暢彦	消化器外科二	2,470,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
網羅的糖鎖解析による免疫介在性ニューロパチーの病態解明と個別化治療の開発	深見 祐樹	脳神経内科	2,340,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
脊髄小脳変性症に対するHALを用いた在宅運動療法の開発と有効性の機序解明	岸本 祥之	脳神経内科	2,470,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
ALS患者におけるエンドカンナビノイドおよびSアリルシステイン代謝異常の進行病態解明	伊藤 大輔	脳神経内科	2,340,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
進行胆道癌術前の経皮経肝門脈塞栓術による肝血流・機能変化:4D-Flow MRIとCFD解析	兵藤 良太	放射線科	2,730,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
先進的脳画像解析によるドラベ症候群の脳内ネットワーク異常と微細構造異常の解明	伊藤 祐史	小児科	2,730,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
シングルセルシーケンスを用いた小児急性肝不全の病態解析	鈴木 高子	小児科	1,820,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
プレバイオティクスによる腸内細菌叢改変と難治性門脈血栓症、門脈圧亢進症治療の開発	横山 晋也	消化器内科(救急診療等運営本部)	1,170,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
炎症性腸疾患関連大腸がんの腫瘍微小環境の特殊性の解明	石川 恵里	消化器内科	1,820,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
細胞外小胞と自己抗体産生	桃原 真理子	皮膚科	2,990,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
Dorfman-Chanarin症候群の病態解析および新規治療戦略の開拓	滝 奉樹	皮膚科	2,340,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
CRISPR-Cas9スクリーニング法による初回治療抵抗性を克服するCAR-T細胞療法最適化	葉名尻 良	血液内科	1,690,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
抗PD-1抗体誘発破壊性甲状腺炎マウスモデルを用いた甲状腺irAE非再発機序の解明	安田 康紀	糖尿病・内分泌内科	2,340,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
腹腔洗浄液中mRNA発現解析による胃癌腹膜播種再発予測と化学療法効果判定法の開発	中西 香企	消化器外科二	2,860,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
心不全に対する微弱電流治療用心臓ネット電極の開発	秋田 翔	心臓外科	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
脳深部構造てんかんコネクトームの可視化と定量的深部焦点離断術の開発研究	石崎 友崇	脳神経外科	2,080,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
髄液中EVs由来microRNAの網羅的解析によるもやもや病の病態解明	横山 欣也	脳神経外科	2,470,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
早発排卵機序の解明を目指したヒトiPS細胞由来生殖中樞のin vitroモデル作成	三宅 菜月	産科婦人科	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会

網膜色素変性に対する進行評価法の確立	小南 太郎	眼科	1,170,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
臨床試験におけるRisk-based Data Managementの実装	木下 文恵	先端医療開発部	1,430,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
ノンレム睡眠とカタプレキシーにおける覚醒ニューロンの活動動態とその役割の解明	伊藤 洋人	脳神経内科	331,100	補委	独立行政法人日本学術振興会
統合失調症患者のゲノム解析を基盤とした新規治療戦略の創生	田中 里奈子	薬剤部	331,100	補委	独立行政法人日本学術振興会
シングル核解析を用いた腎線維症における尿細管細胞の役割、細胞間ネットワークの解明	道家 智仁	腎臓内科学	331,100	補委	独立行政法人日本学術振興会
心原性ショックに対するTheragnostic Anticoagulationに向けた生体応答ダイナミクス	風間 信吾	救急科	331,100	補委	独立行政法人日本学術振興会
ゲノム編集マウスを用いたミオシン遺伝子異常による不整脈発症メカニズムの解明	大橋 直樹	小児科(小児循環器センター)	331,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
細菌叢を用いた十二指腸乳頭腫瘍の診断と進行メカニズムの同定	高田 善久	消化器内科	331,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
体外式膜型人工肺離脱後の全身性炎症反応に対する治療の個別最適化に向けた病態解明	本多 純太	救急科	331,100	補委	独立行政法人日本学術振興会
小児専門病院に求められる安全管理体制に関する研究	山本 啓央	患者安全推進部	331,100	補委	独立行政法人日本学術振興会
多角的アプローチに基づく女性の心血管疾患リスク軽減に向けた疾病予防モデルの構築	田野 翔	産科婦人科	331,100	補委	独立行政法人日本学術振興会
マルチモビリティ時代の臨床推論モデルの開発研究	宮地 純一郎	総合医学教育センター	330,400	補委	独立行政法人日本学術振興会
医学生関連インシデントの実態把握と仮想体験を用いた患者安全教育ツール開発の研究	栗原 健	患者安全推進部	330,900	補委	独立行政法人日本学術振興会
稀少難治性皮膚疾患に関する調査研究	秋山 真志	皮膚科学	36,000,000	補委	国立保健医療科学院
院内の医療安全管理体制を定量的に評価する指標の確立と実装を行う研究	長尾 能雅	患者安全推進部	5,001,000	補委	厚生労働省
薬剤師のキャリア形成促進に関する研究	山田 清文	薬剤部	3,300,000	補委	厚生労働省
レビー小体病ハイリスク者に対するゾニサミドの有効性・安全性に関する研究	勝野 雅央	神経内科学	84,190,527	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
患者層別化マーカー探索技術の開発 / 医療ニーズの高い特定疾患・薬剤に対する患者層別化基盤技術の開発	勝野 雅央	神経内科学	2,600,000	補委	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
肺尖部胸壁浸潤癌に対する化学放射線療法後の術前後デュルバルマブもしくはデュルバルマブ維持療法を併用した集学的治療に関する単群検証的試験(JCOG1807C)	芳川 豊史	呼吸器外科学	1,300,000	補委	国立研究開発法人国立がん研究センター
精神疾患のヒトゲノム変異を基盤とする神経回路・分子病態に関する研究	尾崎 紀夫	精神疾患病態解明学	42,354,000	補委	学校法人藤田学園
精神疾患レジストリの利活用による治療効果、転帰予測、新たな層別化に関する研究	尾崎 紀夫	精神疾患病態解明学	13,000,000	補委	国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター
GD2陽性固形腫瘍に対する非ウイルスベクターを用いたキメラ抗原受容体T細胞製剤の開発	高橋 義行	小児科学	95,095,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
小児および若年成人における再発難治CD19陽性B細胞性急性リンパ性白血病に対する同種造血細胞移植後維持療法の確立に関する研究	高橋 義行	小児科学	4,680,000	補委	国立研究開発法人国立成育医療研究センター
患者レジストリを利活用した脊柱靭帯骨化症の治療成績向上のための多施設臨床研究	今釜 史郎	整形外科	780,000	補委	国立大学法人東京医科歯科大学
血液バイオマーカーを用いた超早期アルツハイマー病コホートの構築	勝野 雅央	神経内科学	11,700,000	補委	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター

ヒト多能性幹細胞を用いた下垂体前葉機能低下症への再生医療技術開発	須賀 英隆	糖尿病・内分泌内科学	26,000,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
難治性腎疾患の疾患・重症度分類の再定義に向けた研究開発	丸山 彰一	腎臓内科学	13,000,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
喉頭摘出者における音声変換技術を用いた自己音声の再獲得と発声補助機器の開発	西尾 直樹	耳鼻咽喉科学	17,160,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
孤発性ALS患者メタボローム・エクソソームmiRNA・蛋白質メチル化を起点とする双方向TR	勝野 雅央	神経内科学	49,660,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
デュラル修飾型アンチセンス核酸を用いた癌種横断的な新規治療薬の研究開発	神田 光郎	消化器外科学	29,900,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
統合失調症と自閉スペクトラム症の多階層情報の統合による病態解明	尾崎 紀夫	精神疾患病態解明学	105,170,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
無意識下の運動制御を基にした手術技術の均等化・標準化に関する研究開発	建部 将広	手の外科学	9,100,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
神経科学を活用する複合性局所疼痛症候群に対する intelligent neuromodulation system の開発	平田 仁	手の外科学	62,400,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
可及的摘出術が行われた初発膠芽腫に対するカルムスチン脳内留置用剤を用いた標準治療確立に関する研究	齋藤 竜太	脳神経外科学	1,300,000	補 委	学校法人北里研究所
臓器・組織の特異性に着目した新規免疫複合療法の開発	齋藤 竜太	脳神経外科学	1,300,000	補 委	国立研究開発法人国立がん研究センター
初発中枢神経原発胚細胞腫瘍に対する化学療法併用放射線治療の低侵襲化に関する研究開発	齋藤 竜太	脳神経外科学	260,000	補 委	国立大学法人京都大学
ウイルス感染時の膜とイオンダイナミクスに関する研究開発	山内 洋平	研究科長枠(大学院)	9,750,000	補 委	国立大学法人北海道大学
災害時における感覚器障害者の援助要請手段と効果的な支援提供を実現する双方向連携システムの開発と社会実装にむけた効果検証	吉田 忠雄	耳鼻咽喉科学	650,000	補 委	北海道公立大学法人 札幌医科大学
慢性腎臓病の発症・進展に関するヘルスケアサービスやデジタル技術介入の提言に資するエビデンスの構築	丸山 彰一	腎臓内科学	1,300,000	補 委	国立大学法人大阪大学
固形腫瘍の代謝チェックポイントを打破するCART細胞療法の開発	齋藤 竜太	脳神経外科学	1,300,000	補 委	国立研究開発法人国立がん研究センター
向精神薬が自動車運転技能に与える影響の判定基準の開発	岩本 邦弘	精神医学	7,020,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
球脊髄性筋萎縮症に対する適正治療エビデンス創出のためのリアルワールドデータベース整備	橋詰 淳	臨床研究教育学(神経内科学)	13,000,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
精神科トランスレーショナルリサーチの推進に向けた精神医学研究システムの開発	尾崎 紀夫	精神疾患病態解明学	3,510,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
新型コロナウイルス感染症後遺症の病態生理の多分野融合による解明	石井 誠	呼吸器内科学	15,600,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
特殊環状ペプチドによる癌種横断的な新規分子標的治療薬の探索	神田 光郎	消化器外科学	13,500,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
早期転移発見による予後の向上を目指した乳がん術後の新たな標準的フォローアップ法開発に関する研究	増田 慎三	乳腺・内分泌外科学	455,000	補 委	学校法人埼玉医科大学
局所進行胃癌に対する術前化学療法の有効性を検証する第III相試験	神田 光郎	消化器外科学	910,000	補 委	静岡県立静岡がんセンター
本邦における初発急性前骨髄球性白血病に対するATRA・ATO併用分化誘導療法の確立	石川 裕一	血液・腫瘍内科学	2,600,000	補 委	国立大学法人筑波大学
高齢者初発膠芽腫に対する分子分類に応じたテモゾロミド併用寡分割放射線治療の最適化に関する研究開発	齋藤 竜太	脳神経外科学	130,000	補 委	国立大学法人京都大学
運動ニューロン疾患におけるシナプスを介した神経変性機構の解明	勝野 雅央	神経内科学	2,600,000	補 委	学校法人愛知医科大学

髄芽腫、非定型奇形腫様ラブリド腫瘍、上衣腫に対する標準治療開発を目的とした多施設共同研究	齋藤 竜太	脳神経外科学	130,000	補 委	地方独立行政法人 大阪市民病院機構 大阪市立総合医療センター
病的バリエーションを有する遺伝性認知症を対象としたコホート構築による病態解明、バイオマーカー開発、治験促進	勝野 雅央	神経内科学	1,950,000	補 委	国立大学法人 信州大学
多分野融合研究によるHTLV-1感染症のウイルス感染病態全容解明	加留部 謙之輔	臓器病態診断学	1,300,000	補 委	国立大学法人 熊本大学
原因不明の小児急性肝炎の実態把握、病原体検索、病態解明と治療法の開発	川田 潤一	小児科学	3,120,000	補 委	国立研究開発法人国立国際医療研究センター
網膜色素変性の病因遺伝子変異とその臨床像に関するエビデンス構築	西口 康二	眼科学	650,000	補 委	国立大学法人宮崎大学
乳児期早期発症のアトピー性皮膚炎を追跡しアレルギーマーカーへの影響を探索する前向きコホート研究 (PACI-ON コホート)	秋山 真志	皮膚科学	650,000	補 委	国立研究開発法人国立成育医療研究センター
移植医療への応用を想定した動物由来臓器の品質・有効性・安全性評価法に関する研究開発	芳川 豊史	呼吸器外科学	650,000	補 委	国立大学法人鹿児島大学
ストレスを介する疾病発症の分子メカニズムの解明とバイオマーカー検出技術創成	尾崎 紀夫	精神疾患病態解明学	9,100,000	補 委	国立大学法人北海道大学
先天的/後天的構造多型に着目した免疫/精神疾患病態解明に関する研究開発	池田 匡志	精神医学	3,900,000	補 委	国立研究開発法人理化学研究所
先天性および若年発症の視覚聴覚二重障害の難病に対する診療エビデンスの創出	曾根 三千彦	耳鼻咽喉科学	520,000	補 委	独立行政法人国立病院機構東京医療センター
造影病変全切除可能な初発膠芽腫に対する標準的手術法確立に関する研究	齋藤 竜太	脳神経外科学	260,000	補 委	国立大学法人山形大学
表情から認知症を判別するアプリの開発研究	梅垣 宏行	地域在宅医療学・老年科学	1,950,000	補 委	国立大学法人東京大学
びまん性内性橋グリオーマ (DIPG) のレジストリ構築および緩和ケアの実態解明を目的とした多施設共同前方向視的観察研究	齋藤 竜太	脳神経外科学	130,000	補 委	学校法人埼玉医科大学
全ゲノムデータ基盤新規作用機序抗精神病薬探索プラットフォームの開発	池田 匡志	精神医学	650,000	補 委	学校法人藤田学園
Polygenicモデルに基づく精神疾患治療反応予測法開発と新規候補遺伝子同定	池田 匡志	精神医学	15,600,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
PDX治療モデルと継続的臨床検体の統合的マルチオミクス解析に基づく急性骨髄性白血病の分子層別化と難治性クローン克服に向けた治療戦略の構築に関する研究	清井 仁	血液・腫瘍内科学	24,700,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
パーキンソン病に対する長期間作用型核酸医薬の開発	勝野 雅央	神経内科学	32,500,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
網膜色素変性に対する革新的なcDNA挿入型ゲノム編集遺伝子治療の開発	西口 康二	眼科学	26,000,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
中枢性尿崩症の小胞体ストレス軽減を標的とした創薬開発研究	有馬 寛	糖尿病・内分泌内科学	77,571,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
肺癌における免疫チェックポイント阻害感受性増強のための間質コンディショニング法の開発	川嶋 啓揮	消化器内科学	39,000,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
手術画像解析データに基づく希少性疾患 (胆道閉鎖症・胆道拡張症・食道閉鎖症) ナビゲーション手術システムの開発	内田 広夫	小児外科学	6,500,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
ヒト特異的RNA-タンパク質結合異常から迫る筋萎縮性側索硬化症の病態解明、治療法研究	横井 聡	神経内科学	27,300,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
キメラ抗原受容体を樹状細胞に組み込んだ新規細胞療法に関する研究開発	粕谷 英樹	国際連携室 (消化器外科学)	36,023,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
精神疾患リスクバリエーションに基づくモデル系の活用と多モダリティ産学連携による創薬シーズ及び層別化バイオマーカー開発	尾崎 紀夫	精神疾患病態解明学	29,900,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
造血器腫瘍における臓器浸潤と治療抵抗性を規定する分子病態の同定と治療標的としての妥当性を検証する研究	清井 仁	血液・腫瘍内科学	13,000,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構

小児上衣腫に対する手術摘出度と分子学的マーカーを用いた治療層別化による集学的治療の安全性と有効性確立に向けた研究開発	齋藤 竜太	脳神経外科学	19,500,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
神経芽腫及び褐色細胞腫における3-Methoxytyramine sulfate/3-Methoxytyramine定量技術の確立と実用化	天野 日出	小児外科学	13,000,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
Polygenicモデルと薬物動態学に基づく精神疾患治療反応予測法開発	池田 匡志	精神医学	39,000,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
ノンコーディング領域を考慮した大規模ゲノムワイドコピー数変異による精神疾患発症リスク予測モデルの開発	中柄 昌弘	先端医療開発部	6,780,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
筋萎縮性側索硬化症の診療に直結するリアルワールドエビデンスの創出	中柄 昌弘	先端医療開発部	650,000	補 委	学校法人愛知医科大学
孤発性筋萎縮性側索硬化症の双方向トランスレーショナル研究による病態介入標的の同定と核酸医薬の開発研究	中柄 昌弘	先端医療開発部	650,000	補 委	学校法人愛知医科大学
小児から成人をシームレスに対象としたB前駆細胞性急性リンパ性白血病に対する前方視的臨床試験による標準治療の開発研究	早川 文彦	血液内科	325,000	補 委	埼玉県立小児医療センター
遺伝性腫瘍に見られるVUSに対する、包括的in vivoスクリーニングとin silico構造解析を融合した高精度機能的アノテーション	中柄 昌弘	先端医療開発部	2,600,000	補 委	国立大学法人岡山大学
小児から成人を対象にする臨床試験によるT細胞性急性リンパ性白血病の小児型治療適用限界年齢の検討と新規バイオマーカー探索に関する研究	早川 文彦	血液内科	4,160,000	補 委	千葉大学医学部附属病院
経皮的冠動脈形成術後の重症化予防を目的とする遠隔行動変容支援と外来診療との効果的連携に関する研究開発	中柄 昌弘	先端医療開発部	1,768,000	補 委	学校法人愛知医科大学
経口セマグルチドのパーキンソン病に対する有効性検証および用量探索試験	勝野 雅央	神経内科学	2,730,000	補 委	国立大学法人大阪大学
臨床病期I/II/III食道癌(T4を除く)に対する胸腔鏡下手術と開胸手術のランダム化比較第III相試験	安藤 昌彦	先端医療開発部	650,000	補 委	学校法人 慶應義塾
双方向トランスレーショナルアプローチによる精神疾患の脳予測性障害機序に関する研究開発	山本 真江里	精神科	6,500,000	補 委	国立大学法人東京大学
症候性先天性サイトメガロウイルス感染症を対象としたバルガンシクロビル治療の開発研究	城所 博之	小児科	1,950,000	補 委	国立大学法人東京大学
FGFR3シグナル抑制による軟骨無形成症治療薬の実用化開発研究	松下 雅樹	整形外科	76,225,500	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
進行非小細胞肺癌に対する複合免疫療法の標準治療確立のためのランダム化比較第III相試験	安藤 昌彦	先端医療開発部	1,300,000	補 委	国立大学法人九州大学
未治療低腫瘍量濾胞性リンパ腫に対するリツキシマブ早期介入に関するランダム化比較第 相試験	島田 和之	血液内科	195,000	補 委	国立大学法人山形大学
オールジャパン拡張型心筋症ゲノムコホート研究によるゲノム医療の発展	奥村 貴裕	循環器内科(重症心不全治療センター)	650,000	補 委	国立大学法人東京大学
間葉系幹細胞治療用中空糸膜カラムの開発	古橋 和弘	腎臓内科	22,750,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
高齢者切除不能局所進行非小細胞肺癌に対する化学放射線療法ランダム化比較第III相試験	安藤 昌彦	先端医療開発部	1,300,000	補 委	静岡県立静岡がんセンター
「一過性骨髄異常増殖症(TAM)に対する標準化学療法確立を目指した第2相臨床試験」の開発	村松 秀城	小児科	10,400,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
日本ブレインバンクネット(JBBN)による精神・神経疾患死後脳リソース基盤の強化に関する研究開発	鳥居 洋太	精神科	4,290,000	補 委	国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター
国産既存薬の新効能による膀胱がんの中間初期治療法の開発と第I/II相医師主導試験の実施	川嶋 啓揮	消化器内科学	78,000,000	補 委	国立大学法人東京大学
ROS1融合遺伝子陽性の進行固形がんに対する治療開発を目指した研究	森瀬 昌宏	呼吸器内科学	390,000	補 委	国立研究開発法人国立がん研究センター
慢性活動性Epstein-Barrウイルス感染症の起因となるウイルス感染細胞の特定	村松 秀城	小児科	1,300,000	補 委	公立大学法人名古屋市立大学

再生医療等製品用ヒト(同種)体性幹細胞原料となる高品質な細胞原料の安定供給体制の構築に関する研究開発	小谷 友美	産婦人科学(総合周産期(生殖))	3,250,000	補 委	株式会社ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング
FLNAを標的とした進行性核上性麻痺の病態解明と治療法開発	佐橋 健太郎	神経内科学	15,600,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
サブプレート神経活動のダイナミズムによる脳神経回路の発達機構	城所 博之	小児科	13,000,000	補 委	公益財団法人東京都医学総合研究所
成人発症スチル病(AOSD)に対する5-アミノレプリン酸塩塩/クエン酸第一鉄ナトリウム(5-ALA HCL/SFC)投与の医師主導治験	近藤 猛	総合診療科	2,600,000	補 委	国立大学法人長崎大学
間質変容誘導による免疫チェックポイント阻害剤感受性改善薬の開発	飯田 忠	消化器内科(救急診療等運営本部)	13,910,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
オートファジー病SENDA/BPANに対する遺伝子治療開発	城所 博之	小児科	1,950,000	補 委	学校法人自治医科大学
患者レジストリJapan PH Registryを活用した肺動脈性肺高血圧症に対する抗IL-6受容体抗体適応拡大のための医師主導治験	足立 史郎	循環器内科	650,000	補 委	学校法人国際医療福祉大学
日本全地域で心不全診療連携を最適化するAI実装DtoDシステムの開発と実用化	奥村 貴裕	循環器内科(重症心不全治療センター)	5,200,000	補 委	国立研究開発法人国立循環器病研究センター
切除可能肝細胞癌に対する陽子線治療と外科的切除の非ランダム化同時対照試験	安藤 昌彦	先端医療開発部	1,300,000	補 委	国立研究開発法人国立がん研究センター
直腸癌局所再発に対する標準治療確立のための研究開発	安藤 昌彦	先端医療開発部	1,040,000	補 委	国立研究開発法人国立がん研究センター
HBV occDNAの産生と維持に関わるウイルスおよび宿主因子の探索	本多 隆	消化器内科	13,000,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
進行軟部肉腫に対する二次治療における標準治療の開発のための研究	西田 佳弘	整形外科(リハビリテーション科)	390,000	補 委	国立大学法人大分大学
精神疾患の個別化医療を実現するためのゲノム・空間オミクス多施設共同研究	久島 周	精神医学	47,450,000	補 委	国立研究開発法人国立国際医療研究センター
アトピー性皮膚炎をモデルとした次世代リパーシブスレーショナル研究基盤構築に向けた研究	小川 靖	先端医療開発部	651,612	補 委	学校法人 慶應義塾
医療施設における標準コードの効率的なマッピング手法に関する調査および実証研究	白鳥 義宗	メディカルITセンター	234,000	補 委	国立大学法人九州大学
経口セマグルチドのパーキンソン病に対する有効性検証および用量探索試験	勝野 雅央	神経内科学	3,510,000	補 委	国立大学法人大阪大学
微量体液中エクソソーム解析による革新的がん腹膜播種バイオマーカー開発	横井 暁	産科婦人科	6,500,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
補剤の免疫賦活能を介した新たな養子細胞療法強化戦略	芳川 修久	産科婦人科	3,900,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
網羅的免疫解析に基づくCAR-T細胞療法の効果予測・判定および造血細胞移植適応決定のためのバイオマーカー開発	寺倉 精太郎	血液内科	7,800,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
All Japan 大規模レジストリデータを背景とした間質性肺炎の治療プログラム及びデバイスの開発	古川 大記	メディカルITセンター	26,000,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
糖鎖と神経細胞活動の動的因果関係から明らかにする3q29欠失症候群の病態	有岡 祐子	精神疾患病態解明学	4,931,898	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
ビデオゲームを用いた実行機能介入による注意欠如多動症の治療機器の研究開発	高橋 長秀	親と子どもの心療科	25,905,209	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
網膜神経回路機能に着目した脳-感覚ネットワークの統合的理解に基づく発達障害の治療戦略の構築	小南 太郎	眼科	4,290,000	補 委	国立大学法人大阪大学
コラーゲン結合能付加C型ナトリウム利尿ペプチドによる軟骨再生療法の開発	松下 雅樹	整形外科	500,000	補 委	国立大学法人岡山大学
高齢発症関節リウマチ患者の健康寿命延伸を目指した治療戦略の確立	浅井 秀司	整形外科	195,000	補 委	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター

cT1-4aN0-3胃癌におけるロボット支援下胃切除術の腹腔鏡下胃切除術に対する優越性を検証するランダム化比較試験	安藤 昌彦	先端医療開発部	1,300,000	補 委	静岡県立静岡がんセンター
切除不能な肝門部領域胆管癌に対する生体肝移植	小倉 靖弘	移植外科	325,000	補 委	国立大学法人 熊本大学
実践研修の実施と検証による研究マネジメント人材育成及びネットワーク構築に関する研究	清水 忍	先端医療開発部	1,040,000	補 委	学校法人藤田学園
ゲノムバリエーションがもたらす細胞運命変化を予測する深層学習技術の開発	奥村 啓樹	精神疾患病態解明学	8,580,000	補 委	国立大学法人東京医科歯科大学
腸換気法をいれた酸素化補助・救急療法の市販剤投与機器開発に関する研究開発	藤井 祐	麻酔科	5,200,000	補 委	国立大学法人東京医科歯科大学
注射薬治療の効率化を目指した中央IRBおよびDCTの活用	水野 正明	先端医療開発部	3,575,000	補 委	愛知県がんセンター
血管新生阻害剤への治療抵抗性を克服するがん治療法の検証	吉原 雅人	産科婦人科	1,300,000	補 委	国立大学法人福井大学
肺高血圧症患者レジストリとマルチオミクスデータベースを活用した難病デジタルツインモデルの構築	足立 史郎	循環器内科	1,300,000	補 委	学校法人国際医療福祉大学
小児から成人に移行する慢性心筋炎の診断基準策定のための実態調査	奥村 貴裕	循環器内科(重症心不全治療センター)	650,000	補 委	国立大学法人三重大学
電波式胸部運動センサの研究開発	沼口 敦	救急・内科系集中治療部	195,000	補 委	学校法人聖マリアンナ医科大学
QbDの概念が導入された業務フローの活用による多職種連携の研究計画支援体制・方法の汎用化に向けた検討	嶽塚 八千代	先端医療開発部	1,300,000	補 委	国立大学法人東海国立大学機構岐阜大学
ブレインアトラス創生による精神神経疾患のシングルセル・ゲノム創薬	有岡 祐子	精神疾患病態解明学	1,170,000	補 委	国立大学法人東京大学
再発・難治性悪性リンパ腫に対するpiggyBacトランスポゾン法によるCD19キメラ抗原受容体遺伝子改変自己T細胞の安全性及び有効性に関する第1/2相医師主導治験	高橋 義行	小児科学	100,100,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
「若年性骨髄単球性白血病(JMML)に対する標準的化学療法」の確立を目指した第2相臨床試験」の開発	村松 秀城	小児科	88,140,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
尿路上皮がんに対する合成レチノイド AM80 と免疫チェックポイント阻害剤併用療法の医師主導治験のためのプロトコール作成	大脇 貴之	救急科	5,200,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
ネフローゼ型膜性腎症に対するリツキシマブの検証的医師主導治験の実施	丸山 彰一	腎臓内科学	71,500,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
悪性中皮腫に対する新規ドラッグデリバリーシステムを用いた個別化治療の開発	田中 一大	呼吸器内科	26,000,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
CRISPR-Cas9 sgRNA ライブラリによる生体内ノックアウトスクリーニングを用いた卵巣奇形腫悪性転化に対する創薬シーズの探索と開発	玉内 学志	産科婦人科	6,500,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
体細胞遺伝子変異の in-situ 診断のための高感度蛍光プローブの開発	長谷 哲成	呼吸器内科	27,300,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
膵がん間質初期化治療法の薬物予測バイオマーカーの開発	水谷 泰之	消化器内科	6,500,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
Unravelling the structural and functional landscape of DNA Damage Response pathway in immune cells and Cardiovascular Disease	由良 義充	循環器内科(救急診療等運営本部)	2,600,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
がん悪液質に伴う代謝異常に基づく早期診断・胆道癌診断AIの開発	馬場 泰輔	消化器外科一	10,010,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
Disentangling underlying mechanism of cross-talk between the gut-brain axis to influence brain behavior functionality	前田 啓子	消化器内科	2,992,600	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
Impact of the B cell signaling pathway on the spontaneous remission of cancer	若松 学	小児科	3,999,970	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
網膜色素変性に対するEYS変異特異的ゲノム編集遺伝子治療の開発	西口 康二	眼科学	12,700,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構

胃癌腹膜播種に特化したアンチセンス核酸医薬開発	神田 光郎	消化器外科学	77,478,900	補 ⑤ 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
拡張型心筋症に対するテラーメイド方式心臓形状矯正ネットの医師主導治験	秋田 利明	心臓外科学	76,088,805	補 ⑤ 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
ヒト脳神経発生を正確に再現し、測れなかったものを測る	須賀 英隆	糖尿病・内分泌内科学	7,800,000	補 ⑤ 委	国立研究開発法人科学技術振興機構
Contact Reality の実現による遠隔触診システム開発	平田 仁	手の外科学	43,682,000	補 ⑤ 委	国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構
完全な炎症制御による先天性魚鱗癬の克服	武市 拓也	皮膚科学	8,450,000	補 ⑤ 委	国立研究開発法人科学技術振興機構
HER2陽性乳癌のT-DXd治療に対するオランザピン併用制吐療法の有効性を検討するプラセボコントロール二重盲検ランダム化第 Ⅲ 相比較試験 (ERICA)	増田 慎三	乳腺・内分泌外科学	128,700	補 ⑤ 委	特定非営利活動法人西日本がん研究機構
わが国の小児がんサバイバーの健康・社会生活状況の実態解明に関する大規模調査研究	高橋 義行	小児科学	700,000	補 ⑤ 委	特定非営利活動法人日本小児がん研究グループ
Contact Reality の実現による遠隔触診システム開発	下田 真吾	手の外科学	5,507,983	補 ⑤ 委	国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構
細胞外微粒子への生体応答と発がん・動脈硬化症との関連の解析(豊田・分担)	室原 豊明	循環器内科	13,390,000	補 ⑤ 委	国立研究開発法人科学技術振興機構
電子カルテ情報活用型多施設症例データベースを利用した糖尿病に関する臨床情報収集に関する研究	有馬 寛	糖尿病・内分泌内科学	300,000	補 ⑤ 委	国立研究開発法人国際医療研究センター
高齢者運動器疾患における老化を基盤とした包括的診療体系の共創	今釜 史郎	整形外科	1,800,000	補 ⑤ 委	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
高齢者運動器疾患における老化を基盤とした包括的診療体系の共創	伊藤 定之	整形外科	1,500,000	補 ⑤ 委	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
NCNPブレインバンクの運営およびブレインバンク生前登録システムの推進	木村 大樹	精神医学	1,000,000	補 ⑤ 委	国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター
高齢者総合機能評価 (CGA) ガイドラインの作成研究	梅垣 宏行	地域在宅医療学・老年科学	600,000	補 ⑤ 委	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
高齢者における院内死亡、転倒、耐性菌感染、新興再興感染症(インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症、結核等)に関する研究	八木 哲也	臨床感染統御学	800,000	補 ⑤ 委	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
レビー小体病の早期診断・治療効果判定に資する高精度バイオマーカー開発および感覚刺激による身体機能の変化に対する脳神経機能の解析	勝野 雅央	神経内科学	2,000,000	補 ⑤ 委	国立研究開発法人長寿医療研究センター
老年症候群に対する循環器病管理による影響を明らかにするための、多施設共同の包括的縦断観察研究	因田 恭也	循環器内科	900,000	補 ⑤ 委	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
高齢者の感覚器機能/加齢性疾患の身体機能に与える影響および新規予防・治療法の開発に関する研究	西口 康二	眼科学	500,000	補 ⑤ 委	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
全世代対応型遠隔メンタルヘルスクアシステム(KOKOROBO-J)によるメンタルヘルスプラットフォームの開発・社会実装拠点に関する名古屋大学による研究開発	尾崎 紀夫	精神疾患病態解明学	1,040,000	補 ⑤ 委	国立研究開発法人科学技術振興機構
分散・協調遠隔操作による生体内CAの投薬モニタリングと実証評価	川嶋 啓揮	消化器内科	107,796,000	補 ⑤ 委	国立研究開発法人科学技術振興機構
Awareness AIによる神経系異常からの回復実験	平田 仁	手の外科学	29,991,000	補 ⑤ 委	国立研究開発法人科学技術振興機構
主体的な行動変容を促すAwareness AIロボットシステム開発	下田 真吾	手の外科学	27,950,000	補 ⑤ 委	国立研究開発法人科学技術振興機構
平田PJと連携したAwareness AI実証実験	下田 真吾	手の外科学	48,945,000	補 ⑤ 委	国立研究開発法人科学技術振興機構
サイバネティック・アバター技術によるフレイル治療に向けた内在的能力賦活化	平田 仁	手の外科学	41,600,000	補 ⑤ 委	国立研究開発法人科学技術振興機構
Contact Reality の実現による遠隔触診システム開発	下田 真吾	手の外科学	13,795,700	補 ⑤ 委	国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構

睡眠ポリグラフデータバンクの拡充およびこれを活用した睡眠障害・精神神経疾患の病態解明と生理学的診断マーカー・治療法開発	岩本 邦弘	精神医学	530,000	補 委	国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター
胎児発育不全に対するタダラフィル母体経口投与の有効性・安全性に関する臨床試験プラセボ対照ランダム化比較第 相多施設共同研究	小谷 友美	産科婦人科	343,200	補 委	国立大学法人三重大学
がん細胞外小胞の臨床応用へ向けた基盤技術開発研究	横井 暁	産科婦人科	8,970,000	補 委	国立研究開発法人科学技術振興機構
肺腫瘍塞栓性微小血管症(PTTM)に対するイマチニブの有効性と安全性に関する探索的臨床研究	足立 史郎	循環器内科	200,000	補 委	国立大学法人東京大学
生体もつ巧妙な炎症制御機構の解明から治療応用へ	古橋 和弘	腎臓内科	7,800,000	補 委	国立研究開発法人科学技術振興機構
ONO-7913(抗CD47抗体・Magrolimab)の輸血前検査に及ぼす影響の検証とその対処法の確立に関する研究	松下 正	輸血部	2,376,864	補 委	一般社団法人日本輸血・細胞治療学会
多施設共同研究におけるがん患者に対する適切なQOL評価法確立のための研究	安藤 昌彦	先端医療開発部	800,000	補 委	国立研究開発法人国立がん研究センター
中津川市阿木地区における減塩対策事業の効果評価研究	佐藤 寿一	総合診療科	2,564,500	補 委	中津川市
地域在住高齢者および関節リウマチ患者におけるフレイル、サルコペニア、ロコモティブシンドロームに関する疫学調査	寺部 健哉	整形外科	600,000	補 委	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
老年症候群における血液学的老化の研究	安藤 雄一	化学療法部	700,000	補 委	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
フレイル高齢者のレジストリ研究及びロコモ、サルコペニアを含めた病態解明及び予防介入法の確立を目指した臨床ならびに関連研究	小宮 仁	地域連携・患者相談センター	600,000	補 委	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
老年症候群における血液学的老化の研究	松下 正	輸血部	700,000	補 委	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
COVID-19患者サンプル及び輪状データ収集、microRNAの変化などの評価	春日井 大介	救急科	1,216,388	補 委	独立行政法人沖縄工業高等専門学校
代謝物臭センシングによる難発見悪性腫瘍の非開腹早期検出の概念実証	横井 暁	産科婦人科	7,150,000	補 委	国立研究開発法人科学技術振興機構
「共生社会」をつくるアートコミュニケーション共創拠点に関する国立大学法人東海国立大学機構名古屋大学による研究開発	杉下 明隆	先端医療開発部	3,900,000	補 委	国立研究開発法人科学技術振興機構
クローン性造血を介した加齢性心血管病の病態解明	由良 義充	循環器内科	9,100,000	補 委	国立研究開発法人科学技術振興機構
神経難病におけるナショナルセンターによる臨床開発促進のための基盤整備とレギュラトリーサイエンスの推進	清水 忍	先端医療開発部	300,000	補 委	国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター
EGFR 遺伝子増幅陽性切除不能固形がんに対するネツムマブの第 相II バスケット試験	小寺 泰弘	消化器外科学	2,861,300	補 委	特定非営利活動法人西日本がん研究機構
難治性irAE肝障害の予後改善を目指した肝内病理学的解析と治療効果予測バイオマーカーの検討	伊藤 隆徳	消化器内科	1,000,000	補 委	国立研究開発法人国際医療研究センター
心臓サルコイドシス再燃例に対するメトトレキサート併用投与の有効性に関する探索的無作為化比較試験(MYSTICS-RCT)	奥村 貴裕	循環器内科	350,000	補 委	国立研究開発法人国立循環器病研究センター

計493件

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Imai K, Takeuchi Y, Terakura S 他	血液内科	Dual CAR-T cells targeting CD19 and CD37 are effective in target antigen loss B cell tumor models.	Mol Cancer Ther. 2024 Mar 4;23(3):381-393.	Original Article
2	Takagi E, Terakura S, Fujigaki H 他	血液内科	Antibody response after third dose of COVID-19 mRNA vaccination in allogeneic hematopoietic stem cell transplant recipients is comparable to that in healthy counterparts	Int J Hematol. 2023 Oct;118(4):462-471.	Original Article
3	Tsuji Y, Yamazaki M, Shimojo M 他	循環器内科	Mechanisms of torsades de pointes: an update.	Front Cardiovasc Med. 2024 Mar 5;11:1363848.	Review
4	Yanagisawa S, Inden Y, Tsuji Y 他	循環器内科	Reply: Methodological and Mechanistic Considerations in Local Repolarization Mapping.	JACC Clin Electrophysiol. 2024 Feb;10(2):378.doi: 10.1016/j.jacep.2024.01.009.	Letter
5	Mizutani Y, Yanagisawa S, Inden Y	循環器内科	Editorial to "pseudo-slow-fast atrioventricular nodal reentrant tachycardia: Is the fast pathway a criminal or innocent bystander?".	J Arrhythm. 2023 Dec 13;40(1):146-147.doi: 10.1002/joa3.12978. eCollection 2024 Feb.	Others
6	Kawamura M, Shimojo M, Inden Y 他	循環器内科	Stereotactic radiotherapy for ventricular tachycardia: A study protocol.	F1000Res. 2023 Dec 12;12:798. doi: 10.12688/f1000research.138758.2. eCollection 2023.	Original Article
7	Tsurumi N, Inden Y, Yanagisawa S 他	循環器内科	Clinical outcomes and predictors of delayed echocardiographic response to cardiac resynchronization therapy.	J Cardiovasc Electrophysiol. 2024 Jan;35(1):97-110. doi: 10.1111/jce.16125. Epub 2023 Nov 13.	Original Article
8	Yamauchi R, Morishima I, Okumura K 他	循環器内科	Association Between Catheter Ablation for Nonparoxysmal Atrial Fibrillation and Functional Mitral Regurgitation in Patients With Heart Failure With Preserved Ejection Fraction.	Am J Cardiol. 2023 Nov 15;207:192-201. doi: 10.1016/j.amjcard.2023.08.154. Epub 2023 Sep 22.	Original Article
9	Yanagisawa S, Inden Y, Goto T 他	循環器内科	Visualization of Repolarization Heterogeneity in Brugada Syndrome: A Quantitative Analysis of Unipolar Electrogram T-Wave.	JACC Clin Electrophysiol. 2023 Nov;9(11):2401-2411.doi: 10.1016/j.jacep.2023.08.010. Epub 2023 Sep 13.	Original Article
10	Futamura K, Hase T, Tanaka A 他	循環器内科	Lethal ventricular arrhythmia due to entrectinib-induced Brugada syndrome: a case report and literature review.	Int Cancer Conf J. 2023 Jun 26;12(4):299-304.doi: 10.1007/s13691-023-00620-y. eCollection 2023 Oct.	Case Report
11	Riku S, Inden Y, Yanagisawa S 他	循環器内科	Distributions and number of drivers on real-time phase mapping associated with successful atrial fibrillation termination during catheter ablation for non-paroxysmal atrial fibrillation.	J Interv Card Electrophysiol. 2024 Mar;67(2):303-317. doi: 10.1007/s10840-023-01588-8. Epub 2023 Jun 24.	Original Article
12	Suzuki N, Inden Y, Yanagisawa S 他	循環器内科	Different time course effect of autonomic nervous modulation after cryoballoon and hotballoon catheter ablations for paroxysmal atrial fibrillation.	J Interv Card Electrophysiol. 2023 Jun 24. doi: 10.1007/s10840-023-01581-1. Epub ahead of print.	Original Article
13	Iwawaki T, Morishima I, Kanzaki Y 他	循環器内科	Elevated liver fibrosis-4 index predicts recurrence after catheter ablation for atrial fibrillation in patients with heart failure.	J Interv Card Electrophysiol. 2023 Oct 19. doi: 10.1007/s10840-023-01661-2. Epub ahead of print.	Original Article
14	Watanabe R, Inden Y, Yanagisawa S 他	循環器内科	A rare case of delayed complete lead dislodgement after deep septal pacing: A hidden risk of the specific procedure.	Pacing Clin Electrophysiol. 2023 Apr;46(4):341-345. doi: 10.1111/pace.14688. Epub 2023 Mar 23.	Case Report
15	Yanagisawa S, Inden Y, Murohara T	循環器内科	Catheter ablation for atrial fibrillation in heart failure: Getting closer to the full picture in the whole population.	Int J Cardiol. 2023 Apr 1;376:81-82.doi: 10.1016/j.ijcard.2023.02.010. Epub 2023 Feb 14.	Others
16	Shimizu M, Hiraiwa H, Tanaka S 他	循環器内科	Cardiac Rehabilitation in Severe Heart Failure Patients with Impella 5.0 Support via the Subclavian Artery Approach Prior to Left Ventricular Assist Device Implantation.	J Pers Med. 2023 Apr;13(4):630. doi: 10.3390/jpm13040630.	Case Report
17	Hiraiwa H, Kasugai D, Okumura T 他	循環器内科	Implications of uremic cardiomyopathy for the practicing clinician: an educational review.	Heart Fail Rev. 2023 Sep;28(5):1129-1139. doi: 10.1007/s10741-023-10318-1.	Review
18	Hiraiwa H, Morimoto R, Tsuyuki Y 他	循環器内科	The balance of CD8-positive T cells and PD-L1 expression in the myocardium predicts prognosis in lymphocytic fulminant myocarditis.	Cardiology. 2024;149(1):28-39. doi: 10.1159/000534518. Epub 2023 Oct 12.	Original Article
19	Ando R, Shiraki Y, Miyai Y 他	循環器内科	Meflin is a marker of pancreatic stellate cells involved in fibrosis and epithelial regeneration in the pancreas.	J Pathol. 2024 Jan;262(1):61-75. doi: 10.1002/path.6211. Epub 2023 Oct 5.	Original Article
20	Ozaki Y, Ohashi K, Otaka N 他	循環器内科	Myonectin protects against skeletal muscle dysfunction in male mice through activation of AMPK/PGC1 pathway	Nat Commun. 2023 Aug 4;14(1):4675. doi: 10.1038/s41467-023-40435-2.	Original Article
21	Ito F, Kato K, Yanatori I, Maeda Y 他	循環器内科	Matrigel-based organoid culture of malignant mesothelioma reproduces cisplatin sensitivity through CTR1.	BMC Cancer. 2023 May 31;23(1):487. doi: 10.1186/s12885-023-10966-4.	Original Article
22	Hiramatsu K, Tanaka A, Furusawa K 他	循環器内科	Refractory atrial tachycardia after transcatheter closure of an atrial septal defect, successfully treated by catheter ablation with transseptal approach via the side of the device	J Cardiol Cases. 2024 Mar 5;29(6):258-260. doi: 10.1016/j.jccase.2024.02.007. eCollection 2024 Jun.	Case Report
23	Tanaka A, Ishii H.	循環器内科	Can a new biomarker complement the current diagnostic gap in the management of patients with suspected acute coronary syndrome?	Int J Cardiol. 2023 Dec 15;393:131390. doi: 10.1016/j.ijcard.2023.131390. Epub 2023 Sep 26.	Letter
24	Funakubo H, Tanaka A, Tobe A 他	循環器内科	Impact of proteinuria on long-term prognosis in patients with coronary artery disease	J Cardiovasc Med (Hagerstown). 2023 Dec 1;24(12):900-905. doi: 10.2459/JCM.0000000000001573. Epub 2023 Nov 3.	Original Article
25	Tokuda K, Tanaka A, Tobe A 他	循環器内科	Impact of C-Reactive Protein on Long-Term Cardiac Events in Stable Coronary Artery Disease Patients with Chronic Kidney Disease	J Atheroscler Thromb. 2023 Nov 1;30(11):1635-1643. doi: 10.5551/jat.64047. Epub 2023 Mar 11.	Original Article
26	Iwama M, Noda T, Takagi K 他	循環器内科	Impact of right coronary artery dominance on the long-term mortality in the patients with acute total/subtotal occlusion of unprotected left main coronary artery	J Cardiol. 2023 Sep;82(3):165-171. doi: 10.1016/j.jicc.2023.04.003. Epub 2023 Apr 6.	Original Article

27	Tobe A, Tanaka A, Furusawa K 他	循環器内科	Heterogeneous Carotid Plaque Predicts Cardiovascular Events after Percutaneous Coronary Intervention	J Atheroscler Thromb. 2023 Sep 1;30(9):1187-1197. doi: 10.5551/jat.63622. Epub 2022 Dec 11.	Original Article
28	Tobe A, Tanaka A, Shirai Y 他	循環器内科	Impact of Handgrip Strength on Clinical Outcomes after Percutaneous Coronary Intervention	J Atheroscler Thromb. 2023 Sep 1;30(9):1115-1122. doi: 10.5551/jat.63854. Epub 2022 Nov 13.	Original Article
29	Tobe A, Tanaka A, Tokuda Y 他	循環器内科	Transcatheter Aortic Valve Replacement for Bicuspid Aortic Stenosis With a Severely Calcified Raphe Using An Under-Sized SAPIEN 3 Valve: Sizing by the Circle Method and Deployment by the Pressure-Regulated Method	Cardiovasc Revasc Med. 2023 Aug;53S:S149-S152. doi: 10.1016/j.carrev.2022.08.025. Epub 2022 Aug 22.	Case Report
30	Riku S, Suzuki S, Tanaka A 他	循環器内科	Spontaneous Dissection of Left Internal Mammary Artery Graft: A Case Report and Literature Review	Cardiovasc Revasc Med. 2023 Aug;53S:S235-S238. doi: 10.1016/j.carrev.2022.04.007. Epub 2022 Apr 30.	Case Report
31	Tobe A, Sawano M, Kohsaka S 他	循環器内科	Ischemic and Bleeding Outcomes in Patients Who Underwent Percutaneous Coronary Intervention With Chronic Kidney Disease or Dialysis (from a Japanese Nationwide Registry)	Am J Cardiol. 2023 May 15;195:37-44. doi: 10.1016/j.amjcard.2023.02.027. Epub 2023 Mar 31.	Original Article
32	Miki Y, Tanaka A, Tokuda Y 他	循環器内科	Clinical implications of the cardio-ankle vascular index before and after transcatheter aortic valve implantation	J Cardiovasc Med (Hagerstown). 2023 May 1;24(5):302-307. doi: 10.2459/JCM.0000000000001456. Epub 2023 Mar 17.	Original Article
33	Kondo T, Gasparyan SB, Jhund PS 他	循環器内科	Use of Win Statistics to Analyze Outcomes in the DAPA-HF and DELIVER Trials	NEJM Evid.2023 Nov;2(11):EVIDoia2300042. doi: 10.1056/EVIDoia2300042. Epub 2023 Oct 24.	Original Article
34	Kondo T, Butt JH, Curtain JP 他	循環器内科	Efficacy of Dapagliflozin According to Heart Rate: A Patient-Level Pooled Analysis of DAPA-HF and DELIVER	Circ Heart Fail. 2023 Dec;16(12):e010898.doi: 10.1161/CIRCHEARTFAILURE.123.010898. Epub 2023 Oct 27.	Original Article
35	Lee MMY, Kondo T, Campbell RT 他	循環器内科	Effects of Renin-Angiotensin system blockers on outcomes from COVID-19: A systematic review and meta-analysis of randomised controlled trials	Eur Heart J Cardiovasc Pharmacother. 2024 Jan 5;10(1):68-80	Original Article
36	Kondo T, Wang X, Yang M 他	循環器内科	Efficacy of Dapagliflozin According to Geographic Location of Patients With Heart Failure	J Am Coll Cardiol. 2023 Sep 5;82(10):1014-1026.doi: 10.1016/j.jacc.2023.05.056. Epub 2023 Aug 21.	Original Article
37	Kondo T, Dewan P, Anand IS 他	循環器内科	Clinical Characteristics and Outcomes in Patients With Heart Failure: Are There Thresholds and Inflection Points in Left Ventricular Ejection Fraction and Thresholds Justifying a Clinical Classification?	Circulation. 2023 Aug 29;148(9):732-749. doi: 10.1161/CIRCULATIONAHA.122.063642. Epub 2023 Jun 27.	Original Article
38	Kondo T, Jering KS, Jhund PS 他	循環器内科	Predicting Stroke in Heart Failure and Preserved Ejection Fraction Without Atrial Fibrillation	Circ Heart Fail. 2023 Jul;16(7):e010377doi: 10.1161/CIRCHEARTFAILURE.122.010377. Epub 2023 Jun 23.	Original Article
39	Kondo T, Adachi T, Kobayashi K 他	循環器内科	Physical Frailty and Use of Guideline-Recommended Drugs in Patients With Heart Failure and Reduced Ejection Fraction	J Am Heart Assoc. 2023 Jun 20;12(12):e026844. doi: 10.1161/JAHA.122.026844. Epub 2023 Jun 10.	Original Article
40	Butt JH, Kondo T, Yang M 他	循環器内科	Heart failure, peripheral artery disease, and dapagliflozin: a patient-level meta-analysis of DAPA-HF and DELIVER	Eur Heart J. 2023 Jun 25;44(24):2170-2183. doi: 10.1093/eurheartj/ehad276.	Original Article
41	Chatur S, Kondo T, Claggett BL 他	循環器内科	Effects of dapagliflozin on heart failure hospitalizations according to severity of inpatient course: Insights from DELIVER and DAPA-HF	Eur J Heart Fail. 2023 Aug;25(8):1364-1371. doi: 10.1002/ejhf.2912. Epub 2023 Jun 8.	Original Article
42	Araki T, Kondo T, Imaizumi T 他	循環器内科	Relationship between the volume of cases and in-hospital mortality in patients with cardiogenic shock receiving short-term mechanical circulatory support	Am Heart J. 2023 Jul;261:109-123.doi: 10.1016/j.ahj.2023.03.017. Epub 2023 Apr 7.	Original Article
43	Kondo T, Jering KS, Borieffs CJW 他	循環器内科	Patient Characteristics, Outcomes, and Effects of Dapagliflozin According to the Duration of Heart Failure: A Prespecified Analysis of the DELIVER Trial	Circulation. 2023 Apr 4;147(14):1067-1078. doi: 10.1161/CIRCULATIONAHA.122.062918. Epub 2023 Mar 6.	Original Article
44	Pu Z, Shimizu Y, Hayashi T 他	循環器内科	Cardiac lymphatic insufficiency leads to diastolic dysfunction via myocardial morphological changes.	J Am Coll Cardiol Basic Trans Science. 2023 Apr, 12; 8(8):958-972.doi: 10.1016/j.jacbs.2023.01.008. eCollection 2023 Aug.	Original Article
45	Shimizu Y, Murohara T.	循環器内科	Therapeutic Angiogenesis for Thromboangiitis Obliterans.	Circ J. 2023 Aug 25;87(9):1238-1239.doi: 10.1253/circj.CJ-23-0157. Epub 2023 Mar 31.	Others
46	Shimizu Y, Che Y, Murohara T	循環器内科	Therapeutic Lymphangiogenesis Is a Promising Strategy for Secondary Lymphedema.	Int J Mol Sci. 2023 Apr 24;24(9):7774. doi: 10.3390/ijms24097774.	Review
47	Fang L, Ohashi K, Hayakawa S 他	循環器内科	Adipolin protects against renal injury via PPAR γ -dependent reduction of inflammasome activation.	iScience. 2023 Apr 7;26(5):106591.doi: 10.1016/j.isci.2023.106591. eCollection 2023 May 19.	Original Article
48	Shimizu Y, Murohara T.	循環器内科	Takayasu Arteritis in Terms of Disease Duration and Sex Differences.	Circ J. 2024 Feb 22;88(3):295-296.doi: 10.1253/circj.CJ-23-0900. Epub 2023 Dec 29.	Others
49	Ryota Morimoto, Kazumasa Unno, Naotoshi Fujita 他	循環器内科	Prospective Analysis of Immunosuppressive Therapy in Cardiac Sarcoidosis With Fluorodeoxyglucose Myocardial Accumulation: The PRESTIGE Study	JACC cardiovasc Imaging. 2024 Jan;17(1):45-58.doi: 10.1016/j.jcmg.2023.05.017. Epub 2023 Jul 12.	Original Article
50	Mizuno K, Imai N, Yamamoto T 他	消化器内科	Pretreatment Proteinuria Predicts the Prognosis of Patients Receiving Systemic Therapy for Unresectable Hepatocellular Carcinoma	Cancers (Basel). 2023 May 21;15(10)2853	Original Article
51	Ikegami S, Nakamura M, Honda T 他	消化器内科	Efficacy of 1-kestose supplementation in patients with mild to moderate ulcerative colitis: A randomised, double-blind, placebo-controlled pilot study	Aliment Pharmacol Ther. 2023 Jun;57(11)1249-1257	Original Article
52	Matsuda N, Imai N, Yokoyama S 他	消化器内科	Clinical course and prognosis of patients with hepatocellular carcinoma and haemophilia	Eur J Gastroenterol Hepatol. 2023 Oct 1;35(10)1211-1215	Original Article
53	Imai N, Ohsaki Y, Cheng J 他	消化器内科	Distinct features of two lipid droplets types in cell nuclei from patients with liver diseases	Sci Rep. 2023 Apr 26;13(1)6851	Original Article
54	Ishigami M, Honda T, Ishizu Y 他	消化器内科	Significance of pretreatment alpha-fetoprotein in patients with compensated severe fibrosis after hepatitis C viral eradication	J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2023 Jun;30(6)834-842	Original Article
55	Yamamoto K, Honda T, Inukai Y 他	消化器内科	Identification of the Microbiome Associated with Prognosis in Patients with Chronic Liver Disease	Microorganisms. 2024 Mar 19;12(3)610	Original Article

56	Yamamoto T, Mizuno K, Ito T 他	消化器内科	Abdominal pain accompanied by elevated serum inflammatory markers and biliary enzymes for diagnosing immune checkpoint inhibitor-induced sclerosing cholangitis	Invest New Drugs. 2023 Jun;41(3):512-521	Original Article
57	Mizuno F, Imai N, Yasuda K 他	消化器内科	Successful Treatment with Steroids in a Patient with Vanishing Bile Duct Syndrome and Acute Tubular Necrosis	Intern Med. 2024 Jan 1;63(1):57-61	Case Report
58	Furue S, Suzuki T, Honda T 他	消化器内科	Effects of 1 kestone on microbiome changes caused by vonoprazan: a randomized, double blind, placebo controlled pilot study	J Gastroenterol Hepatol. 2024 Mar;39(3):480-488.	Original Article
59	Takada Y, Ishikawa T, Yamao K 他	消化器内科	Outcomes of endoscopic papillectomy of ampullary carcinoma and factors affecting additional surgery.	J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2024 Feb;31(2):110-119.	Original Article
60	Kataoka K, Ohno E, Ishikawa T 他	消化器内科	Impact of sarcopenia on biliary drainage during neoadjuvant therapy for pancreatic cancer.	Clin Endosc. 2024 Jan;57(1):112-121.	Original Article
61	Kawashima H, Ishikawa T, Yamao K 他	消化器内科	Current status of and future issues related to endoscopic papillectomy.	Nagoya J Med Sci. 2023 Nov;85(4):648-658.	Review
62	Kataoka K, Ishikawa T, Ohno E 他	消化器内科	Randomized trial comparing 15 vs 5 actuations per pass during endoscopic ultrasound-guided fine-needle biopsy for specimen acquisition of solid pancreatic lesions.	J Gastroenterol Hepatol. 2023 Sep;38(9):1647-1655.	Original Article
63	Murate K, Nakamura M, Yamamura T 他	消化器内科	CO2 enterography in endoscopic retrograde cholangiography using double-balloon endoscopy: A randomized clinical trial	J Gastroenterol Hepatol. 2023 May;38(5):761-767.	Original Article
64	Hatta T, Hase T, Hara T 他	呼吸器内科	Adjustment of creatinine clearance for carboplatin dosing in Calvert's formula and clinical efficacy for lung cancer.	Cancer Med. 2023 Aug;12(15):15955-15969. doi: 10.1002/cam4.6235. Epub 2023 Jun23.	Original Article
65	Fukutani E, Wakahara K, Nakamura S 他	呼吸器内科	Inhalation adherence for asthma and COPD improved during the COVID-19 pandemic: a questionnaire survey at a university hospital in Japan	J Asthma.2023 Nov;60(11):2002-2013. doi: 10.1080/02770903.2023.2209173. Epub 2023 May 31.	Original Article
66	Matsuzawa R, Morise M, Kinoshita F 他	呼吸器内科	Non-invasive early prediction of immune checkpoint inhibitor efficacy in non-small-cell lung cancer patients using on-treatment serum CRP and NLR.	J Cancer Res Clin Oncol. 2023 Jul;149(7):3885-3893. doi: 10.1007/s00432-022-04300-x. Epub 2022 Aug 25.	Original Article
67	Yagi M, Shindo Y, Mutoh Y 他	呼吸器内科	Factors associated with adverse drug reactions or death in very elderly hospitalized patients with pulmonary tuberculosis	Sci Rep Apr 26;13(1):6826. doi: 10.1038/s41598-023-33967-6.	Original Article
68	Kato S, Sakamoto K, Sato T 他	呼吸器内科	Rapidly progressive interstitial lung disease with positive anti-MDA5 antibody as an immune-related complication of nivolumab: A case report	Respir Investig. 2024 Mar;62(2):313-316. doi: 10.1016/j.resinv.2024.01.009. Epub 2024 Feb 4.	Case Report
69	Taga S, Suga H, Nakano T 他	糖尿病・内分泌内科	Generation and purification of ACTH-secreting hPSC-derived pituitary cells for effective transplantation.	Stem Cell Reports. 2023 Aug 8; 18:1657-1671. doi:10.1016/j.stemcr.2023.05.002. Epub 2023 Jun 8.	Original Article
70	Miwata T, Suga H, Mitsumoto K 他	糖尿病・内分泌内科	Simplified drug efficacy evaluation system for vasopressin neurodegenerative disease using mouse disease-specific induced pluripotent stem cells.	Peptides2024 Mar;173:171151. doi: 10.1016/j.peptides.2024.171151. Epub 2024 Jan 11.	Original Article
71	Kobayashi T, Iwama S, Arima H	糖尿病・内分泌内科	Clinical characteristics and potential biomarkers of thyroid and pituitary immune-related adverse events.	Endocr J. 2024 Jan 29;71(1):23-29. doi: 10.1507/endocrj.EJ23-0524. Epub 2023 Nov 7.	Review
72	Hagiwara D, Matsukawa M, Tasaki J 他	糖尿病・内分泌内科	A retrospective study on tolvaptan prescription in clinical practice in patients with syndrome of inappropriate secretion of antidiuretic hormone (SIADH) using the Japanese claims database	Endocr J. 2023 Dec 28;70(12):1195-1205. doi: 10.1507/endocrj.EJ23-0256.	Original Article
73	Hagiwara D, Azuma Y, Kawaguchi Y 他	糖尿病・内分泌内科	Response to endoplasmic reticulum stress in arginine vasopressin neurons	Endocr J. 2023 Jun 28;70(6):567-572. doi: 10.1507/endocrj.EJ23-0193.	Review
74	Handa T, Onoue T, Kobayashi T 他	糖尿病・内分泌内科	Effects of Digitization of Self-Monitoring of Blood Glucose Records Using a Mobile App and the Cloud System on Outpatient Management of Diabetes: Single-Armed Prospective Study	JMIR Diabetes. 2024 Jan 19;9:e48019. doi: 10.2196/48019.	Original Article
75	Mizuno M	腎臓内科	Nutritional Assessment and Nutrient Supplement in Patients with Chronic Kidney Disease	Nutrients. 2023 Apr 19;15(8):1964. doi: 10.3390/nu15081964.	Original Article
76	Matsuzaki T, Watanabe Y, Tanaka A 他	腎臓内科	Prognosis and incidence of infections in chronic kidney disease patients with membranous nephropathy enrolled in a large Japanese clinical claims database.	BMC Nephrol. 2023 May 5;24(1):126. doi:10.1186/s12882-023-03190-6.	Original Article
77	Nakamura Y, Kato N, Tatematsu Y 他	腎臓内科	Clinical characteristics of anti-GBM disease with thrombotic microangiopathy: a case report and literature review.	CEN Case Rep. 2024 Feb;13(1):37-44. doi: 10.1007/s13730-023-00797-4. Epub 2023 May 22.	Review
78	Maruyama S, Kurasawa S, Hayashi T 他	腎臓内科	Higher hemoglobin levels using darbepoetin alfa and kidney outcomes in advanced chronic kidney disease without diabetes: a prespecified secondary analysis of the PREDICT trial.	Clin Exp Nephrol. 2023 Sep;27(9):757-766. doi: 10.1007/s10157-023-02362-w. Epub 2023 Jun 8.	Others
79	Fukui S, Mizuno M, Tawada M 他	腎臓内科	Peritoneal Expression of Membrane Complement Regulators Is Decreased in Peritoneal Dialysis Patients with Infected Peritonitis.	Int J Mol Sci. 2023 May 23;24(11):9146. doi: 10.3390/ijms24119146.	Original Article
80	Hori M, Yasuda K, Takahashi H 他	腎臓内科	The Impact of Liver Chemistries on Respiratory Failure among Hemodialysis Patients with COVID-19 During the Omicron Wave.	Intern Med. 2023 Sep 15;62(18):2617-2625. doi: 10.2169/internalmedicine.2115-23. Epub 2023 Jul 5.	Original Article
81	Muto R, Maeda K, Fukui S 他	腎臓内科	IgA-dominant glomerulonephritis with DNAJB9-negative fibrillar polytypic immunoglobulin deposits in the subepithelium.	CEN Case Rep. 2023 Aug;12(3):323-328. doi: 10.1007/s13730-022-00759-2. Epub 2022 Dec 28.	Case Report
82	Kato S, Kuwatsuka Y, Ando M 他	腎臓内科	Rationale and study design of a randomized controlled trial to investigate the renoprotective effect of canagliflozin assessed by test of renal hemodynamics in diabetic kidney disease (the FAGOTTO study)	BMC Nephrol. 2023 Aug 3;24(1):228. doi: 10.1186/s12882-023-03277-0.	Others
83	Kamegai N, Kim H, Suzuki Y 他	腎臓内科	Complement terminal pathway inhibition reduces peritoneal injuries in a rat peritonitis model.	Clin Exp Immunol. 2023 Dec 12;214(2):209-218. doi: 10.1093/cei/uxad088.	Original Article
84	Watanabe T, Maeda K, Kato N 他	腎臓内科	Basigin is released in extracellular vesicles derived from the renal tubular epithelium in response to albuminuria.	Nephrology (Carlton). 2023 Nov;28(11):629-638. doi: 10.1111/nep.14227. Epub 2023 Aug 10.	Original Article

85	Watanabe Y, Tanaka A, Furuhashi K 他	腎臓内科	Current status of low-density lipoprotein apheresis treatment for patients with peripheral artery disease and chronic kidney disease in Japanese clinical database.	Ther Apher Dial. 2023 Dec;27(6):1000-1009. doi: 10.1111/1744-9987.14046. Epub 2023 Aug 16.	Original Article
86	Hori M, Yasuda K, Takahashi H 他	腎臓内科	The association of low serum magnesium levels with frailty among hemodialysis patients.	Sci Rep. 2023 Sep 11;13(1):14982. doi: 10.1038/s41598-023-42187-x.	Original Article
87	Hori M, Takahashi H, Kondo C 他	腎臓内科	Coexistence of low muscle mass and osteoporosis as a predictor of fragility fractures in long-term kidney transplant recipients.	Am J Nephrol. 2023;54(11-12):489-497. doi: 10.1159/000534019. Epub 2023 Sep 12.	Original Article
88	Tanaka A, Watanabe Y, Furuhashi K 他	腎臓内科	Establishment of an adverse effect prevention protocol on plasma exchange using fresh frozen plasma prior to ABO-incompatible living donor kidney transplantation at our hospital.	Ther Apher Dial. 2024 Feb;28(1):152-157. doi: 10.1111/1744-9987.14071. Epub 2023 Sep 29.	Original Article
89	Aoi T, Tanaka A, Furuhashi K 他	腎臓内科	< Editors' Choice > Mesenchymal stem/stromal cells generated from induced pluripotent stem cells are highly resistant to senescence.	Nagoya J Med Sci. 2023 Nov;85(4):682-690. doi: 10.18999/nagjms.85.4.682.	Original Article
90	Fujieda K, Saito S, Tanaka A 他	腎臓内科	A case of late-onset organizing pneumonia following COVID-19 infection in a post-kidney transplant patient.	CEN Case Rep. 2024 Feb 17. doi: 10.1007/s13730-023-00849-9. Online ahead of print.	Original Article
91	Onogi C, Watanabe Y, Tanaka A 他	腎臓内科	Mortality and hyperkalaemia-associated hospitalisation in patients with chronic kidney disease: comparison of sodium zirconium cyclosilicate and sodium/calcium polystyrene sulfonate.	Clin Kidney J. 2024 Feb 20;17(2):sfae021. doi: 10.1093/ckj/sfae021. eCollection 2024 Feb.	Original Article
92	Kanetsuna Y, Maruyama S	腎臓内科	Introduction	Nephron. 2023;147 Suppl 1:5. doi: 10.1159/000533694. Epub 2023 Aug 23.	Others
93	Sugimoto M, Sato T, Ikeda S 他	血管外科	The association between the D-dimer level at 1 year after EVAR and sac diameter change in patients with persistent type 2 endoleak.	Journal of Endovascular Therapy. 2023 Apr 25;15266028231170165. doi: 10.1177/15266028231170165. Online ahead of print.	Original Article
94	Niimi K, Nishida K, Lee C 他	血管外科	Optimal D-dimer cut-off values for diagnosing deep vein thrombosis in patients with comorbid malignancies.	Ann Vasc Surg. 2024 Jan. 98(1):293-30. doi:10.1016/j.avsg.2023.06.033.	Original Article
95	Banno H, Lee C, Ikeda S 他	血管外科	<Editor's Choice> Thoracic endovascular aortic repair and spinal cord injury	Nagoya J Med Sci. 2024 Feb; 86(1):16-23. doi:10.18999/nagjms.86.1.16.	Original Article
96	Sugimoto M, Banno H, Sato T 他	血管外科	Factors Associated With Spontaneous Sac Shrinkage in Patients With Persistent Type 2 Endoleaks After EVAR	J Endovasc Ther. 2023 Aug;30(4):525-533. doi: 10.1177/15266028221083457.	Original Article
97	Kawai Y, Kodama A, Sato T 他	血管外科	Predictors of infrapopliteal vein bypass graft revision in patients with chronic limb-threatening ischemia.	Vascular. 2024 Feb; 32(1):65-75,2024. doi: 10.1177/17085381221124706.	Original Article
98	Kanda M, Tanaka C, Misawa K 他	消化器・腫瘍外科(消化管)	A multi-institutional prospective observational study to compare postoperative quality of life of patients who undergo total or proximal gastrectomy for early gastric cancer (CCOG1602)	World J Surg. 2024 Mar;48(3):681-691. doi: 10.1002/wjs.12088. Epub 2024 Feb 10.	Original Article
99	Tanaka N, Takami H, Hayashi M 他	消化器・腫瘍外科(消化管)	Predictive impacts of peritoneal washing cytology for surgical resection-intended pancreatic cancer cases: Establishment of planned staging laparoscopy criteria	J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2023 Nov;30(11):1273-1281. doi: 10.1002/jhpb.1373. Epub 2023 Oct 5.	Original Article
100	Shinozuka T, Kanda M, Shimizu D 他	消化器・腫瘍外科(消化管)	Identification of stromal cell-derived factor 4 as a liquid biopsy-based diagnostic marker in solid cancers	Sci Rep. 2023 Sep 20;13(1):15540. doi: 10.1038/s41598-023-42201-2.	Original Article
101	Kodera Y, Yoshida K, Kochi M 他	消化器・腫瘍外科(消化管)	Addition of docetaxel to S-1 results in significantly superior 5-year survival outcomes in Stage III gastric cancer: a final report of the JACCRO GC-07 study	Gastric Cancer. 2023 Nov;26(6):1063-1068. doi: 10.1007/s10120-023-01419-9. Epub 2023 Aug 7.	Original Article
102	Funahashi H, Matsushita M, Esaki R 他	整形外科	Long-term oral meclozine administration improves survival rate and spinal canal stenosis during postnatal growth in a mouse model of achondroplasia in both sexes	JBMR Plus. 2024 Feb 24;8(4):ziae018. doi: 10.1093/jbmrpl/ziae018. eCollection 2024 Apr.	Original Article
103	Asamoto T, Takegami Y, Sato Y 他	整形外科	External validation of a deep learning model for predicting bone mineral density on chest radiographs	Arch Osteoporos. 2024 Mar 13;19(1):15. doi: 10.1007/s11657-024-01372-9.	Original Article
104	Ido H, Takegami Y, Osawa Y 他	整形外科	Risk factors for intraoperative femoral fractures in cementless bipolar hip arthroplasty for femoral neck fracture in multicenter: The TRON group study	J Orthop Sci. 2024 Jan 31:S0949-2658(24)00006-X. doi: 10.1016/j.jos.2024.01.005. Online ahead of print.	Original Article
105	Asamoto T, Osawa Y, Takegami Y 他	整形外科	The survey of bone allograft transplantation in a Japanese regional bone bank	J Orthop Sci. 2023 Nov 10:S0949-2658(23)00314-7. doi: 10.1016/j.jos.2023.11.001. Online ahead of print.	Original Article
106	Funahashi H, Takegami Y, Osawa Y 他	整形外科	Circulating miRNA-122 is associated with knee osteoarthritis progression: A 6-year longitudinal cohort study in the Yakumo study	J Orthop Sci. 2023 Nov 7:S0949-2658(23)00276-2. doi: 10.1016/j.jos.2023.10.004. Online ahead of print.	Original Article
107	Takegami Y, Osawa Y, Iida H 他	整形外科	Addressing osteoporosis treatment after hemiarthroplasty for a femoral neck fracture: impact on survival rates after a subsequent periprosthetic femoral fracture - a multicenter (TRON group) retrospective study	Arch Osteoporos. 2023 Sep 20;18(1):122. doi: 10.1007/s11657-023-01330-x.	Original Article
108	Otake K, Osawa Y, Takegami Y 他	整形外科	Intertrochanteric curved varus osteotomy for subchondral fracture of the femoral head: a case series	Arthroplasty. 2023 Sep 5;5(1):46. doi: 10.1186/s42836-023-00202-6.	Original Article
109	Asamoto T, Osawa Y, Takegami Y 他	整形外科	Fall risk in patient with dysplastic hip osteoarthritis	Int Orthop. 2024 Jan;48(1):221-227. doi: 10.1007/s00264-023-05938-z. Epub 2023 Aug 22.	Original Article
110	Osawa Y, Seki T, Takegami Y 他	整形外科	Extension of the Antero-Posterior Necrotic Regions Associated With Collapse Cessation in Osteonecrosis of the Femoral Head	J Arthroplasty. 2024 Feb;39(2):387-392. doi: 10.1016/j.arth.2023.08.020. Epub 2023 Aug 31.	Original Article
111	Funahashi H, Osawa Y, Seki T 他	整形外科	Pelvic morphologies of developmental dysplasia and primary osteoarthritis on range of motion after total hip arthroplasty	J Orthop Res. 2023 Sep;41(9):2007-2015. doi: 10.1002/jor.25544. Epub 2023 Mar 15.	Original Article
112	Osawa Y, Seki T, Takegami Y 他	整形外科	Factors affecting sports participation after total hip arthroplasty	Int Orthop. 2023 May;47(5):1181-1187. doi: 10.1007/s00264-023-05724-x. Epub 2023 Feb 17.	Original Article
113	Osawa Y, Seki T, Takegami Y 他	整形外科	Factors affecting return to sports after eccentric rotational acetabular osteotomy	Orthop Traumatol Surg Res. 2023 Jun;109(4):103442. doi: 10.1016/j.otsr.2022.103442. Epub 2022 Oct 13.	Original Article

114	Otaka K, Osawa Y, Seki T 他	整形外科	Total hip arthroplasty and autologous bone grafting for treating bilateral osteonecrosis of the acetabulum: A case report	J Orthop Sci. 2024 Jan;29(1):384-389. doi: 10.1016/j.jos.2022.04.004. Epub 2023 May 11	Original Article
115	Matsushita M, Kitoh H, Mishima K 他	整形外科	Phase 1b study on the repurposing of meclizine hydrochloride for children with achondroplasia	PLoS One. 2023 Jul 10;18(7):e0283425.	Original Article
116	Funahashi H, Matsushita M, Esaki R 他	整形外科	Long-term oral meclozine administration improves survival rate and spinal canal stenosis during postnatal growth in a mouse model of achondroplasia in both sexes	JBMR Plus. 2024 Feb 24;8(4):ziae018.	Original Article
117	Mori N, Esaki N, Shimoyama Y 他	整形外科	Significance of expression of CD109 in osteosarcoma and its involvement in tumor progression via BMP signaling.	Pathol Res Pract. 2023 May;245:154443. doi: 10.1016/j.prp.2023.154443. Epub 2023 Apr 5.	Original Article
118	Nakajima H, Yamaguchi J, Takami H 他	整形外科	Impact of skeletal muscle mass on the prognosis of patients undergoing neoadjuvant chemotherapy for resectable or borderline resectable pancreatic cancer	Int J Clin Oncol. 2023 May;28(5):688-697. doi: 10.1007/s10147-023-02321-1. Epub 2023 Mar 6.	Original Article
119	Senda J, Ito K, Kotake T 他	整形外科	Association between National Institutes of Health Stroke Scale and Functional Independence Measure scores in patients with ischemic stroke from convalescent rehabilitation outcomes.	Nagoya J Med Sci. 2023 Aug;85(3):428-443. doi: 10.18999/najms.85.3.428.	Original Article
120	Yamamoto H, Tanaka S, Kasugai D 他	整形外科	Physical function and mental health trajectories in COVID-19 patients following invasive mechanical ventilation: a prospective observational study.	Sci Rep.2023 Sep 4;13(1):14529. doi: 10.1038/s41598-023-41684-3.	Original Article
121	Tanaka S, Mizuno Y, Nojiri S 他	整形外科	Efficacy of rehabilitation initiated in the early phase after simultaneous deceased donor liver and kidney transplantation: A case report.	Medicine (Baltimore). 2023 Sep 22;102(38):e35324. doi: 10.1097/MD.00000000000035324.	Original Article
122	Mishima K, Kamiya Y, Matsushita M 他	整形外科	Prognostic value of bone resorption pattern in the anterior portion of the femoral head in Legg-Calvé-Perthes disease.	J Child Orthop.2023 Apr 7;17(3):197-204. doi: 10.1177/18632521231164985. eCollection 2023 Jun.	Original Article
123	Asai S, Takahashi N, Kishimoto K 他	整形外科	Increased prevalence of Staphylococcus aureus nasal carriage in rheumatoid arthritis patients with moderate/high disease activity	J Orthop Sci 2023. Nov;28(6):1400-1406. doi: 10.1016/j.jos.2022.09.014. Epub 2022 Oct 7.	Original Article
124	Matsushita M, Kitoh H, Mishima K 他	整形外科	Phase 1b study on the repurposing of meclizine hydrochloride for children with achondroplasia	PLoS One 2023. Jul 10;18(7):e0283425. doi: 10.1371/journal.pone.0283425. eCollection 2023.	Original Article
125	Hiroaki Nakashima, Noriaki Kawakami, Tetsuya Ohara 他	整形外科	Cervical Spinal Cord Compression in Adult Scoliosis	Global Spine J 2023 Jul;13(6):1576-1581. doi: 10.1177/21925682211041979. Epub 2021 Sep 8.	Original Article
126	Hiroaki Nakashima, Shiro Imagama, Toshitaka Yoshii 他	整形外科	Factors Associated With Loss of Cervical Lordosis After Laminoplasty for Patients With Cervical Ossification of the Posterior Longitudinal Ligament: Data From a Prospective Multicenter Study	Spine 2023. Aug 1;48(15):1047-1056. doi: 10.1097/BRS.0000000000004706. Epub 2023 May 5.	Original Article
127	Hiroaki Nakashima, Minoru Yoneda, Masaaki Machino 他	整形外科	Utility of ultrasonography in the diagnosis of lumbar spondylolysis in adolescent patients	J Orthop Sci 2023. Sep;28(5):955-960. doi: 10.1016/j.jos.2022.06.019. Epub 2022 Jul 19.	Original Article
128	Yoshinao Koike, Masahiko Takahata, Masahiro Nakajima 他	整形外科	Genetic insights into ossification of the posterior longitudinal ligament of the spine	Elife 2023. Jul 18;12:e86514. doi: 10.7554/eLife.86514.	Original Article
129	Terabe K, Takahashi N, Asai S 他	整形外科	Reasons and risk factors for discontinuation of treatment with any biological disease-modifying antirheumatic drugs in patients with rheumatoid arthritis: A long-term observational study.	Mod Rheumatol. 2023. Aug 25;33(5):891-898. doi: 10.1093/mr/roac090.	Original Article
130	Ikuta K, Nishida Y, Imagama S 他	整形外科	The current management of clear cell sarcoma.	Jpn J Clin Oncol. 2023. Oct 4;53(10):899-904. doi: 10.1093/jjco/hyad083.	Original Article
131	Ito S, Nakashima H, Segi N 他	整形外科	Automated Detection of the Thoracic Ossification of the Posterior Longitudinal Ligament Using Deep Learning and Plain Radiographs.	Biomed Res Int.2023 Nov 27;2023:8495937. doi: 10.1155/2023/8495937. eCollection 2023.	Original Article
132	Ito S, Nakashima H, Segi N 他	整形外科	Association between Locomotive Syndrome and Hearing Loss in Community-Dwelling Adults.	J Clin Med. 2023 Aug 29;12(17):5626. doi: 10.3390/jcm12175626.	Original Article
133	Ito S, Nakashima H, Segi N 他	整形外科	Automated Detection and Diagnosis of Spinal Schwannomas and Meningiomas Using Deep Learning and Magnetic Resonance Imaging.	J Clin Med. 2023. Aug 2;12(15):5075. doi: 10.3390/jcm12155075.	Original Article
134	Sadayuki Ito, Hiroaki Nakashima, Toshitaka Yoshii, Satoru Egawa 他	整形外科	Deep Learning-Based Prediction Model for Postoperative Complications of Cervical Posterior Longitudinal Ligament Ossification.	Eur Spine J.2023 Nov;32(11):3797-3806. doi: 10.1007/s00586-023-07562-2. Epub 2023 Feb 6.	Original Article
135	Segi N, Nakashima H, Machino M 他	整形外科	Prognosis of Cervical Diffuse Idiopathic Skeletal Hyperostosis-Related Spine Injuries in Elderly Patients: Analyses of Both Fracture and Spinal Cord Injury Without Fracture	Global Spine J . 2023 Jul 3;21925682231186757. doi: 10.1177/21925682231186757. Online ahead of print.	Original Article
136	Ouchida J, Ozaki T, Segi N 他	整形外科	Glypican-2 defines age-dependent axonal response to chondroitin sulfate.	Exp Neurol . 2023 Aug;366:114444. doi: 10.1016/j.expneurol.2023.114444. Epub 2023 May 15.	Original Article
137	Ouchida J, Nakashima H, Kanemura T 他	整形外科	Impact of Obesity, Osteopenia, and Scoliosis on Interobserver Reliability of Measures of the Spinopelvic Sagittal Radiographic Parameters.	Spine Surg Relat Res . 2023 Jun 9;7(6):519-525. doi: 10.22603/ssrr.2023-0050. eCollection 2023 Nov 27.	Original Article
138	Ouchida J, Nakashima H, Kanemura T 他	整形外科	Racial differences in whole-body sagittal alignment between Asians and Caucasians based on international multicenter data.	Eur Spine J . 2023 Oct;32(10):3608-3615. doi: 10.1007/s00586-023-07829-8. Epub 2023 Jul 3.	Original Article
139	Ouchida J, Nakashima H, Kanemura T 他	整形外科	Differences in Involvement of Whole-Body Compensatory Alignment for Decompensated Spinopelvic Sagittal Balance.	J Clin Med . 2023 Jul 14;12(14):4690. doi: 10.3390/jcm12144690.	Original Article
140	Ipppei Yamauchi, Hiroaki Nakashima, Sadayuki Ito 他	整形外科	Wedge-Shaped Deformity of the First Sacral Vertebra Associated with Adolescent Idiopathic Scoliosis: A Comparison of Cases with and without Scoliosis	Spine Surg Relat Res . 2023 Sep 4;7(6):540-546. doi: 10.22603/ssrr.2023-0134. eCollection 2023 Nov 27.	Original Article
141	Ipppei Yamauchi, Hiroaki Nakashima, Masaaki Machino 他	整形外科	Relationship between lumbosacral transitional vertebra and postoperative outcomes of patients with Lenke 5C adolescent idiopathic scoliosis: a minimum 5-year follow-up study	Eur Spine J . 2023 Jun;32(6):2221-2227. doi: 10.1007/s00586-023-07752-y. Epub 2023 May 4.	Original Article
142	Sawamura K, Kitoh H, Abe N 他	整形外科	Orthopaedic manifestations in childhood-onset Satoyoshi syndrome: A case report	JOS Case Reports Volume 2, Issue 4, December 2023, Pages 135-139	Original Article

143	Kagami Y, Nakashima H, Satake K 他	整形外科	Anatomical Analysis of the Gonadal Veins and Spine in Lateral Lumbar Interbody Fusion.	J Clin Med . 2023 Apr 21;12(8):3041. doi: 10.3390/jcm12083041.	Original Article
144	Oyama S , Niimi N , Mori M 他	手の外科	Intra-Articular Ultrasonography Probe for Minimally Invasive Upper Extremity Arthroscopic Surgery: A Phantom2023 Study.	J Clin Med.2023 Sep 2;12(17):5727. doi: 10.3390/jcm12175727.	Original Article
145	Yamamoto M, Kato Y, Takeuchi J	手の外科	Hand function and quality of life in patients with diabetes mellitus before and during the COVID-19 pandemic.	Nagoya J Med Sci.2023 Nov;85(4):659-667. doi: 10.18999/najms.85.4.659.	Original Article
146	Saeki M, Yoneda H, Yamamoto M	手の外科	Clinical and radiographic results of lunarectomy and vascularized os pisiform transfer for Kienböck's disease.	JPRAS Open.2023 Dec 15:39:132-141. doi: 10.1016/j.jpra.2023.12.010. eCollection 2024 Mar.	Original Article
147	Iwatsuki K, Hashizume H, Hara Y 他	手の外科	Questionnaire survey about the effects of new lifestyles during the pandemic of COVID-19 on upper limb diseases	J Orthop Sci.2023 Jul;28(4):784-788. doi: 10.1016/j.jos.2022.06.005. Epub 2022 Jun 28.	Original Article
148	Oyama S, Furukawa T, Misawa S 他	手の外科	"In-Hospital Cancer Mortality Prediction by Multimodal Learning of Non-English Clinical Texts	Stud Health Technol Inform.2023 May 18:302:821-822. doi: 10.3233/SHTI230276.	Original Article
149	Osumi M, Sumitani M, Iwatsuki K 他	手の外科	Resting-state Electroencephalography Microstates Correlate with Pain Intensity in Patients with Complex Regional Pain Syndrome.	Clin EEG Neurosci.2024 Jan;55(1):121-129. doi: 10.1177/15500594231204174. Epub 2023 Oct 16.	Original Article
150	Fuma K, Kotani T, Ushida T 他	産科婦人科	Antenatal corticosteroids-to-delivery interval associates cord blood S100B levels	J Obstet Gynaecol Res. 2023 Apr;49(4):1129-1136. doi: 10.1111/jog.15582. Epub 2023 Feb 9.	Original Article
151	Yoshida K, Yokoi A, Kitagawa M 他	産科婦人科	Downregulation of miR 10b 5p facilitates the proliferation of uterine leiomyosarcoma cells: A microRNA sequencing based approach	Oncol Rep. 2023 May;49(5):86. doi: 10.3892/or.2023.8523. Epub 2023 Mar 17.	Original Article
152	Lin X, Yoshikawa N, Liu W 他	産科婦人科	DDIT4 Facilitates Lymph Node Metastasis via the Activation of NF- B Pathway and Epithelial-Mesenchymal Transition	Reprod Sci. 2023 Sep;30(9):2829-2841. doi: 10.1007/s43032-023-01230-y. Epub 2023 Apr 4.	Original Article
153	Asano-Inami E, Yokoi A, Sugiyama M 他	産科婦人科	The association of UBAP2L and G3BP1 mediated by small nucleolar RNA is essential for stress granule formation	Commun Biol. 2023 Apr 14;6(1):415. doi: 10.1038/s42003-023-04754-w.	Original Article
154	Chang X, Tamauchi S, Yoshida K 他	産科婦人科	Downregulating vaccinia-related kinase 1 by luteolin suppresses ovarian cancer cell proliferation by activating the p53 signaling pathway	Gynecol Oncol. 2023 Jun;173:31-40. doi: 10.1016/j.ygyno.2023.04.003. Epub 2023 Apr 17.	Original Article
155	Nei T, Tamauchi S, Ikeda Y 他	産科婦人科	Niraparib as a therapeutic agent for the treatment of ovarian cancer meningeal dissemination with BRCA1 mutation	J Obstet Gynaecol Res. 2023 Jul;49(7):1875-1879. doi: 10.1111/jog.15663. Epub 2023 Apr 28.	Original Article
156	Nakanishi N, Osuka S, Kono T 他	産科婦人科	Upregulated Ribosomal Pathway Impairs Follicle Development in a Polycystic Ovary Syndrome Mouse Model: Differential Gene Expression Analysis of Oocytes	Reprod Sci. 2023 Apr;30(4):1306-1315. doi: 10.1007/s43032-022-01095-7. Epub 2022 Oct 4.	Original Article
157	Miyamoto E, Suzuki H, Yoshihara M 他	産科婦人科	The prognostic impact of limited-staging surgery in patients with stage IA epithelial ovarian cancer: a multi-center study with a propensity score-adjusted analysis	Jpn J Clin Oncol. 2023 Jul 31;53(8):698-703. doi: 10.1093/jcco/hyad039.	Original Article
158	Tano S, Kotani T, Ushida T 他	産科婦人科	Evaluating glucose variability through OGTT in early pregnancy and its association with hypertensive disorders of pregnancy in non-diabetic pregnancies: a large-scale multi-center retrospective study	Diabetol Metab Syndr. 2023 Jun 9;15(1):123. doi: 10.1186/s13098-023-01103-z.	Original Article
159	Yoshikawa N, Yoshida K, Liu W 他	産科婦人科	The prognostic significance of DDIT4 in endometrial cancer	Cancer Biomark. 2023;37(4):217-225. doi: 10.3233/CBM-220368. Published: 10 August 2023.	Original Article
160	Muraoka A, Suzuki M, Hamaguchi T 他	産科婦人科	Fusobacterium infection facilitates the development of endometriosis through the phenotypic transition of endometrial fibroblasts	Sci Transl Med. 2023 Jun 14;15(700):eadd1531. doi: 10.1126/scitranslmed.add1531. Epub 2023 Jun 14.	Original Article
161	Imai K, Nozaki Y, Ushida T 他	産科婦人科	Comparison of the efficacy between controlled-release dinoprostone delivery system (PROPESS) and Cook's double balloon catheter plus oxytocin: A retrospective single-center study in Japan	J Obstet Gynaecol Res. 2023 Sep;49(9):2317-2323. doi: 10.1111/jog.15734. Epub 2023 Jun 29.	Original Article
162	Yokoi A, Ukai M, Yasui T 他	産科婦人科	Identifying high-grade serous ovarian carcinoma-specific extracellular vesicles by polyketone-coated nanowires	Sci Adv. 2023 Jul 7;9(27):eade6958. doi: 10.1126/sciadv.ade6958. Epub 2023 Jul 7.	Original Article
163	Nakamura N, Ushida T, Onoda A 他	産科婦人科	Altered offspring neurodevelopment in an L-NAME-induced preeclampsia rat model	Front Pediatr. 2023 Jul 13;11:1168173. doi: 10.3389/fped.2023.1168173. eCollection 2023.	Original Article
164	Ushida T, Nakamura N, Katsuki S 他	産科婦人科	New-onset postpartum hypertension in women without a history of hypertensive disorders of pregnancy: a multicenter study in Japan	Hypertens Res. 2023 Dec;46(12):2583-2592. doi: 10.1038/s41440-023-01372-1. Epub 2023 Jul 18.	Original Article
165	Uno K, Yoshikawa N, Kitami K 他	産科婦人科	The sarcopenia index measured using the lumbar paraspinal muscle is associated with prognosis in endometrial cancer	Jpn J Clin Oncol. 2023 Oct 4;53(10):942-949. doi: 10.1093/jcco/hyad086.	Original Article
166	Yoshihara M, Iyoshi S, Mogi K 他	産科婦人科	Ovarian cancer: Novel mechanisms and therapeutic targets regarding the microenvironment in the abdominal cavity	J Obstet Gynaecol Res. 2023 Nov;49(11):2620-2628. doi: 10.1111/jog.15756. Epub 2023 Aug 2.	Review
167	Niimi K, Yamamoto E, Oda Y 他	産科婦人科	A case of complete remission of intractable gestational choriocarcinoma with subsequent chemotherapy after pembrolizumab	Taiwan J Obstet Gynecol. 2023 Sep;62(5):745-748. doi: 10.1016/j.tjog.2023.07.019.	Case Report
168	Yoshihara M, Mizutani S, Matsumoto K 他	産科婦人科	The balance between fetal oxytocin and placental leucine aminopeptidase (P-LAP) controls human uterine contraction around labor onset	Eur J Obstet Gynecol Reprod Biol X. 2023 Jun 21;19:100210. doi: 10.1016/j.eurox.2023.100210. eCollection 2023 Sep.	Original Article
169	Iitani Y, Miki R, Imai K 他	産科婦人科	Interleukin-17A stimulation induces alterations in Microglial microRNA expression profiles	Pediatr Res. 2024 Jan;95(1):167-173. doi: 10.1038/s41390-023-02825-6. Epub 2023 Sep 27.	Original Article
170	Suzuki H, Yokoi A, Uno K 他	産科婦人科	Small Extracellular Vesicles from adipose-derived stem cells suppress cell proliferation by delivering the let-7 family of microRNAs in ovarian cancer	Biochem Biophys Res Commun. 2023 Nov 5;680:211-219. doi: 10.1016/j.bbrc.2023.09.022. Epub 2023 Sep 13.	Original Article
171	Yoshita S, Osuka S, Shimizu T 他	産科婦人科	Unkeito promotes follicle development by restoring reduced follicle-stimulating hormone responsiveness in rats with polycystic ovary syndrome	Front Endocrinol (Lausanne). 2023 Sep 18;14:1228088. doi: 10.3389/fendo.2023.1228088. eCollection 2023.	Original Article

172	Yoshikawa N, Matsukawa T, Hattori S 他	産科婦人科	Mean platelet volume as a potential biomarker for survival outcomes in ovarian clear cell carcinoma	Int J Clin Oncol. 2023 Dec;28(12):1680-1689. doi: 10.1007/s10147-023-02417-8. Epub 2023 Oct 7.	Original Article
173	Price ZK, Lokman NA, Sugiyama M 他	産科婦人科	Disabled-2: a protein up-regulated by high molecular weight hyaluronan has both tumor promoting and tumor suppressor roles in ovarian cancer	Cell Mol Life Sci. 2023 Oct 10;80(11):320. doi: 10.1007/s00018-023-04972-9.	Original Article
174	Matsuo S, Ushida T, Tano S 他	産科婦人科	Sex-specific differences in head circumference of term singletons after assisted reproductive technology: a multicentre study in Japan	Reprod Biomed Online. 2023 Dec;47(6):103331. doi: 10.1016/j.rbmo.2023.103331. Epub 2023 Aug 6.	Original Article
175	Yoshikawa N, Itoh Y, Matsukawa T 他	産科婦人科	Local hyperthermia with built-in endoscopy for radioresistant cervical cancer: a case series	Nagoya J Med Sci. 2023 Aug;85(3):639-647. doi: 10.18999/najms.85.3.639.	Case Report
176	Mizutani S, Mizutani H, Mizutani E 他	産科婦人科	The Fate of Angiotensin II in Placental Tissue and Blood	Horm Metab Res. 2023 Dec 11. doi: 10.1055/a-2202-3894. Online ahead of print.	Original Article
177	Mogi K, Koya Y, Yoshihara M 他	産科婦人科	9-oxo-ODAs suppresses the proliferation of human cervical cancer cells through the inhibition of CDKs and HPV oncoproteins	Sci Rep. 2023 Nov 6;13(1):19208. doi: 10.1038/s41598-023-44365-3.	Original Article
178	Tamauchi S, Iyoshi S, Yoshihara M 他	産科婦人科	An update of oncologic and obstetric outcomes of radical trachelectomy for early-stage cervical cancer: The need for further minimally invasive treatment	J Obstet Gynaecol Res. 2024 Feb;50(2):175-181. doi: 10.1111/jog.15824. Epub 2023 Nov 6.	Original Article
179	Nakagawa A, Tamauchi S, Sato M 他	産科婦人科	Effect of radical trachelectomy on ovarian reserve: A single-institute prospective study	J Obstet Gynaecol Res. 2024 Feb;50(2):212-217. doi: 10.1111/jog.15828. Epub 2023 Nov 8.	Original Article
180	Yokoi A, Yoshida K, Koga H 他	産科婦人科	Spatial exosome analysis using cellulose nanofiber sheets reveals the location heterogeneity of extracellular vesicles	Nat Commun. 2023 Nov 8;14(1):6915. doi: 10.1038/s41467-023-42593-9.	Original Article
181	Oda Y, Niimi K, Yoshida K 他	産科婦人科	Establishment and characterization of a non-gestational choriocarcinoma patient-derived xenograft model	BMC Cancer. 2023 Nov 13;23(1):1103. doi: 10.1186/s12885-023-11626-3.	Original Article
182	Kotani T, Tano S.	産科婦人科	Long-term effects of gestational weight gain on mortality	Lancet. 2023 Nov 18;402(10415):1809-1811. doi: 10.1016/S0140-6736(23)01837-8. Epub 2023 Oct 19.	Letter
183	Yabuki A, Muraoka A, Osuka S 他	産科婦人科	Serum miRNA as a predictive biomarker for ovarian reserve after endometrioma-cystectomy	Reprod Biol. 2024 Mar;24(1):100821. doi: 10.1016/j.repbio.2023.100821. Epub 2023 Nov 22.	Original Article
184	Yabuki A, Muraoka A, Tamauchi S 他	産科婦人科	The influence of radical trachelectomy on endometrial thickness in in vitro fertilization-embryo transfer	J Obstet Gynaecol Res. 2024 Feb;50(2):218-224. doi: 10.1111/jog.15841. Epub 2023 Nov 23.	Original Article
185	Osuka S, Kasahara Y, Iyoshi S 他	産科婦人科	Follicle development and its prediction in patients with primary ovarian insufficiency: Possible treatments and markers to maximize the ability to conceive with residual follicles	Reprod Med Biol. 2023 Dec 22;22(1):e12556. doi: 10.1002/rmb.212556. eCollection 2023 Jan-Dec.	Original Article
186	Muraoka A, Yokoi A, Kajiyama H	産科婦人科	Emerging bacterial factors for understanding pathogenesis of endometriosis	iScience. 2023 Dec 15;27(1):108739. doi: 10.1016/j.isci.2023.108739. eCollection 2024 Jan 19.	Review
187	Uno K, Koya Y, Yoshihara M 他	産科婦人科	Chondroitin Sulfate Proteoglycan 4 Provides New Treatment Approach to Preventing Peritoneal Dissemination in Ovarian Cancer	Int J Mol Sci. 2024 Jan 28;25(3):1626. doi: 10.3390/ijms25031626.	Original Article
188	Tanaka H, Motooka Y, Maeda Y 他	産科婦人科	Brca2((p.T1942fs/+)) dissipates ovarian reserve in rats through oxidative stress in follicular granulosa cells	Free Radic Res. 2024 Feb;58(2):130-143. doi: 10.1080/10715762.2024.2320405. Epub 2024 Feb 29.	Original Article
189	Muraoka A, Yokoi A, Yoshida K 他	産科婦人科	Small extracellular vesicles in follicular fluids for predicting reproductive outcomes in assisted reproductive technology.	Communications medicine 2024 Feb 28;4(1):33. doi: 10.1038/s43856-024-00460-8.	Original Article
190	Ushida T, Tano S, Imai K 他	産科婦人科	Postpartum and interpregnancy care of women with a history of hypertensive disorders of pregnancy	Hypertens Res. 2024 Jun;47(6):1457-1469. doi: 10.1038/s41440-024-01641-7. Epub 2024 Mar 11.	Original Article
191	Arafuka S, Fujishiro H, Torii Y 他	精神科	Neuropathological substrate of incident dementia in older patients with schizophrenia: A clinicopathological study.	Psychiatry Clin Neurosci 2024 Jan;78(1):29-40. doi: 10.1111/pcn.13597.	Original Article
192	Fujishiro H, Matsubayashi R, Torii Y 他	精神科	Response to 'Fluctuation of dopamine transporter availability in psychiatric-onset dementia with Lewy bodies: the dilemma of treatment with antidepressants'	Psychogeriatrics 2023 May;23(3):556-557, 2023 doi: 10.1111/psyg.12948.	Letter
193	Arafuka S, Sekiguchi H, Fujishiro H 他	精神科	Late-onset panic disorder as the initial presentation in autopsy-confirmed dementia with Lewy bodies.	Psychiatry Clin Neurosci Apr;77(4):242-244, 2023 doi: 10.1111/pcn.13532.	Letter
194	Kawai K, Iwamoto K, Miyata S 他	精神科	Comparison of Polysomnography, Single-Channel Electroencephalogram, Fitbit, and Sleep Logs in Patients With Psychiatric Disorders: Cross-Sectional Study	J Med Internet Res. 2023 Dec 13;25:e51336. doi: 10.2196/51336	Original Article
195	Kawai K, Iwamoto K, Miyata S 他	精神科	LPS and its relationship with subjective-objective discrepancies of sleep onset latency in patients with psychiatric disorders.	Sci Rep. 2023 Dec 19;13(1):22637. doi: 10.1038/s41598-023-49261-4	Original Article
196	Wada S, Iwamoto K, Okumura H 他	精神科	Effect of single-administration of D-sorbitol pretreatment on the bitterness and continued willingness to take asenapine: a randomized, single-blind, placebo-controlled, crossover trial	BMC Psychiatry. 2024 Jan 30;24(1):81. doi: 10.1186/s12888-024-05549-x	Original Article
197	Iwamoto K, Nakabayashi T, Yamaguchi A 他	精神科	The new guideline for evaluating effects of psychotropic drugs on the performance to drive a motor vehicle in Japan: Comparison with US FDA guideline	Neuropsychopharmacol Rep. 2023 Jun;43(2):172-176. doi: 10.1002/npr2.12339	Review
198	Miyata S, Iwamoto K, Okada I 他	精神科	Assessing the Real-World, Long-Term Impact of Lemborexant on Sleep Quality in a Home-Based Clinical Study	Nat Sci Sleep. 2024 Mar 19;16:291-303. doi: 10.2147/NSS.S448871	Original Article
199	Lo T, Kushima I, Kimura H 他	精神科	Association between copy number variations in parkin (PRKN) and schizophrenia and autism spectrum disorder: A case-control study	Neuropsychopharmacol Rep. 2024 Mar;44(1):42-50	Original Article
200	Furukawa S, Kushima I, Aleksic B 他	精神科	Case reports of two siblings with autism spectrum disorder and 15q13.3 deletions	Neuropsychopharmacol Rep. 2023 Sep;43(3):462-466.	Case Report

201	Yamashita D, Muramatsu H, Narita A 他	小兒科	Hematological abnormalities in Jacobsen syndrome: cytopenia of varying severities and morphological abnormalities in peripheral blood and bone marrow	Haematologica. 2023 Dec 1;108(12):3438-3443. doi: 10.3324/haematol.2022.282513.	Letter
202	Go K, Horiba K, Yamamoto H 他	小兒科	Dysbiosis of gut microbiota in patients with protein-losing enteropathy after the Fontan procedure.	Int J Cardiol. 2024 Feb 1:396:131554. doi: 10.1016/j.ijcard.2023.131554	Original Article
203	Suzuki Y, Murase C, Ushijima Y 他	皮膚科	A case of advanced diffuse large B-cell lymphoma diagnosed from widespread superficial mycosis of the skin.	J Eur Acad Dermatol Venereol.2023. Jun;37 (6): e779-e781.doi: 10.1111/jdv.18937. Epub 2023 Feb 14.	Letter
204	Okumura M, Ogata D, Namikawa K 他	皮膚科	Adenosquamous carcinoma of the Bartholin gland treated with surgery and radiotherapy	Eur J Dermatol.2023 Jun;33 (3): 309-311.doi: 10.1684/ejd.2023.4488.	Letter
205	Okumura M, Ogata D, Namikawa K 他	皮膚科	Functional preservation benefits of minimal surgery for extramammary Paget's disease	Exp Dermatol.2023. Oct;32 (10): 1644-1650.doi: 10.1111/exd.14866. Epub 2023 Jun 28.	Original Article
206	Fukaura R, Terashima-Murase C, Ota M 他	皮膚科	Methicillin-resistant Staphylococcus aureus-induced staphylococcal scalded skin syndrome in a pre-term infant, and subsequent toxicogenic analysis	J Dermatol.2023. Dec;50 (12): e422-e423.doi: 10.1111/1346-8138.16929. Epub 2023 Aug 22.	Letter
207	Fukaura R, Akiyama M	皮膚科	Targeting IL-36 in inflammatory skin diseases	BioDrugs.2023. May;37 (3): 279-293.doi: 10.1007/s40259-023-00587-5. Epub 2023 Mar 3.	Review
208	Akiyama M	皮膚科	Diseases categorized as autoinflammatory keratinization diseases (AiKDs), and their pathologies and treatments	Nagoya J Med Sci.2024. Feb;86 (1): 1-15.doi: 10.18999/nagjms.86.1.1.	Review
209	Koizumi H, Muro Y, Yamashita Y 他	皮膚科	Anti-KIF20B autoantibodies in systemic autoimmune rheumatic diseases: Their high prevalence in systemic lupus erythematosus.	J Dermatol. 2023 Aug;50(8):990-998. doi: 10.1111/1346-8138.16813. Epub 2023 Apr 26.	Original Article
210	Koizumi H, Muro Y, Kamiya S 他	皮膚科	Comment on: Successful treatment of rapid progressive interstitial lung disease in a case of anti-Zo antibody positive anti-synthetase syndrome.	Int J Rheum Dis. 2023 Sep;26(9):1872-1873. doi: 10.1111/1756-185X.14654.	Letter
211	Kamiya S, Koizumi H, Suzuki Y 他	皮膚科	Cutaneous manifestations of microscopic polyangiitis successfully controlled with avacopan alone.	J Dermatol. 2023 Jul;50(7):e206-e207.doi: 10.1111/1346-8138.16726. Epub 2023 Jan 18.	Case Report
212	Shukuin R, Koizumi H, Ebata A 他	皮膚科	Successful combination therapy of bimekizumab and granulocyte adsorption apheresis for generalized pustular psoriasis complicated with microscopic polyangiitis.	J Dermatol. 2023 Jun;50(6):e181-e182. doi: 10.1111/1346-8138.16707. Epub 2023 Feb 5.	Case Report
213	Fukaura R, Takeichi T, Ebata A 他	皮膚科	COVID-19 infection- and vaccination-related exacerbation of Darier's disease in a single patient	J Dermatol. 2023 Jun;50(6):833-836. doi: 10.1111/1346-8138.16725. Epub 2023 Jan 18.	Case Report
214	Fukaura R, Takeichi T, Ebata A 他	皮膚科	Ichthyotic skin lesions of Conradi-Hünermann-Happle syndrome successfully treated with dupilumab	J Eur Acad Dermatol Venereol. 2023 Jun;37(6):e732-e734. doi: 10.1111/jdv.18894. Epub 2023 Jan 31.	Case Report
215	Takeichi T, Ito Y, Lee JYW 他	皮膚科	KLK11 ichthyosis: large truncal hyperkeratotic pigmented plaques underscore a distinct autosomal dominant disorder of cornification	Br J Dermatol. 2023 Jul 7;189(1):134-136. doi: 10.1093/bjd/ljad082.	Case Report
216	Takeichi T, Muro Y, Akiyama M	皮膚科	Ichthyotic skin phenotype induced by the chronic activation of Toll-like receptor 2, and autoinflammation	Br J Dermatol. 2023 Jul 17;189(2):252. doi: 10.1093/bjd/ljad122.	Letter
217	Takeuchi S, Takeichi T, Muro Y 他	皮膚科	Plucked scalp hair follicle samples are useful RNA sources for mRNA analysis of most genodermatosis-associated genes	J Dermatol Sci. 2023 Aug;111(2):68-70. doi: 10.1016/j.jdermsci.2023.06.004. Epub 2023 Jun 15.	Letter
218	Sawa M, Murase C, Yamada N 他	皮膚科	Giant condyloma of Buschke-Löwenstein in a Netherton syndrome patient, successfully treated with cryotherapy and intravenous immunoglobulin	J Dermatol. 2023 Sep;50(9):e289-e291. doi: 10.1111/1346-8138.16798. Epub 2023 Apr 5.	Case Report
219	Takeichi T, Yoshikawa T, Iqbal MN 他	皮膚科	Mild generalised pustular psoriasis patient with a heterozygous hypomorphic MPO variant successfully treated with granulocyte and monocyte adsorption apheresis	Exp Dermatol. 2023 Sep;32(9):1557-1562. doi: 10.1111/exd.14846. Epub 2023 Jun 1.	Original Article
220	Omi M, Takeichi T, Chiba T 他	皮膚科	An in-frame 18bp deletion in linker domain L1 of KRT9 identified in a Japanese patient with epidermolytic palmoplantar keratoderma	J Dermatol. 2023 Nov;50(11):e370-e372. doi: 10.1111/1346-8138.16880. Epub 2023 Jul 3.	Case Report
221	Takeichi T, Hamada T, Yamamoto M 他	皮膚科	Patients with keratinization disorders due to ABCA12 variants showing pityriasis rubra pilaris phenotypes	J Dermatol. 2024 Jan;51(1):101-105. doi: 10.1111/1346-8138.16967. Epub 2023 Sep 27.	Case Report
222	Akashi N, Ogawa-Momohara M, Taki T 他	皮膚科	Correlation of serum allergen-specific IgE with total serum IgE and IgE specific to other allergens in Atopic dermatitis patients.	J Eur Acad Dermatol Venereol. 2024 Feb 19.doi: 10.1111/jdv.19872. Online ahead of print.	Letter
223	Ebata A, Ogawa-Momohara M, Fukaura R 他	皮膚科	Increased Janus kinase activation in cutaneous vasculitis	J Am Acad Dermatol. 2024 Mar;90(3):627-629. doi: 10.1016/j.jaad.2023.10.056. Epub 2023 Nov 3.	Letter
224	Ogawa-Momohara M, Muro Y, Murase C 他	皮膚科	Allergen-specific IgG4 increase in atopic dermatitis with long-term dupilumab use.	Br J Dermatol. 2023 Sep 15;189(4):472-474.doi: 10.1093/bjd/ljad207.	Letter
225	Nakane Y, Yoshikawa T, Takeichi T 他	皮膚科	Dual clinical features of fine and rough scales seen in a combined ichthyosis vulgaris and X-linked recessive ichthyosis patient with atopic dermatitis.	J Dermatol. 2024 Feb;51(2):e49-e50.doi: 10.1111/1346-8138.16968. Epub 2023 Sep 21.	Letter
226	Miyazaki A, Taki T, Mori S 他	皮膚科	Acquired reactive perforating collagenosis and eosinophilic granulomatosis with polyangiitis developing simultaneously in a diabetic patient	J Cutan. Immunol Allergy.2024 Feb; doi.org/10.3389/jcia.2024.12594	Case Report
227	Ishikawa.T, Matsukawa.Y, Naito.Y 他	泌尿器科	Adiponectin can be a good predictor of urodynamic detrusor underactivity: a prospective study in men with lower urinary tract symptoms	World J Urol. 2023 Apr;41(4):1117-1124doi: 10.1007/s00345-023-04341-y. Epub 2023 Feb 24.	Original Article
228	Naito.Y, Kato.M, Nagayama.J 他	泌尿器科	Recent insights on the clinical, pathological, and molecular features of intraductal carcinoma of the prostate.	Int J Urol. 2024 Jan;31(1):7-16. doi: 10.1111/iju.15299. Epub 2023 Sep 20.	Original Article
229	Matsukawa.Y, Kameya.Y, Takahashi.T 他	泌尿器科	Characteristics of uroflowmetry patterns in men with detrusor underactivity revealed by artificial intelligence	Int J Urol. 2023 Oct;30(10):907-912. doi: 10.1111/iju.15233. Epub 2023 Jun 21.	Original Article

230	Kobayashi M, Yoshida T, Sugimoto S 他	耳鼻咽喉科	Disruption of the blood-perilymph barrier preceding endolymphatic hydrops formation in Meniere's disease.	Otol Neurotol 2023;44(10):e766-e767. doi: 10.1097/MAO.0000000000003981.Epub 2023 Aug 15.	Original Article
231	Kobayashi M, Yoshida T, Fukunaga Y 他	耳鼻咽喉科	Improvement of vertigo symptoms and acoustic power absorbance in cases with endolymphatic hydrops	Laryngoscope Investig Otolaryngol. 2024 Jan 8;9(1):e1210. doi: 10.1002/lio2.1210.	Original Article
232	Sugimoto S, Yoshida T, Fukunaga Y 他	耳鼻咽喉科	Comparative Analysis of Cartilage Conduction Hearing Aid Users and Non-Users: An Investigative Study.	Audiol Res. 2023 Jul 27;13(4):563-572. doi: 10.3390/audiolres13040049.	Original Article
233	Yoshida T, Hara D, Kobayashi M 他	耳鼻咽喉科	Evaluation of the Listening Environment of Bilateral Cochlear Implant Users through Data Logging: A Comparison of Bilateral Simultaneous and Sequential Implantation	Otol Neurotol. 2023 Sep 1;44(8):e560-e565. doi: 10.1097/MAO.0000000000003955. Epub 2023 Jul 29.	Original Article
234	Sone M, Kobayashi M, Yoshida T 他	耳鼻咽喉科	Pathophysiological analysis of idiopathic sudden sensorineural hearing loss by magnetic resonance imaging: A mini scoping review.	Frontiers in neurology 2023 Apr 20;14:1193104. doi: 10.3389/fneur.2023.1193104.	Review
235	Yoshida T, Kobayashi M, Sugimoto S 他	耳鼻咽喉科	Labyrinthine calcification in ears with otitis media and antineutrophil cytoplasmic antibody-associated vasculitis (OMAAV): A report of two cases.	Auris, nasus, larynx 2023 Apr;50(2):299-304. doi: 10.1016/j.anl.2022.01.004.	Case Report
236	Kobayashi M, Katayama N, Yoshida T 他	耳鼻咽喉科	Significance of an augmented response on cervical vestibular evoked myogenic potential testing in Meniere's disease	Nagoya journal of medical science 2023 May;85(2):375-379. doi: 10.18999/nagjms.85.2.375.	Case Report
237	Naganawa S, Taoka T, Ito R 他	放射線科	The Glymphatic System in Humans: Investigations With Magnetic Resonance Imaging	Invest Radiol. 2024 Jan 1;59(1):1-12. doi: 10.1097/RLI.0000000000000969.	Original Article
238	Naganawa S, Ito R, Kawamura M 他	放射線科	Association between the Putative Meningeal Lymphatics at the Posterior Wall of the Sigmoid Sinus and Delayed Contrast-agent Elimination from the Cerebrospinal Fluid	Magn Reson Med Sci. 2024 Jan 1;23(1):80-91. doi: 10.2463/mrms.mp.2022-0110. Epub 2023 Jan 19.	Original Article
239	Naganawa S, Kato Y, Yoshida T 他	放射線科	Fluid signal suppression characteristics of 3D-FLAIR with a T2 selective inversion pulse in the skull base	Nat Commun. 2023 Aug 16;14(1):4915. doi: 10.1038/s41467-023-40507-3.	Original Article
240	Taoka T	放射線科	In reply: the improvement technique for reproducibility of diffusion tensor image analysis along the perivascular space (DTI-ALPS) for evaluating interstitial fluid diffusivity and glymphatic function	Jpn J Radiol. 2023 Sep;41(9):1031-1032. doi: 10.1007/s11604-023-01431-0.	Review
241	Taoka T, Ito R, Nakamichi R 他	放射線科	Interstitial Fluidopathy of the Central Nervous System: An Umbrella Term for Disorders with Impaired Neurofluid Dynamics	Magn Reson Med Sci. 2024 Jan 1;23(1):1-13. doi: 10.2463/mrms.rev.2022-0012. Epub 2022 Nov 25.	Review
242	Iwano S, Kamiya S, Ito R 他	放射線科	Measurement of solid size in early-stage lung adenocarcinoma by virtual 3D thin-section CT applied artificial intelligence	Sci Rep. 2023 Dec 7;13(1):21709. doi: 10.1038/s41598-023-48755-5.	Original Article
243	Kawamura M, Kamomae T, Yanagawa M 他	放射線科	Revolutionizing radiation therapy: the role of AI in clinical practice	J Radiat Res. 2024 Jan 19;65(1):1-9. doi: 10.1093/jrr/rrad090.	Review
244	Hyodo R, Takehara Y, Mizuno T 他	放射線科	Four-dimensional Flow MRI Assessment of Portal Hemodynamics and Hepatic Regeneration after Portal Vein Embolization	Radiology. 2023 Sep;308(3):e230709. doi: 10.1148/radiol.230709.	Original Article
245	Hyodo R, Takehara Y, Nishida A 他	放射線科	"Speckled Enhancement" on Gd-EOB-DTPA Enhanced MR Imaging of Primary Hepatic Mucosa-associated Lymphoid Tissue Lymphoma	Magn Reson Med Sci. 2023 Jul 1;22(3):273-281. doi: 10.2463/mrms.mp.2021-0069. Epub 2021 Oct 7.	Original Article
246	Horiguchi R, Takehara Y, Sugiyama M 他	放射線科	Postendovascular Aneurysmal Repair Increase in Local Energy Loss for Fusiform Abdominal Aortic Aneurysm: Assessments With 4D flow MRI	J Magn Reson Imaging. 2023 Apr;57(4):1199-1211. doi: 10.1002/jmri.28359. Epub 2022 Jul 21.	Original Article
247	Nagai N, Koide Y, Shindo Y 他	放射線科	Retrospective non inferiority study of stereotactic radiosurgery for more than ten brain metastases	J Neurooncol. 2023 Jun;163(2):385-395. doi: 10.1007/s11060-023-04358-8. Epub 2023 Jun 7.	Original Article
248	Tamura T, Suzuki S, Fujii T 他	麻酔科	Thromboelastographic evaluation after cardiac surgery optimizes transfusion requirements in the intensive care unit: a single-center retrospective cohort study using an inverse probability weighting method	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2024 Jan;72(1):15-23. doi: 10.1007/s11748-023-01941-8. Epub 2023 May 12.	Original Article
249	Takakura M, Fujii T, Taniguchi T 他	麻酔科	Accuracy of a noninvasive estimated continuous cardiac output measurement under different respiratory conditions: a prospective observational study	J Anesth. 2023 Jun;37(3):394-400. doi: 10.1007/s00540-023-03176-6. Epub 2023 Mar 11.	Original Article
250	Tamura T, Yokoyama T, Nishiwaki K.	麻酔科	Amplitude at 10 min in thromboelastography predicts maximum amplitude: a single-center observational study	J Anesth. 2024 Feb;38(1):136-140. doi: 10.1007/s00540-023-03301-5. Epub 2024 Jan 11.	Original Article
251	Chen H, Yamaguchi S, Wang Y 他	歯科口腔外科	Cytoprotective role of human dental pulp stem cell-conditioned medium in chemotherapy-induced alopecia	Stem Cell Research & Therapy.2024 Mar;15(1): 84. doi: 10.1186/s13287-024-03695-3.	Original Article
252	Ohara G, Okabe K, Toyama N 他	歯科口腔外科	Stem cell therapy based on human periodontal ligament stem cells preactivated with TNF- α as for human head and neck squamous cell carcinoma	Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology.2024 Mar; 36(2):217-226. doi: 10.1016/j.ajoms.2023.08.006.	Original Article
253	Kobayashi T, Ichimura N, Urata Y 他	歯科口腔外科	Tooth extraction in a patient with severe hemophilia A controlled with emicizumab	Oral Science in Japan.2024 Mar; 17-18.	Case Report
254	Sato K, Yang M, Nakamura K 他	歯科口腔外科	Ferroptosis induced by plasma-activated Ringer's lactate solution prevents oral cancer progression	Oral Diseases.2023 Dec 4.doi: 10.1111/odi.14827. Online ahead of print.	Original Article
255	Yamaguchi S, Toyama N, Kaminogo K 他	歯科口腔外科	Preoperative controlling nutritional status (CONUT) is a predictor of short-term outcomes in patients with oral cancer	Oral Oncology Reports.2023 Dec;8:100119.	Original Article
256	Chang Q, Fujio M, Tsuboi M 他	歯科口腔外科	High-mobility group box 1 accelerates distraction osteogenesis healing via the recruitment of endogenous stem/progenitor cells	Cytotherapy . 2023 Sep;25(9):946-955. doi: 10.1016/j.jcyt.2023.05.013.Epub 2023 Jun 24.	Original Article
257	Ohara G, Okabe K, Toyama N 他	歯科口腔外科	Hyperthermia maintains death receptor expression and promotes TRAIL-induced apoptosis	Journal of Oral Pathology & Medicine.2023 Sep;52(8):718 - 726. doi:10.1111/jop.13457.	Original Article
258	Yamaguchi S, Kaminogo K, Tokura T 他	歯科口腔外科	Postoperative social adaptation in correlation with the number of supporters for patients with oral cancer	Oral Oncology Reports.2023 Jun;6:100054.	Original Article

259	Song X, Okabe K, Ohta Y 他	齒科口腔外科	Family with sequence similarity 20 member B regulates osteogenic differentiation of bone marrow mesenchymal stem cells on titanium surfaces	Acta Biomaterialia. 2023 Apr;161:298-308. doi: 10.1016/j.actbio.2023.02.035.	Original Article
260	Nishikawa T, Ohka F, Aoki K 他	脳神経外科	Easy-to-use machine learning system for the prediction of IDH mutation and 1p/19q codeletion using MRI images of adult-type diffuse gliomas.	Brain Tumor Pathol. 2023 Apr;40(2):85-92. doi: 10.1007/s10014-023-00459-4.	Original Article
261	Yamaguchi J, Ohka F, Kitano Y 他	脳神経外科	Rapid detection of the MYD88 L265P mutation for pre- and intra-operative diagnosis of primary central nervous system lymphoma.	Cancer Sci. 2023 Jun;114(6):2544-2551. doi: 10.1111/cas.15762.	Original Article
262	Yamaguchi J, Ohka F, Motomura K 他	脳神経外科	Latest classification of ependymoma in the molecular era and advances in its treatment: a review.	Jpn J Clin Oncol. 2023 Jul 31;53(8):653-663. doi: 10.1093/jcco/hyad056.	Original Article
263	Yamaguchi J, Ohka F, Lushun C 他	脳神経外科	CD79B Y196 mutation is a potent predictive marker for favorable response to R-MPV in primary central nervous system lymphoma.	Cancer Med. 2023 Mar;12(6):7116-7126. doi: 10.1002/cam4.5512.	Original Article
264	Kibe Y, Motomura K, Ohka F 他	脳神経外科	Imaging features of localized IDH wild-type histologically diffuse astrocytomas: a single-institution case series.	Sci Rep. 2023 Jan 16;13(1):23. doi: 10.1038/s41598-022-25928-2.	Original Article
265	Motomura K, Kawamura A, Ohka F 他	脳神経外科	Predictive factors of post-operative apathy in patients with diffuse frontal gliomas undergoing awake brain mapping.	J Neuropsychol. 2024 Mar;18 Suppl 1:73-84. doi: 10.1111/jnp.12345.	Original Article
266	Motomura K, Kibe Y, Ohka F 他	脳神経外科	Clinical characteristics and radiological features of glioblastoma, IDH-wildtype, grade 4 with histologically lower-grade gliomas.	Brain Tumor Pathol. 2023 Apr;40(2):48-55. doi: 10.1007/s10014-023-00458-5.	Original Article
267	Akahori S, Nishimura Y, Eguchi K 他	脳神経外科	Comparative Study of Anterior Transvertebral Foraminotomy and Anterior Cervical Discectomy and Fusion for Unilateral Cervical Spondylotic Radiculopathy.	World Neurosurg. 2023 Mar;171:e516-e523. doi: 10.1016/j.wneu.2022.12.053. Epub 2022 Dec 14.	Original Article
268	Ishii M, Nishimura Y, Hara M 他	脳神経外科	Surgical Outcomes of Common Peroneal Nerve Entrapment Neuropathy Associated with L5 Radiculopathy	Neurol Med Chir (Tokyo). 2023 Aug 15;63(8):350-355. doi: 10.2176/jns-nmc.2022-0313. Epub 2023 Jun 8	Original Article
269	Nishii T, Nishimura Y, Nagashima Y 他	脳神経外科	Comparative Study of Surgical Outcomes of Occipitocervical and Atlantoaxial Fusion for Retro-Odontoid Pseudotumor	World Neurosurg. 2023 Oct;178:e230-e238. doi: 10.1016/j.wneu.2023.07.038. Epub 2023 Jul 20	Original Article
270	Yoshikawa S, Nishimura Y, Nagashima Y 他	脳神経外科	Evaluation of Posterior Ligamentous Complex Injury in Thoracolumbar Burst Fractures: Correlation Analysis of CT and MRI Findings	Neurol Med Chir (Tokyo). 2023 Apr 15;63(4):158-164. doi: 10.2176/jns-nmc.2021-0390. Epub 2023 Mar 1.	Original Article
271	Ishii K, Kanamori F, Araki Y 他	脳神経外科	Effect of thin-split encephalomyosynangiosis on transient neurological events in revascularization surgery for pediatric patients with moyamoya disease	J Neurosurg Pediatr. 2023 Oct 13;33(1):29-34. doi: 10.3171/2023.8.PEDS23295.	Original Article
272	Takayanagi K, Kanamori F, Ishii K 他	脳神経外科	Higher abundance of Campylobacter in the oral microbiome of Japanese patients with moyamoya disease.	Sci Rep. 2023 Oct 29;13(1):18545. doi: 10.1038/s41598-023-45755-3.	Original Article
273	Takeuchi K, Nagata Y, Sasagawa Y 他	脳神経外科	Safety and efficacy of the endoscopic transsphenoidal transclival approach performed using direct cortical stimulation for pontine cavernous malformations.	J Neurosurg. 2023 Aug 4;140(2):469-477. doi: 10.3171/2023.6.JNS23324.	Original Article
274	Takeuchi K, Ohka F, Nagata Y 他	脳神経外科	Endoscopic debulking canalization for optic pathway glioma with obstructive hydrocephalus.	Childs Nerv Syst. 2023 Dec;39(12):3421-3425. doi: 10.1007/s00381-023-06053-5.	Original Article
275	Fuse Y, Nagashima Y, Nishiwaki H 他	脳神経外科	Development of machine learning models for predicting unfavorable functional outcomes from preoperative data in patients with chronic subdural hematomas.	Scientific Reports. 2023 Oct;13(1):16997. doi: 10.1038/s41598-023-44029-2.	Original Article
276	Fuse Y, Takeuchi K, Hashimoto N 他	脳神経外科	Deep learning based identification of pituitary adenoma on surgical endoscopic images: a pilot study	Neurosurgical Review. 2023 Nov; 46; 291. doi: 10.1007/s10143-023-02196-w	Original Article
277	Nagashima Y, Nishimura Y, Awaya T 他	脳神経外科	Radiographic Prediction of the Occipito-C2 Angle Variation with Changes in Distance between the Mandible and Cervical Vertebrae: A Preliminary Study.	Neurol Med Chir (Tokyo). 2023 May 15;63(5):200-205. doi: 10.2176/jns-nmc.2022-0251.	Original Article
278	Nagashima Y, Nishimura Y, Kanemura T 他	脳神経外科	Lateral Lumbar Interbody Fusion within Three-level for Patients with Neurological Symptoms due to Vertebral Fragility Fractures in the Lumbar Spine.	Neurol Med Chir (Tokyo). 2023 Dec 15;63(12):548-554. doi: 10.2176/jns-nmc.2023-0064.	Original Article
279	Koike H, Iguchi Y, Sahashi K 他	脳神経内科	Neutrophil extracellular traps: from antimicrobial innate immunity to the development of chemotherapy-induced peripheral neuropathy.	EBioMedicine. 2023 Apr;90:104526. doi: 10.1016/j.ebiom.2023.104526. Epub 2023 Mar 16.	Others
280	Ueda M, Suzuki M, Hatanaka M 他	脳神経内科	Serum neurofilament light chain in patients with epilepsy and cognitive impairment.	Epileptic Disord. 2023 Apr;25(2):229-236. doi: 10.1002/epd2.20024. Epub 2023 May 3.	Original Article
281	Hattori M, Hiraga K, Satake Y 他	脳神経内科	Clinico-imaging features of subjects at risk of Lewy body disease in NaT-PROBE baseline analysis.	NPJ Parkinsons Dis. 2023 Apr 26;9(1):67. doi: 10.1038/s41531-023-00507-y.	Original Article
282	Kataoka M, Sahashi K, Tsujikawa K 他	脳神経内科	Dysregulation of Aldh1a2 underlies motor neuron degeneration in spinal muscular atrophy.	Neurosci Res. 2023 Sep;194:58-65. doi: 10.1016/j.neures.2023.04.007. Epub 2023 May 3.	Original Article
283	Yokoi K, Iribe Y, Kitaoka N 他	脳神経内科	Analysis of spontaneous speech in Parkinson's disease by natural language processing.	Parkinsonism Relat Disord. 2023 Aug;113:105411. doi: 10.1016/j.parkreidis.2023.105411. Epub 2023 Apr 26.	Original Article
284	Oiwa K, Watanabe S, Onodera K 他	脳神経内科	Monomerization of TDP-43 is a key determinant for inducing TDP-43 pathology in amyotrophic lateral sclerosis.	Sci Adv. 2023 Aug 4;9(31):eadf6895. doi: 10.1126/sciadv.adf6895. Epub 2023 Aug 4.	Original Article
285	Mouri N, Koike H, Fukami Y 他	脳神経内科	Granuloma, vasculitis, and demyelination in sarcoid neuropathy.	Eur J Neurol. 2024 Jan;31(1):e16091. doi: 10.1111/ene.16091. Epub 2023 Oct 17.	Original Article
286	Hirunagi T, Nakatsuji H, Sahashi K 他	脳神経内科	Exercise attenuates polyglutamine-mediated neuromuscular degeneration in a mouse model of spinal and bulbar muscular atrophy.	J Cachexia Sarcopenia Muscle. 2024 Feb;15(1):159-172. doi: 10.1002/jcsm.13344. Epub 2023 Nov 8.	Original Article
287	Kazuta T, Murakami A, Noda S 他	脳神経内科	Clinicopathological features of graft versus host disease-associated myositis.	Ann Clin Transl Neurol. 2024 Feb;11(2):508-519. doi: 10.1002/acn3.51973. Epub 2023 Dec 28.	Original Article

288	Yoshida Y, Yokoi T, Hara K 他	脳神経内科	< Editors' Choice > Pattern of THK 5351 retention in normal aging involves core regions of resting state networks associated with higher cognitive function.	Nagoya J Med Sci. 2023 Nov;85(4):758-771. doi: 10.18999/najms.85.4.758.	Original Article
289	Fukami Y, Iijima M, Koike HH 他	脳神経内科	Autoantibodies Against Dihydroliipoamide S-Acetyltransferase in Immune-Mediated Neuropathies.	Neurol Neuroimmunol Neuroinflamm. 2024 Mar;11(2):e200199. doi: 10.1212/NXI.000000000200199. Epub 2024 Jan 5. Erratum in: Neurol Neuroimmunol Neuroinflamm. 2024	Original Article
290	Iguchi Y, Takahashi Y, Li J 他	脳神経内科	I B kinase phosphorylates cytoplasmic TDP-43 and promotes its proteasome degradation.	J Cell Biol. 2024 Feb 5;223(2):e202302048. doi: 10.1083/jcb.202302048. Epub 2024 Jan 10.	Original Article
291	Fukushima T, Ikeda S, Tomita M 他	脳神経内科	Demyelinating Neuropathy with Markedly Elevated Serum IgG4 Levels and Anti-Contactin 1 IgG4 Antibody.	Intern Med. 2023 May 1;62(9):1341-1344. doi: 10.2169/internalmedicine.9286-21. Epub 2022 Jul 29.	Case Report
292	Ueno H, Setogawa T, Makita A 他	呼吸器外科	Influencing Factors on Intersegmental Identification Adequacy in Segmentectomy with Intraoperative Indocyanine Green (ICG) Intravenous Administration.	Cancers (Basel). 2023 Dec 17;15(24):5876. doi: 10.3390/cancers15245876. PMID: 38136420 Free PMC article.	Original Article
293	Nakanishi K, Kadomatsu Y, Ueno H 他	呼吸器外科	Complete visualization using indocyanine green in thoracic surgery for pulmonary sequestration.	J Thorac Dis. 2023 Oct 31;15(10):5714-5722. doi: 10.21037/jtd-23-892. Epub 2023 Aug 22. PMID: 37969275 Free PMC article.	Original Article
294	Okado S, Kadomatsu Y, Nakao M 他	呼吸器外科	New method for delineation of the intersegmental line in a deflated lung.	J Thorac Dis. 2023 Sep 28;15(9):4736-4744. doi: 10.21037/jtd-23-421. Epub 2023 Aug 22. PMID: 37868873 Free PMC article.	Original Article
295	Kadomatsu Y, Nakao M, Ueno H 他	呼吸器外科	Clinical application of resection process map as a novel surgical guide in thoracic surgery.	Interdiscip Cardiovasc Thorac Surg. 2023 Apr 3;36(4):ivad059. doi: 10.1093/icvts/ivad059. PMID: 37079768 Free PMC article.	Original Article
296	Sakurai H, Nonaka T, Sakurai T 他	心臓外科	Rapid two-stage Norwood procedure using an auto-pericardial patch fixed with an arch-shaped mold	Operative techniques in thoracic and cardiovascular surgery In Press 2023	Original Article
297	Yamawaki-Ogata A, Mutsuga M, Narita Y.	心臓外科	A review of current status of cell-based therapies for aortic aneurysms.	Inflamm Regen. 2023 Aug 7;43(1):40. doi: Free PMC article. Review 10.1186/s41232-023-00280-8.	Review
298	Tokuda Y, Terazawa S, Yoshizumi T 他	心臓外科	Hybrid Repair of Extensive Aortic Arch Aneurysms: Outcomes of Isolated Frozen Elephant Trunk Repair and of Elephant Trunk with Second Stage Thoracic Endovascular Aortic Repair	Eur J Vasc Endovasc Surg. 2023 Aug;66(2):284-285. doi: 10.1016/j.ejvs.2023.05.009. Epub 2023 May 13.	Original Article
299	Li Y, Hashikawa K, Ebisawa K 他	形成外科	Supernatant from activated omentum accelerates wound healing in diabetic mice wound model.	Nagoya J Med Sci. 85(3):528-541	Original Article
300	Kambe M, Hashikawa K, Takanari K 他	形成外科	Long-term outcomes of lateral skull base reconstruction with a free omental flap and facial nerve reconstruction.	Nagoya J Med Sci. 85(2):255-264	Original Article
301	Hayakawa A, Kanda H, Kamei Y 他	形成外科	Hydroxyapatite-coated titanium oxide ameliorates dextran sulphate sodium-induced colitis by attenuating both innate and acquired immune reaction.	Prz Gastroenterol. 18(1):76-84	Original Article
302	Oshima K, Hinoki A, Uchida H 他	小児外科	Single cell RNA sequencing of intestinal immune cells in neonatal necrotizing enterocolitis	Pediatr Surg Int. 2023 Apr 11;39(1):179. doi: 10.1007/s00383-023-05461-7.	Original Article
303	Guo YH, Hinoki A, Deie K 他	小児外科	Anastomotic time was associated with postoperative complications: a cumulative sum analysis of thoracoscopic repair of tracheoesophageal fistula in a single surgeon's experience	Surg Today. 2023 Dec;53(12):1363-1371. doi: 10.1007/s00595-023-02687-9.	Original Article
304	Nakagawa Y, Uchida H, Shirota C 他	小児外科	Preoperative Contrast Examinations Help Determine the Appropriate Cervical Approach for Congenital Gross Type C Esophageal Atresia: A Report of Two Cases	Am J Case Rep. 2023 Jun 13;24:e938723. doi: 10.12659/AJCR.938723	Case Report
305	Nakagawa Y, Maeda T, Uchida H 他	小児外科	Case Report: Retropancreatic fascia hernia protruding into the thoracic cavity through a Bochdalek hernia	Front Pediatr. 2023 Jun 26;11:1149515. doi: 10.3389/fped.2023.1149515. eCollection 2023	Case Report
306	Nakagawa Y, Sumida W, Makita S 他	小児外科	Case report: Laparoscopic gastrojejunostomy for duodenal atresia with situs inversus and preduodenal portal vein: a report of two cases	Front Pediatr. 2023 Jun 27;11:1220393. doi: 10.3389/fped.2023.1220393.	Case Report
307	Kato D, Uchida H, Hinoki A 他	小児外科	IgG4-related disease of duodenal obstruction due to multiple ulcers in a 12-year-old girl	BMC Pediatr. 2023 Jul 25;23(1):376. doi: 10.1186/s12887-023-04190-z	Case Report
308	Maeda T, Liu JH, Uchida H 他	小児外科	Robotic versus laparoscopic radical surgery for pediatric congenital biliary dilatation: a comparison of surgical outcomes of a single surgeon's initial experience	Pediatr Surg Int. 2023 Sep 3;39(1):261. doi: 10.1007/s00383-023-05548-1.	Original Article
309	Shirota C, Hinoki A, Tainaka T 他	小児外科	Application of indocyanine green fluorescence imaging navigation in pediatric surgery: A single-center review	Journal of Pediatric Surgery Open, 10.1016/j.jpso.2023.100075	Original Article
310	Nakagawa Y, Uchida H, Hinoki A 他	小児外科	Refractory esophageal anastomotic stricture after esophageal atresia surgery improved with retrograde balloon dilatation through gastrostomy followed by laparoscopic fundoplication: a case report	Surg Case Rep. 2023 Sep 22;9(1):169. doi: 10.1186/s40792-023-01754-0	Case Report
311	Gohda Y, Yokota K, Uchida H 他	小児外科	Safe thoracoscopic repair of recurrent congenital diaphragmatic hernia after initial open abdominal repair	Surg Today. 2024 Jun;54(6):534-539.	Original Article
312	Shirota C, Hinoki A, Tainaka T 他	小児外科	Surgical Strategies for Neonates with Prenatally Diagnosed Congenital Biliary Dilatation	J Pediatr Surg. 2024 Mar;59(3):385-388. doi: 10.1016/j.jpedsurg.2023.10.045.	Original Article

313	Takada S , Uchida H, Hinoki A 他	小児外科	Variations of the hepatic artery and bile duct in patients with pancreaticobiliary maljunction: Impact on postoperative outcomes	J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2023 Nov;30(11):1241-1248. doi: 10.1002/jhpb.1381.	Original Article
314	Nakagawa Y,Uchida H,Hnioki A 他	小児外科	Preoperative management comprising tube irrigation using a trans-anal indwelling tube for infants with hirschsprung disease can allow single-stage radical surgery	BMC Surg. 2023 Nov 1;23(1):333. doi: 10.1186/s12893-023-02232-y.	Original Article
315	Kato D , Uchida H , Tainaka T 他	小児外科	Laparoscopic Fundoplication in Patients with Ventriculoperitoneal Shunts: A Systematic Review and Our Experience	J Laparoendosc Adv Surg Tech A. 2024 Mar;34(3):268-273. doi: 10.1089/lap.2023.0220.	Original Article
316	Amano H,Uchida H,Harada K 他	小児外科	Scoring system for diagnosis and pretreatment risk assessment of neuroblastoma using urinary biomarker combinations	Cancer Sci. 2024 May;115(5):1634-1645. doi: 10.1111/cas.16116. Epub 2024 Feb 27.	Original Article
317	Yoichi Nakagawa, Hiroo Uchida, Satoshi Makita 他	小児外科	Duodenal duplication cyst at the second part of the duodenum with congenital duodenal position anomaly completely resected by laparoscopic partial duodenectomy: a case report	Surg Case Rep. 2024 Mar 29;10(1):73. doi: 10.1186/s40792-024-01875-0.	Case Report
318	Hideaki Hirai , Masato Nakaguro , Yuichiro Tada 他	病理部	Prognostic value and clinicopathological roles of the tumor immune microenvironment in salivary duct carcinoma	Virchows Arch. 2023 Sep;483(3):367-379. doi: 10.1007/s00428-023-03598-3. Epub 2023 Jul 19.	Original Article
319	Mimatsu H, Onoda A, Kazama T 他	総合周産期母子医療センター	Dedifferentiated fat cells administration ameliorates abnormal expressions of fatty acids metabolism-related protein expressions and intestinal tissue damage in experimental necrotizing enterocolitis.	Sci Rep. 2023;13(1):8266.	Original Article
320	Ueda K, Sato Y, Shimizu S 他	総合周産期母子医療センター	Systemic administration of clinical-grade multilineage-differentiating stress-enduring cells ameliorates hypoxic-ischemic brain injury in neonatal rats.	Sci Rep. 2023;13(1):14958.	Original Article
321	Koki Nakanishi, Chie Tanaka, Mitsuro Kanda 他	化学療法部	Low expectancy of conversion surgery with R0 resection in patients with CEA > 5.0 ng/mL at the initial RECIST evaluation for metastatic gastric cancer.	Cancers (Basel). 2023 Oct 29;15(21):5197. doi: 10.3390/cancers15215197.	Original Article
322	Yao Liang, Osamu Maeda, Kazushi Miyata 他	化学療法部	Genetic polymorphisms as predictive biomarkers of adverse events during preoperative chemotherapy in esophageal cancer.	Cancer Chemother Pharmacol. 2024 Feb;93(2):121-127. doi: 10.1007/s00280-023-04607-7.	Original Article
323	Osamu Maeda, Satoshi Furune, Mitsuro Kanda 他	化学療法部	Docetaxel, cisplatin, and fluorouracil with pegfilgrastim on day 3 as neoadjuvant chemotherapy for esophageal cancer.	Cancer Med. 2024 Jan;13(2):e6974. doi: 10.1002/cam4.6974.	Original Article
324	Yuichi Ando, Hiroyuki Nishiyama, Hideki Shimodaira 他	化学療法部	Chapter 3: Management of kidney injury caused by cancer drug therapy, from clinical practice guidelines for the management of kidney injury during anticancer drug therapy 2022.	Int J Clin Oncol. 2023 Oct;28(10):1315-1332. doi:10.1007/s10147-023-02382-2.	Review
325	Yuichi Ando, Tomohiro Terada	化学療法部	Consent in pharmacogenetic testing.	J Clin Oncol. 2023 Aug 1;41(22):3875. doi: 10.1200/JCO.23.00664.	Letter
326	Satoshi Furune, Yuichi Ando.	化学療法部	Comment on: Carboplatin and irinotecan (CI) vs. Carboplatin and etoposide (CE) for the treatment of extended-stage small-cell lung cancer in an elderly population: A phase II/III randomized control trial.	Lung Cancer. 2023 Dec;186:107416. doi: 10.1016/j.lungcan.2023.107416. Epub 2023 Oct 28.	Letter
327	Koki Nakanishi, Chie Tanaka, Mitsuro Kanda 他	化学療法部	Protocol of a phase II study investigating the efficacy and safety of trifluridine/tipiracil plus ramucirumab as a third-line or later treatment for advanced gastric cancer.	Nagoya J Med Sci. 2024 Feb;86(1):43-51. doi: 10.18999/nagjms.86.1.43.	Letter
328	Futoshi Ushijima, Tetsunari Hase, Yuki Yamashita 他	化学療法部	Durvalumab plus carboplatin-etoposide treatment in a patient with small-cell lung cancer on hemodialysis: A case report and literature review.	Int Cancer Conf J. 2023 Dec 21;13(2):88-92. doi: 10.1007/s13691-023-00640-8. eCollection 2024 Apr.	Case Report
329	Zhang J, Nishida Y, Koike H 他	リハビリテーション科	Development of Therapeutic Agent for Osteoarthritis via Inhibition of KIAA1199 Activity: Effect of Ipriflavone In Vivo.	Int J Mol Sci. 2023 Aug 4;24(15):12422.	Original Article
330	Jeong Hui Kim, Ryosuke Kikuchi, Atsuo Suzuki 他	医療技術部臨床検査部門	Comparison of target antigen and immunoglobulin isotypes in anti-SARS-CoV-2 antibodies from natural infection and vaccination	Laboratory Medicine International.2023 Volume 2 Issue 3 Pages 60-66.Published: 2023.Released on J-STAGE: December 29, 2023	Original Article
331	Kato Y, Okumiya S, Okudaira K 他	医療技術部放射線部門	Urethral identification using three-dimensional magnetic resonance imaging and interfraction urethral motion evaluation for prostate stereotactic body radiotherapy	Nagoya J Med Sci. 2023 Aug;85(3):504-517. doi: 10.18999/nagjms.85.3.504.	Original Article
332	Kato Y, Okudaira K, Noguchi Y 他	医療技術部放射線部門	Shifting-field-of-view technique enhancing the inflow effect for identifying tumor/vessel boundaries in MRI for radiotherapy treatment planning	Radiol Phys Technol. 2023 Dec;16(4):578-583. doi: 10.1007/s12194-023-00745-y.	Others
333	Jessica F Hebert , Yoshio Funahashi , Michael P Hutchens	救急科	Harm! foul! How acute kidney injury SHReDDs patient futures	Curr Opin Nephrol Hypertens. 2023 Mar 1;32(2):165-171. doi: 10.1097/MNH.0000000000000864. Epub 2022 Dec 23.	Review
334	Kevin G Burfeind, Yoshio Funahashi, Adam C Munhall 他	救急科	Natural Killer Lymphocytes Mediate Renal Fibrosis Due to Acute Cardiorenal Syndrome	Kidney360. 2024 Jan 1;5(1):8-21. doi:10.34067/KID.0000000000000305. Epub 2023 Dec 1.	Original Article

計334件

- (注)
- 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
 - 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
 - 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
 - 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
 - 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名、出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec(オンライン)
 - 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭者等の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1	平岩 宏章, 奥村 貴裕, 室原 豊明 他	循環器内科	高血圧を合併したHFpEFに対する急性期と慢性期の薬物治療	Heart View. 2023 Nov;27(12)120-125.	Original Article
2	橋本直純, 阪本考司, 若原恵子 他	呼吸器内科	指定難病患者データを用いたわが国における閉塞性細気管支炎の実態に関する調査	日呼吸誌, 12(5): 240-245, 2023	Original Article
3	進藤有一郎	呼吸器内科	気管支拡張症における慢性感染の意義: その評価と治療	呼吸器内科 2023;43(4):382-386	Review
4	進藤有一郎	呼吸器内科	呼吸器感染症のアンメットニーズを探る V. トピックス 肺炎診療ガイドライン改訂に向けた課題	呼吸器ジャーナル 2023;71(4):578-584.	Review
5	進藤有一郎	呼吸器内科	Up-to-date呼吸器疾患 感染性の呼吸器疾患:肺炎	みんなの呼吸器Respica 2024;22(1):26-33.	Review
6	坂野比呂志, 李昌史, 池田梢太 他	血管外科	胸部大動脈血管内治療と脊髄障害.	脈管学.63(4):45-49.2023.07 doi: https://doi.org/10.7133/jca.23-00001.【総説】	Original Article
7	長谷川良平, 米田英正, 岩月克之 他	手の外科	指文字画像を用いた標的選択課題遂行中の事象関連電位の特性-脳波 BMI による定量評価手法を用いて	日本感性工学会論文誌.Vol22 No.1 pp.21-29(2023)	Original Article
8	米田英正, 岩月克之	手の外科	整形外科とメンタルヘルス総論	整形・災害外科.vol66 pp.673-678(2023)	Others
9	岩月克之	手の外科	末梢神経疾患と脳機能解析	整形・災害外科.vol66 pp.723-727(2023)	Others
10	竹中基記, 前沢忠志, 齋藤愛 他	産婦人科	東海北陸地方における小児・思春期血液がん患者のがん・生殖相談外来受診状況に対する多機関共同・後ろ向き観察研究	日本小児血液・がん学会雑誌(2187-011X)60巻1号 Page20-26(2023.06)	Original Article
11	曾根原玲菜, 中村智子, 竹田健彦 他	産婦人科	卵巣子宮内膜症の新規治療戦略 細胞老化に着目して	日本エンドメトリオース学会誌(2436-7095)44巻 Page42-43(2023.09)	Original Article
12	鬼頭まり, 田野翔, 松尾聖子 他	産婦人科	分娩中人工羊水注入を実施した7例についての検討-当院における新たな取り組み-	東海産科婦人科学会雑誌第60巻 Page127-133(2024.3)	Original Article
13	辻悠里, 尾崎紀夫, 藤城弘樹 他	精神科	原因不明の嘔気症状と顕著な体重減少が先行したレビー小体型認知症の一例	精神神経学雑誌 2023 Apr;125(4): 275-282 (2023.04)	Case Report
14	藤城弘樹, 鳥居洋太, 宮田聖子 他	精神科	高齢発症うつ病とPsychiatric-onset DLB	日本自殺予防学会誌 2023 43(2): 81-89 (2023.09)	Review
15	松林里佳, 岩本邦弘, 鳥居洋太 他	精神科	DSM-5によるレビー小体型認知症診断とProdromal DLB基準	老年精神医学雑誌 2023 34(6): 551-558 (2023.06)	Review
16	藤城弘樹, 合澤祐	精神科	認知症疾患によくみられる症状を伴った症例 - 臨床診断と鑑別診断編 -	老年精神医学雑誌 2023 34(7): 685-690 (2023.07)	Case Report
17	藤城弘樹, 合澤祐	精神科	認知症疾患によくみられる症状を伴った症例 - 病理診断と文献的考察編 -	老年精神医学雑誌 2023 34(8): 775-782 (2023.08)	Case Report
18	関口裕孝, 藤城弘樹	精神科	初発症状が認知機能障害ではなかった認知症の2症例 - 臨床診断と鑑別診断編 -	老年精神医学雑誌 2023 34(11): 1103-1109 (2023.11)	Case Report
19	鳥居洋太, 入谷修司	精神科	【精神科ブレインバンクと脳科学研究】神経病理から考える統合失調症の病態	日本生物学的精神医学会誌 2023 34(2) 47-52 (2023.06)	Review
20	鳥居洋太, 入谷修司	精神科	精神疾患対応これ1冊 内科医と精神科医の連携のために, 統合失調症などの精神疾患と認知症の関係.	診断と治療 2024 112巻増刊号 306-310 (2024.03)	Review
21	大島健一, 鳥居洋太, 三輪綾子 他	精神科	老年精神医学における誌上CPC; Learn from the Patient 第5回: 統合失調症の高齢化に伴う脳病理背景 臨床診断と鑑別診断編	老年精神医学雑誌 2024 35 291-297 (2024.03)	Review
22	久島周, 今枝美穂, 田中聡 他	精神科	重症の摂食障害におけるゲノムコピー数バリエーションの寄与	精神神経学雑誌 125: 839-843 (2023.10)	Original Article
23	久島周	精神科	統合失調症のゲノム解析と病態解析	精神医学 65巻4号 pp.395-401 (2023.04)	Review
24	岩田 浩明, 宮内 俊成, 古村 南夫 他	皮膚科	家族性良性慢性天疱瘡診療ガイドライン2023	日本皮膚科学会雑誌.2024.02;(0021-499X)134巻2号 Page273-287	Review
25	佐伯 秀久, 秋山 真志, 安部 正敏 他	皮膚科	アトピー性皮膚炎における生物学的製剤の使用ガイダンス	日本皮膚科学会雑誌.2023.07;(0021-499X)133巻8号 Page1817-1827	Review
26	小泉 遼, 室 慶直	皮膚科	さまざまな手湿疹の臨床像と検査・治療 膠原病による手の皮疹	Visual Dermatology. 2023.09;(2186-6589)22巻10号 Page948-950	Review
27	明石 憲佳, 室 慶直	皮膚科	皮膚筋炎/多発性筋炎	新薬と臨床.2023.08;(0559-8672)72巻8号 Page680-684	Review

28	小泉 遼, 室 慶直	皮膚科	全身性エリテマトーデスの自己抗体	皮膚科.2023.04;(2436-570X)3巻4号 Page439-444	Review
29	小西 なつの, 武市 拓也	皮膚科	[ブライマリアケア医に必要な情報をまるっと整理 くすりの使い便利帳] (第2章)炎症,免疫,アレルギーに作用する薬剤 副腎皮質ステロイド 副腎皮質ステロイド(外用薬)	内科.2023.04;(0022-1961)131巻4号 Page604-607	Others
30	明石 憲佳, 武市 拓也, 野田 運宏 他	皮膚科	全エクソーム解析により遺伝子診断された単純型表皮水疱症(重症例)の1例 出生後管理の検討	臨床皮膚科.2023.08;(0021-4973)77巻9号 Page683-687	Case Report
31	宿院 梨衣, 小泉 遼, 武市 拓也 他	皮膚科	ステロイド投与を回避できた腎不全合併汎発性膿疱性乾癬の治療例	皮膚病診療.2023.10;(0387-7531)45巻10号 Page896-899	Case Report
32	武市 拓也	皮膚科	新・皮膚科セミナー 無菌性炎症と皮膚疾患 自己炎症性角化症の病態と多彩な臨床像	日本皮膚科学会雑誌.2024.03;(0021-499X)134巻3号 Page597-601	Others
33	澤崎 百合香, 武市 拓也, 秋山 真志	皮膚科	JAKと皮膚の炎症	皮膚科.2023.06;(2436-570X)3巻6号 Page714-718	Others
34	伊藤 靖敏, 武市 拓也, 竹内 想 他	皮膚科	AP1B1の複合ヘテロ接合性変異によるMEDNIK-like syndrome	角化症研究会記録集.2023.07;37巻 Page22-25	Case Report
35	武市 拓也	皮膚科	[角化症を知る]セラミドと皮膚バリア機能	皮膚科.2023.08;(2436-570X)4巻2号 Page119-124	Others
36	大見 修也, 武市 拓也, 吉川 剛典 他	皮膚科	自己炎症性角化症に関する近年のトピック	皮膚科.2024.01;(2436-570X)5巻1号 Page75-79	Others
37	桃原真理子	皮膚科	[皮膚科領域の自己抗体]筋炎と自己抗体	皮膚科.2024.03;5巻3号 261-267	Review
38	吉川剛典	皮膚科	道化師様魚鱗癬の病態メカニズム	皮膚科.2023.08;4巻2号 Page125-131	Review
39	森 章一郎	皮膚科	FDG-PET/CTで両腋窩リンパ節に偽陽性を示した増殖性外毛根鞘性腫瘍	皮膚病診療.2024.02;46(2):177-181	Case Report
40	西尾直樹, 戸田智基, 小林和弘 他	耳鼻咽喉科	喉頭摘出者における音声収録アプリを用いた術前音声の保存～Save the Voiceプロジェクト～	喉頭. 2023; 35:142～147	Others
41	高津優斗, 小林万純, 森本京子 他	耳鼻咽喉科	Wolfram症候群に骨形成不全症を合併した先天性視覚聴覚二重障害に対する両側人工内耳手術症例	耳鼻咽喉科臨床 2023年5月1日 116巻 5号 415-420 ページ	Case Report
42	長縄慎二	放射線科	第1章 画像診断機器【基調論文】最新医療機器の現況と将来的方向性 2024年 最新医療機器の現状と展望 CTやMRIなどの画像診断装置の技術的到達点への評価と課題	月間新医療データブック・シリーズ 医療機器システム白書 2024: 8-11. (2023.12.6発行)	Review
43	原 祥子, 菊田潤子, 高林海斗 他	放射線科	もやもや病にGlymphatic system機能不全は存在するか? DTI-ALPS indexによる評価	日本磁気共鳴医学会雑誌第43巻 2号 p. 56-59. (2023.05)	Original Article
44	Rukeye Tuerxun, 鎌形康司, Christina Andica 他	放射線科	ALPS-indexを用いた糖尿病と糖尿病前期の病態におけるGlymphatic systemの評価	日本磁気共鳴医学会雑誌第43巻 2号 p. 60-62. (2023.05)	Original Article
45	田岡俊昭	放射線科	高齢者の先制医療と睡眠・glymphaticシステム	睡眠医療 Vol.17 No.3. :311-318.(2023.09)	Original Article
46	川村麻里子	放射線科	治療医流MRIの使い方	JCRニュース 日本放射線科専門医会 医会誌 No.252 :18-20	Review
47	伊藤倫太郎	放射線科	<人工知能>2023年の人工知能のトレンドについて	Rad Fan. 21(4):78-82.	Review
48	伊藤倫太郎	放射線科	連載 放射線科ではAI Chatはこう使う!	Rad Fan. 21(14):68-71.	Review
49	伊藤倫太郎	放射線科	特集2 RSNA2023 REPORT RSNA 2023の注目トピック:AIの視点から	Rad Fan. 22(2):70-71.	Review
50	緒方藍歌, 成田裕司, 六鹿雅登	心臓外科	心臓血管外科手術で求められるバイオマテリアル	バイオマテリアル・生体材料-.2023.41(2)162-164(2023.04)	Review
51	六鹿雅登	心臓外科	人工心肺離脱時の凝固機能評価[Perioperative Management of Coagulation After the Weaning of Cardiopulmonary Bypass in Cardiac Surgery]	胸部外科. 2023 Sep;76(10):824-828. (2023.09)	Review
52	橋川 和信	形成外科	傷をきれいに治す 外科的治療成功への第一歩(第3回) 傷をきれいにするための切開と閉鎖	関節外科 2023 Dec;42:1416-20	Original Article
53	内田 広夫	小児外科	先天性裏胞性肺疾患のup to date 6. 外科治療2. 小児に対する胸腔鏡手術の現況	日本外科学会雑誌. 2023 124:500-506(2023.11)	Review
54	三島 健一, 神谷 庸成, 澤村 健太 他	整形外科	Dobbs法による初期治療を行った先天性垂直距骨の治療経験	日本小児整形外科学会雑誌.2023;32:6-10.	Original Article
55	今釜 史郎, 長谷川 幸治	整形外科	中高齢者のQOL向上を目指すYakumo study : 一般住民コホート研究	日本整形外科学会雑誌.2023;97(12):1172-1186.	Original Article

56	中島宏彰, 今釜史郎, 町野正明 他	整形外科	脊髄腫瘍の画像診断	整形・災害外科.2023;66(5):567-573.	Original Article
57	伊藤 定之, 中島 宏彰, 町野 正明 他	整形外科	AIを用いた脊椎脊髄疾患の画像診断の進歩 深層学習を用いたMRIでの脊髄腫瘍自動診断システム	整形・災害外科.2023;66(5):657-665.	Original Article
58	三島 健一, 神谷 庸成, 松下 雅樹 他	整形外科	ベルテス病に対するリルター骨盤骨切り術の治療成績 骨頭前方の骨吸収パターンの違いによる予後予測 -	日本小児整形外科学会雑誌.2023;32:222-225.	Original Article
59	大澤郁介, 竹上 靖彦, 岡本 昌典 他	整形外科	圧壊後に保存的治療を継続した大腿骨頭壊死の股関節機能と壊死形態の評価	Hip Joint.2023;49:63-69.	Original Article
60	大高圭司, 竹上 靖彦, 大澤 郁介 他	整形外科	Crowe分類の亜脱臼度はTHAカップ設置の指標となり得る	東海関節.2023;15:45-48.	Original Article
61	杉本 遼介, 森田 大悟, 岩瀬 敏樹 他	整形外科	人工膝関節置換術後のエドキサパンによる肝機能障害についての検討(原著論文)	東海関節.2023;15巻 :67-70.	Original Article
62	杉本 遼介, 甲山 篤, 岩瀬 敏樹 他	整形外科	人工膝関節術後の脛骨インプラント周囲骨折に対して両側プレートを用いて骨接合を行った1例(原著論文)	日本人工関節学会誌.2023;53巻:185-186.	Original Article
63	南條 成輝, 坂口 健史	整形外科	第19回世界水泳選手権日本代表チーム帯同報告(一般)	水と健康医学研究会誌.2023;24巻1号 :69-76.	Original Article
64	岩月克之	整形外科	末梢神経疾患と脳機能解析	整形・災害外科.2023;66:723-727.	Original Article
65	長谷川 良平, 米田 英正, 岩月 克之 他	整形外科	指文字画像を用いた標的選択課題遂行中の事象関連電位の特性-脳波 BMI による定量評価手法を用いて	日本感性工学会論文誌.2023;22(1):21-29.	Original Article
66	米田 英正 岩月 克之	整形外科	整形外科とメンタルヘルス総論	整形・災害外科.2023;66:673-678.	Review
67	高橋 裕, 藤林 孝義, 柘植 峻 他	整形外科	膝関節に発生した樹枝状脂肪腫に対して人工関節置換術を施工した1症例	中部日本整形外科災害外科学会雑誌.2023;66:475-476.	Original Article
68	西田 佳弘	整形外科	誌説 Competitionとcooperation	整形外科.2023;74:106-106.	Original Article
69	西田 佳弘	整形外科	骨軟部 軟部腫瘍 良性軟部腫瘍・デスマイト型線維腫症の診断・治療指針	最新主要文献とガイドラインでみる整形外科学レビュー 2023-'24 第1版.2023;255-260.	Review
70	西田 佳弘, 浦川 浩, 生田 国大 他	整形外科	[脊髄および末梢神経鞘腫瘍のすべて]神経症腫瘍の手術:末梢神経鞘腫瘍 悪性末梢神経鞘腫瘍	脊椎脊髄ジャーナル.2023;36:351-355.	Original Article
71	西田 佳弘	整形外科	各種難病の最新治療情報 神経線維腫症1型の最新治療情報	月刊 難病と在宅ケア.2023;29:33-36.	Original Article
72	西田 佳弘	整形外科	希少疾患である骨・軟部腫瘍のリハビリテーション診療	日本整形外科学会雑誌.2023;97:880-887.	Original Article
73	菱田 愛加, 安藤 貴宏, 山口 英敏 他	整形外科	区域麻酔と理学療法の併用が奏効した難治性複合性局所疼痛症候群の1例	The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine.2023;60:1205-1210.	Original Article
74	佐野 優太, 石田 昇平, 佐野 友康 他	泌尿器科, 腎臓内科	Caroli病(先天性多発肝内胆管拡張症)による難治性胆管炎,末期腎不全症例に肝腎同時移植を実施した1例	日本臨床腎移植学会雑誌, 11巻2号 Page148-151	Case Report
75	中道 朝香, 竹原 君江	看護部	循環器の専門的知識を有した看護師による外来通院中の心筋梗塞患者へのセルフケア教育の実践の実態と関連要因	日本看護科学会誌. 2023;43:529-537.	Original Article
76	卯野木 健, 林田 敬, 河合 佑亮 他	看護部	重症患者リハビリテーション診療ガイドライン2023	日本集中治療医学会雑誌. 2023 Dec; 30(Supplement2):S905-S972.	Others
77	大川 竜也, 林 則夫, 加藤 裕 他	医療技術部放射線部門	MRI検査用金属探知機等の実臨床における検出能の評価	日本放射線技術学会雑誌, 2023, 79 巻, 10 号, p. 1168-1179, 公開日 2023/10/20, [早期公開] 公開日 2023/08/28, Online ISSN 1881-4883, Print ISSN 0369-4305, https://doi.org/10.6009/jjrt.2023-1372.	Others

計77件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1)倫理審査委員会の開催状況

倫理審査委員会の設置状況	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
倫理審査委員会の手順書の整備状況	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
・ 手順書の主な内容 倫理審査委員会業務（利益相反マネジメント、試料等の保管、対応表の管理、有害事象、審査受託、教育等）及び研究者の申請についての手順・方法等	
倫理審査委員会の開催状況	年40回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2)利益相反を管理するための措置

利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
利益相反の管理に関する規定の整備状況	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
・ 規定の主な内容 利益相反の定義、教職員等の責務、委員会の組織等	
利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年12回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3)臨床研究の倫理に関する講習等の実施

臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年6回
・ 研修の主な内容 「研究倫理総論and生命科学指針」、「適切な臨床研究管理の追求」、 「臨床介入研究（特定臨床研究）における留意点」、「臨床観察研究の倫理審査」、 「最近の臨床研究の課題について」、「フルゲノム解析研究の実施に関しての倫理的問題点について」	

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

各診療科に所属して、初期研修によって習得された基本的診療能力に上乘せられる、医師としての総合的診療能力の習得に加えて、当該診療科で実施されている先進的な医療に特化した研修を行うことで、医師としての広くかつ専門的経験を蓄積しながら、専門医資格の取得等を目指す後期研修を実施している。

また、新しい専門医制度の平成30年4月開始に伴い、全19領域の基幹病院として、日本専門医機構に提出した各領域のプログラムに基づき、専門医資格の取得を目指す後期研修を実施している。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	198人
-------------	------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
佐藤 寿一	総合診療科	病院教授	38年	
梅垣 宏行	老年内科	教授	34年	
清井 仁	血液内科	教授	38年	
室原 豊明	循環器内科	教授	39年	
川嶋 啓揮	消化器内科	教授	29年	
石井 誠	呼吸器内科	教授	28年	
有馬 寛	糖尿病・内分泌内科	教授	36年	
小杉 智規	腎臓内科	准教授	29年	
勝野 雅央	脳神経内科	教授	29年	
江畑 智希	消化器・腫瘍外科(肝胆膵)	教授	34年	
中山 吾郎	消化器・腫瘍外科(消化管)	准教授	31年	
坂野 比呂志	血管外科	教授	28年	
小倉 靖弘	移植外科	病院教授	33年	
菊森 豊根	乳腺・内分泌外科	病院准教授	35年	
六鹿 雅登	心臓外科	教授	28年	
芳川 豊史	呼吸器外科	教授	27年	
橋川 和信	形成外科	准教授	27年	
内田 広夫	小児外科	教授	35年	
田村 高廣	麻酔科	准教授	17年	
高橋 義行	小児科	教授	32年	
梶山 広明	産科婦人科	教授	29年	
池田 匡志	精神科	教授	25年	
今釜 史郎	整形外科	教授	27年	
西口 康二	眼科	教授	27年	

秋山 真志	皮膚科	教授	38年
赤松 秀輔	泌尿器科	教授	23年
曾根 三千彦	耳鼻いんこう科	教授	37年
長縄 慎二	放射線科	教授	37年
齋藤 竜太	脳神経外科	教授	26年
山本 尚範	救急科	講師	16年
西田 佳弘	リハビリテーション科	病院教授	36年
日比 英晴	歯科口腔外科	教授	37年
加留部 謙之輔	病理部	教授	24年
八木 哲也	中央感染制御部	教授	36年
佐藤 義朗	総合周産期母子医療センター	病院准教授	27年
安藤 雄一	化学療法部	教授	34年
錦織 宏	卒後臨床研修・キャリア形成支援センター	教授	26年

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
<p>・研修の主な内容</p> <p>【医療技術部】</p> <p>1) 医療技術部職員に向け研修を年2回実施。</p> <p>1)-1「ラインケア・セルフケア に関する講演会」</p> <p>1)-2「傾聴とそれを活かすかすための組織体制の構築の仕方について」</p> <p>2) 医療技術部管理職向け「マネジメント研修」を実施。テーマは「リーダーシップのあるべき姿について学ぶ」</p> <p>【看護部】</p> <p>看護部は、専門職として自律し、主体的に看護活動ができる看護師の育成を目指して、研修・教育を実施している。</p> <p>2年目以上の看護職員に対し、看護の質を考え提供できる力、マネジメント力を養うための研修を段階的に実施している。</p> <p>新人を対象とする卒後臨床研修制度は、基礎的な看護の知識・技術・態度の習得を図る、看護師としての実践力を身につけること、を目標としている。この制度の研修の1つにフィジカルアセスメントを中心とした Savinglifeナース育成研修がある。これは患者の変化を早急に気づき、患者の早期回復に向けた看護実践ができる看護師を育成するための研修である。看護職員全員が3年間をかけてこの研修を修了している。</p> <p>この他に、高度急性期病院の役割を果たすための病院研修として救命講習会があり、全職員が2年に1度一次救命講習会に参加している。また、手術室、集中治療室等、ハイリスクエリアと定めた部門の職員は、2年に1度二次救命講習会に参加している。全看護職員は、2年間をかけこの講習会に参加している。</p> <p>・研修の期間・実施回数</p>

【医療技術部】

1) -1 2023年10月2日、1)-2 2024年3月14日

2) 2023年9月2日 1回

【看護部】

2023年4月～2024年3月

看護部研修：46のプログラム、延べ受講時間9359時間（オリエンテーション時の研修含む）

病院研修：小児を含む一次救命、二次救命講習会は34回開催、延べ2010時間

・研修の参加人数

【医療技術部】

1)-1 88名 1)-2 101名

2)16名

【看護部】

看護部研修：延べ 5294人（オリエンテーション参加人数：延べ2322人含む）

病院研修：延べ 480人

業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

【臨床研究セミナー】

臨床研究を担う人材の育成を目的とし、臨床研究に従事する職員（医師及び歯科医師含む）、研究者、大学院生等を対象として、先端医療開発部が毎月1，2回程度開催している。

講習内容は毎回異なり、法規、知財、モニタリング等、多岐に渡るテーマでセミナーを実施している。

・研修の期間・実施回数

1 セミナーにつき 1 時間半

令和5年度は延べ17回開催した。（DVD上映でのセミナー4回を含む）

・研修の参加人数

令和5年度は延べ3,078名が受講した。（DVDでの受講者421名を含む）

他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

- ・研修の主な内容
- ・研修の期間・実施回数
- ・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 2. 現状
管理責任者氏名	病院長 丸山 彰一
管理担当者氏名	副病院長・患者安全推進部長 長尾 能雅 病院長補佐・電子カルテ管理室長 松下 正 薬剤部長 池末 裕明 医療機器総合管理部長 藤原 道隆 総務課長 上野山 多恵 人事労務課長 二村 直樹 経営企画課長 土屋 有司 経理課長 高井 真治 医事課長 坂元 琢磨

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十一条の三第二項に掲げる事項	病院日誌	総務課
		各科診療日誌	中央管理
		処方せん	中央管理
		手術記録	中央管理
		看護記録	中央管理
		検査所見記録	中央管理
		エックス線写真	中央管理
		紹介状	中央管理
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	中央管理
		・疾病分類 ICD-10 ・管理形態 外来カルテ・入院カルテ 1患者1電子カルテで 中央管理(一部紙媒体にて保存) ・持ち出しに関する取扱い 診療録の持ち出しは原則禁止としている。エックス線写真の持ち出しは、名古屋大学医学部附属病院病歴等管理要項第12及び第13のとおり の取扱とする。(別添参照)	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十一条の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	人事労務課
		高度の医療の提供の実績	医事課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	経営企画課, 医事課
		高度の医療の研修の実績	人事労務課
		閲覧実績	総務課, 医事課
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課, 薬剤部
	規則第一条	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	患者安全推進部
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	患者安全推進部
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	患者安全推進部

		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	患者安全推進部	
--	--	--	---------	--

			保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	患者安全推進部	
		院内感染対策のための委員会の開催状況	患者安全推進部	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	患者安全推進部	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	患者安全推進部	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	経理課	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	経理課 ,臨床工学技術部	
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	経理課 ,臨床工学技術部			
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	経理課 ,臨床工学技術部			

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	患者安全推進部
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	患者安全推進部
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	患者安全推進部
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	電子カルテ管理室
		医療安全管理部門の設置状況	患者安全推進部
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医事課
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	薬剤部
		監査委員会の設置状況	総務課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	患者安全推進部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	患者安全推進部
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	患者安全推進部
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	監査室
		職員研修の実施状況	患者安全推進部
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	総務課
		管理者が有する権限に関する状況	総務課
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務課		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

名古屋大学医学部附属病院病歴等管理要項

(趣旨)

第1 名古屋大学医学部附属病院(以下「病院」という。)における病歴等の管理については、この要項の定めるところによる。

(目的)

第2 病歴等の管理は、医学部、大学院医学系研究科及び本院(以下「病院等」という。)における診療・教育及び研究に資することを目的とする。

(定義)

第3 この要項において病歴等とは、本院の患者に係る診療録、X線フィルム及びそれらの付属書類(以下「診療録等」という。)をいう。

(退院時要約の作成)

第4 全診療科において医師は、全退院患者についての退院時要約を作成する。

2 前項に規定する退院時要約の作成に関し必要な事項は、名古屋大学医学部附属病院病歴等管理要項実施細則第2条及び第3条に定める。

(プライバシーの確保)

第5 病院等の職員及び診療録等の閲覧又は貸出(以下「閲覧等」という。)を希望する者は、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

- 一 診療情報の秘密保護に関する事項
- 二 患者情報等の秘密保護に関する事項
- 三 複写の禁止に関する事項
- 四 データの保護に関する事項
- 五 その他診療録等の情報管理に関する事項

(診療録等の管理責任者)

第6 診療録等を適正に管理するため、診療録等管理責任者(以下「管理責任者」という。)を置き、電子カルテ管理室長をもって充てる。

(診療録等の管理区分)

第7 診療録等の管理は、管理責任者及び医事課が行う。

2 平成29年12月31日以前の電子媒体上に記録されていない、名古屋大学医学部附属病院病院情報管理システム管理運用要項施行細則(以下「施行細則」という。)第11条に規定する対象文書等については、電子媒体上にスキャン取込み後、原本を保管する。

3 平成30年1月1日以降に電子媒体上にスキャン取り込みされた施行細則第11条に規定される対象文書等については、電子化された情報を原本とする。

(診療録等の保存)

第8 診療録等の保存期間は、次のとおりとする。

- 一 外来診療録、入院診療録等 受診した診療科の最終受診日から5年間
- 二 診療録等をマイクロフィルム化及び電子化したもの 永久

2 診療録等の保管方法及び保存期間を経過した診療録の取扱いについては別に定める。

(診療録等の閲覧及び貸出)

第9 診療録等は、原則として診療、教育・研究、公法上の規定及び医事調査等による目的以外は

閲覧等を許可しないものとする。

- 2 診療録等の閲覧等及び検索に係る遵守事項については、別に定める。
- 3 診療に必要な外来診療録，入院診療録等は各診療科の依頼に応じ，医事課が迅速に提供する。

（診療録等の閲覧等の資格）

第10 診療録等の閲覧等ができる者は，次の者とする。

- 一 病院等に所属し，診療に従事している医師及び歯科医師
- 二 診療従事者として病院長の承認を得た医師及び歯科医師
- 三 前各号に掲げる者のほか，病院長又は管理責任者が許可した者

（診療録等の閲覧等の申請及び許可）

第11 医事課が管理する診療録等の閲覧等を希望する者は，医事課が管理する「診療録等閲覧・貸出申込書」（以下「申込書」という。）を医事課に提出し，許可を得るものとする。

- 2 医事課は，前項の申込書を受理した場合は，閲覧等の資格及び利用目的を確認し，適当であると判断した場合に閲覧等を許可するものとする。
- 3 閲覧は医事課内で行うこととし，貸出は病院等の範囲内とする。

（X線フィルムの院外貸出）

第12 前条第3項の規定にかかわらずX線フィルムの院外貸出については，次に掲げる要件を満たす場合に許可することができるものとする。

- 一 都道府県及び市町村の条例等により，公費負担医療受給申請書等にX線フィルムの添付が求められている場合の患者（患者が未成年の場合の保護者を含む。）への貸出
- 二 労災認定等の資料としてX線フィルムの提出が求められている場合の労働基準監督署への貸出
- 三 診療上の必要事由による他の医療機関への貸出

2 前項第一の貸出の判断は，当該患者が受診している診療科の主治医が行うものとし，主治医が退職している場合にあっては，当該診療科長が判断する。

（診療録等の閲覧等の期間）

第13 診療録等の閲覧等の期間は14日間とする。

2 X線フィルムの院外貸出期間は，前項の規定にかかわらず原則として次のとおりとする。

- 一 公費負担医療受給申請及び労災に係るもの 1月以内
- 二 その他のもの 2週間以内

3 閲覧等の期間終了後なお閲覧等の必要がある場合は，医事課の許可を得るものとし，継続できる閲覧等の期間は，前回の閲覧等期間満了日から14日以内とする。

4 閲覧等の期間内であっても，診療上，当該診療録等が緊急に必要な場合は，直ちに返却するものとする。

5 医事課が管理する診療録等は，医事課内の所定の場所に返却するものとする。

（時間外及び休日等の閲覧等）

第14 土曜日，日曜日，祝祭日及び12月29日から翌年1月3日における医事課が管理する診療録等の閲覧等については，あらかじめ許可を得ているものを除き，診療上，当該患者の診療録等が緊急に必要な場合にのみ許可する。

2 前項により医事課が管理する診療録等の閲覧等を行う者は，当該診療録等の所在確認のため，申込書に必要事項を記載して所定の整理箱に投函しておくものとする。

3 前項により医事課が管理する診療録等の閲覧等を行う場合は、閲覧等を行う者が警務員室から医事課の鍵の貸出を受けて入室し、退出時は消灯、施錠等の確認を行い、貸出を受けた鍵は退出後速やかに警務員室に返却するものとする。

(雑則)

第 15 この要項の実施に関し必要な事項は、名古屋大学医学部附属病院カルテ管理委員会の議を経て病院長が定める。

附 則

この要項は、平成 16 年 4 月 1 日から実施する。

附 則

この要項は、平成 22 年 3 月 10 日から実施する。

附 則

この要項は、平成 24 年 4 月 11 日から実施し、平成 24 年 4 月 1 日から適用する。

附 則

この要項は、平成 28 年 9 月 14 日から実施する。

附 則

この要項は、令和 3 年 4 月 14 日から実施し、令和 3 年 4 月 1 日から適用する。

附 則

この要項は、令和 4 年 2 月 1 日から実施し、令和 3 年 6 月 1 日から適用する。

附 則

この要項は、令和 6 年 4 月 10 日から施行し、令和 6 年 4 月 1 日から適用する。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1.計画	2.現状 <input checked="" type="radio"/>
閲覧責任者氏名	総務課長 上野山 多恵	
閲覧担当者氏名	総務課課長補佐 平子 拓哉	
閲覧の求めに応じる場所	総務課	
閲覧の手続の概要		
病院の管理及び運営に関する諸記録は、公文書等の管理に関する法律の規定に基づき、保有する法人文書ファイルとして、名称、保存期間、文書管理者、保存場所、その他の事項を記載した法人文書ファイル管理簿を作成し、一般の閲覧に供するとともに、公表しています。		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0	件
閲覧者別	医師	延	0	件
	歯科医師	延	0	件
	国	延	0	件
	地方公共団体	延	0	件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

医療に係る安全管理のための指針の整備状況	①・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ 患者安全管理に関する基本的な考え方 ・ 組織に関する基本的事項 ・ 医療に係る安全管理のための従業者に対する研修に関する基本方針 ・ 事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 ・ 医療事故等発生時の対応に関する基本方針 ・ 患者との間の情報の共有に関する方針 ・ 患者からの相談等への対応に関する基本方針 	
<p>医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 設置の有無（①・無） ・ 開催状況：年 17 回 ・ 活動の主な内容： <p>医療事故発生の防止に努め、かつ、発生した医療事故への適切な対応及び病院全体の医療の質向上を積極的に図るため、次の事項を審議する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療事故の防止及び医療安全推進に関する事項 ・ 医療上の紛争処理に関する事項 ・ 医療の質向上に関する事項 	
医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 16 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて）： <ul style="list-style-type: none"> ・ 全職員、外注業者を対象として、「安全文化を構成する4要素 あなたの一枚のインシデントレポートが命を救う」、「インシデント報告の実際」、「患者ケアの引継ぎ」、「急変を未然に防ぐRRSについての理解を深める」等をテーマとした研修を実施した。 理解度チェックで習熟度を確認し、職員からの意見や提案は、Q&A形式で院内公開し、フィードバックしている。 ・ 新規・中途採用職員を対象として、採用時に患者安全ポケットガイドの内容について研修を実施。 ・ チームSTEPPS研修（導入コース）を計9回実施し、795名が受講、受講率は91.2%であった。 ・ チームSTEPPS研修（アドバンスコース）を計3回実施し、79名が受講、受講率は76.5%であった。 ・ 平成28年度からは、各種会議で患者安全推進部から周知した重要伝達事項について、各職員の理解度を確認するため、簡易なテストを実施し、解説を行っている。 ・ 令和4年度からは診療報酬の改訂を受け、e-learning研修で求められる「双方向のコミュニケーション」について以下の対応を実施している。 e-learning研修に「質問」の項目を追加し、寄せられた質問に対する回答を全職員が閲覧する学内サイトに公開している。 	
<p>医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関内における事故報告等の整備（①・無） ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 各部門とのインシデント検討会にて報告事例を審議し、改善に結びつける。（47回開催） 	

- ・ 重大事故に関しては外部委員主導の事故調査委員会などを開催し、そこで得られた分析結果や提言を踏まえ、再発防止に結びつける。(2回開催)
- ・ 多職種が関連した事例等については、カンファレンス形式による検討会を開催し、改善に活かしている。(2回開催)
- ・ インシデント報告総件数(13,454件)

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

院内感染対策のための指針の策定状況	(有)・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： ・ 院内感染対策に関する基本的な考え方 ・ 院内感染対策のための委員会と組織 ・ 院内感染対策のための従業者に対する研修に関する事項 ・ 感染症の発生状況の報告に関する基本方針 ・ 院内感染発生時の対応に関する基本方針 ・ 病院感染リスクアセスメントに基づいた感染対策の立案 ・ 抗菌薬適正使用の推進 	
院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の主な内容： 院内感染の防止に努めるとともに、発生した感染事例について適切な対応を図る。これらの活動のため、次の事項を審議する。 ・ 院内感染の予防及び対策等に関する事項 ・ 患者の取扱いに関する事項 ・ 医療従事者への感染予防に関する事項 ・ 中央感染制御部の運営に関する必要な事項 ・ その他院内感染、難治感染症対策及び抗菌薬適正使用に関する事項 	
従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 6 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて）： ・ 全職員、外注業者を対象として、「感染対策と抗菌薬適正使用について」をテーマとした研修を実施 ・ 清掃業者を対象として、「清掃業者が担う感染対策の役割」をテーマとした研修を実施 ・ 新規・中途採用職員を対象として、採用時に「針刺し、血液・体液曝露」などをテーマとした研修を実施 	
感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院における発生状況の報告等の整備 ((有)・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： ・ 全病棟と外来、部門を対象に感染対策の知識、手指衛生などの感染対策の実施状況、環境整備のチェックを中心としたICTラウンドの実施 ・ MRSAなどの薬剤耐性菌等の新規検出症例数の独自介入基準を設け、基準に合致した部署に対して手指衛生観察巡回などを実施し、手指衛生や感染経路別対策感染対策の強化を図っている ・ NICUとの定期的なミーティングの実施、SICU/EMICUのミーティングへの参加 ・ 抗菌薬適正使用の推進を目的とした薬剤部とのミーティング ・ 診療科横断的な感染症症例コンサルテーションと血液培養陽性例への介入 ・ 4職種の実務的メンバーによるICTコアミーティングを週1回行い、全病院的に感染対策が漏れなく実施されるよう検討・管理している 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 6 回
<ul style="list-style-type: none"> 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 医師・歯科医師・看護師・薬剤師・医療技術部職員を対象とした医薬品の安全使用に係る研修(内服薬管理-持参薬)を実施した。 医師・歯科医師・看護師・薬剤師・医療技術部職員を対象とした医薬品の安全使用に係る研修(医薬品副作用の報告制度、麻薬の適正管理-日常業務における注意点)を実施した。 新入職時職員を対象とした研修(入職時オリエンテーション：医薬品)を実施した。 中途採用者を対象とした研修(入職時オリエンテーション：医薬品)を実施した。 新任看護師を対象とした研修(薬剤管理、薬剤管理)を実施した。 研修医を対象とした研修(薬剤安全プログラム・医薬品の取り扱いについて)を実施した。 	
<p>医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 手順書の作成 (有・無) 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： <p>医薬品安全管理責任者の業務に関する事項、医薬品の採用・購入に関する事項、医薬品の管理に関する事項、患者に対する医薬品の投薬指示から調剤に関する事項、患者に対する与薬や服薬指導に関する事項、医薬品の安全使用に係わる情報の取り扱いに関する事項、ハイアラート薬の取り扱いに関する事項、名称類似薬および外観類似薬の取り扱いに関する事項、他施設との連携に関する事項、適応外の使用、禁忌等の処方に係わる確認および指導に関する事項、院内製剤の取り扱いに関する事項、外来化学療法に関わる事項、重大な有害事象の予防・対応に関する事項、医薬品関連の情報システムに関する事項、医薬品の安全使用のための業務手順書に基づく業務の遂行に関する事項</p> 	
<p>医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無) 未承認等の医薬品の具体的な使用事例(あれば)： <p>人工関節手術は関節内に大きなインプラントが挿入されるといった特性上、感染した場合非常に治療抵抗性が強いことが臨床上的問題となっている。近年、人工関節領域において創部へのバンコマイシンパウダー散布の効果は様々な報告があるが、感染率を低下させたとの報告もある。当院は大学病院であるがゆえに複数回の手術例や難症例も多いためバンコマイシンパウダー散布が創部感染の減少に有効であることが期待できるということで、前年度未承認新規医薬品等評価委員会に不特定多数患者に対する適応外使用として申請され、承認された。2023年は9例に使用され、特記すべき有害事象なく、また感染予防となったことから、効果が認められたと考えられている。これらの実施状況については、申請科より提出された実施状況報告書により薬剤部未承認新規医薬品等管理室の薬剤師が確認し、未承認新規医薬品等評価委員と情報共有した。</p> その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 薬剤部のペイシェントセーフティマネジャーおよび病棟担当薬剤師が、診療科(部)、病棟、中央診療施設などにおいて、医薬品安全運用協議会や患者安全推進部と連携して、各部署内における医薬品の安全管理に関する指導を行っている。 医薬品に係わる適正使用に関する情報や副作用情報を医薬品安全運用協議会、薬事委員会、患者安全推進委員会等で報告している。 担当副薬剤部長および担当室長は、医薬品安全運用協議会やペイシェントセーフティマネジャー会議に出席し、患者安全推進部に専従で配置されている薬剤師と連携して、インシデント対策や運用手順の見直しを行っている。 必要に応じて薬品情報室から安全使用のための情報を文書にて各病棟、外来診療科、その他の部署に配布するとともにメールにて配信している。また、電子カルテのDI参照の薬剤部からのお知らせ画面、薬剤部ウェブサイトにも安全使用のための情報を掲載し職員への周知徹底に努めている。 重要度の高い情報については、電子カルテトップページの院内広報：薬剤部ページにも掲載している。 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	随時
<ul style="list-style-type: none"> 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 人工呼吸器・除細動器など特に安全使用に際して技術の習得が必要と考えられる機器に関して、医療機器総合管理部が年2回実施。 放射線部門にて直線加速器と放射線照射装置に関する年2回の定期研修を実施。 その他の医療機器についても各部署にて適宜勉強会を実施。(随時実施) 新卒者のオリエンテーションにて、医療機器の安全使用のための研修を実施。 研修医や看護師を対象に臨床工学技士・メーカーによる研修の実施。 	
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> 医療機器に係る計画の策定 (有・無) 機器ごとの保守点検の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 医療機器の管理を医療機器管理ソフトにて行っており、購入日・使用場所・保守点検状況等の管理を行っている。 臨床工学技士が生命維持管理装置(人工心肺・血液浄化・不整脈・心臓カテーテル・OPE・ICU関連)の操作・保守点検・管理を行っている。 院内で中央管理する機器の定期点検は電気安全解析装置などのシミュレーターを用いて実施している。また交換パーツについてはメーカー講習会を受講し、供給を受けて院内で行っている。 ダウインチやX線撮影装置など保守契約を結んでいるものについては、機器の空き状況を確認し実施している。 手術室および臨床工学技術部に委託業者が常駐して医療機器の日常点検や不具合発生時の対応などを行う、医療機器保守管理業務契約を締結している。 その他医療機器についても、必要に応じ定期点検等の保守契約を結んでいる。 	
医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無) 未承認等の医療機器の具体的な使用事例(あれば)： <p>医療機器について、R5年度の未承認医療機器の使用申請は0件。適応外使用申請・承認についての実績は8件。</p> <ul style="list-style-type: none"> 術中神経モニタリングのための適応外サイズの電極シール使用 原発性膜性腎症によるネフローゼ症候群に対するリポソームLA-15を用いた血漿交換療法 小児重症呼吸不全に対する透析用カテーテルを用いたECMO治療 ・・・外5件 その他の改善のための方策の主な内容： <p>PMDAやメーカー、納入業者からの報告を受理し、CEニュース(臨床工学技術部による院内広報)や医療機器総合管理部が発出するMDI(Medical Device Information)通知メール、電子カルテに掲載するなど電子媒体を利用して関連部署での情報共有を実施している。</p> 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・責任者の資格（医師・歯科医師）</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門，医療安全管理委員会，医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>医療安全管理責任者を配置しており，患者安全推進部長，患者安全推進委員会委員長を務め，医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を統括している。</p>	
専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（16名）・無
<p>医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>医薬品情報は、整理した上で薬事委員会月例報告として院内へ周知している。周知状況の確認は、各診療科の薬事委員が周知完了報告を薬剤部薬品情報室に提出することにより行っている。また、各診療科の周知状況は薬事委員会にて報告している</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>（未承認薬）</p> <p>未承認薬は未承認新規医薬品等評価委員会へ申請し承認を得た上で使用されている。副作用報告や個別の経過報告を行っている。</p> <p>未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門については、「名古屋大学医学部附属病院未承認新規医薬品取扱要項」および「名古屋大学医学部附属病院未承認新規医薬品等評価委員会に関する要項」を制定した。</p> <p>（適応外）</p> <p>適応外使用については、未承認新規医薬品等評価委員会で承認した適応外使用医薬品を「適応外投与（承認）一覧」として薬剤部内に通知し薬剤師全員で情報を共有している。薬剤師は処方監査時に適応外使用を把握した場合は、患者への説明及びカルテへの記載が必要であること、未承認新規医薬品等評価委員会への申請が必要であることを医師に指導して記録を残している。</p> <p>（禁忌）</p> <p>禁忌処方をチェックするシステムは電子カルテ上にあり、医師が処方確定時にアラートが表示される。また、薬剤部で印字された処方せんの下部にもアラートが印字される。薬剤師は処方監査時にこのアラート情報を確認し、個別に医師へ連絡し、当該医師の対応方針を確認した後に記録を残している。</p>	

・担当者の指名の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無) ・担当者の所属・職種： (所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師) (所属： ， 職種) (所属： ， 職種) (所属： ， 職種) (所属： ， 職種) (所属： ， 職種) (所属： ， 職種) (所属： ， 職種)	
医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	(<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)
・医療の担い手が説明を行う際と同席者，標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無) ・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認，及び指導の主な内容： 目的，方針，適応範囲，定義，役割と責任，遵守と監視，手順，説明と同意の種類，説明と同意の確認のプロセス，説明・同意書の文書様式，説明及び同意に関し問題が起こった場合，等	

診療録等の管理に関する責任者の選任状況	(<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)
・診療録等の記載内容の確認，及び指導の主な内容： 「診療録等内部監査要項」に基づいてカルテ記載の確認し、その結果を毎月病院機能改善本部会議で報告をしている。 該当診療科のカルテ管理委員へフィードバックし各診療科で対策し診療情報の精度向上に努めている。	
医療安全管理部門の設置状況	(<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)
・所属職員：専従（10）名，専任（ ）名，兼任（7）名 うち医師：専従（3）名，専任（ ）名，兼任（4）名 うち薬剤師：専従（1）名，専任（ ）名，兼任（1）名 うち看護師：専従（4）名，専任（ ）名，兼任（ ）名 (注) 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること ・活動の主な内容： ・全部門からのインシデント・アクシデント情報の集積と分析 ・院内の伝達会議，安全研修，学生教育等による周知，啓発 ・重大アクシデントに対し，病院全体で対応できる治療連携体制の起動 ・医療事故に対する第三者を主体とする事例検証（医療事故調査）	

・適切なインフォームド・コンセント体制の整備

平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。
医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（ 41 件 ），及び許可件数（ 38 件 ）
- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（ 有 ・ 無 ）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ 有 ・ 無 ）
- ・活動の主な内容：
 - ・申請内容を確認するとともに、委員会に対し提供の適否等について意見を求める。
 - ・部門の長は、委員会の意見を踏まえ提供の適否等について決定し診療科長へ通知。
 - ・部門の長は、適正な手続きに基づいて提供されたかについて、定期的、又は患者が死亡した場合には、手術記録、診療録等の記載内容を確認。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ 有 ・ 無 ）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（ 有 ・ 無 ）

未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（ 0 件 ），及び許可件数（ 0 件 ）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（ 有 ・ 無 ）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ 有 ・ 無 ）

・活動の主な内容：

(医薬品の場合)

診療科の申請医師は申請書類を薬剤部未承認新規医薬品等管理室に提出する。未承認新規医薬品等管理室の薬剤師は申請書類(申請書、説明同意文書、確認表)と引用文献等の内容を確認し、疑義等について申請者に回答の依頼をする。その後、未承認新規医薬品等評価委員会にて評価委員が申請内容を審査する。事前に評価委員から指摘事項等を挙げ、その内容を申請医師に連絡する。申請医師は書類の修正等委員会前にできるだけ対応し、未承認新規医薬品等評価委員会で申請内容の説明、指摘事項等の回答等をする。

申請が適当と判断され、患者に使用された後、申請医師は定期的に経過報告書を提出する。未承認新規医薬品等管理室の薬剤師は、同意の取得、副作用がモニタリングされているか等遵守状況について確認を行う。

- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (有 ・ 無)
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (有 ・ 無)

入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 355 件
- ・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 203 件
- ・ 上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
死亡状況の確認及び審議

他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・ 他の特定機能病院等への立入り (有 (病院名：札幌医科大学附属病院) ・ 無)
- ・ 他の特定機能病院等からの立入り受入れ (有 (病院名：宮崎大学医学部附属病院) ・ 無)
- ・ 技術的助言の実施状況
 - ・ インシデントやアクシデントの報告等の状況，医療安全管理委員会の業務の状況，医薬品等の安全使用体制の状況，高難度新規医療技術又は未承認新規医薬品等を用いた医療の適否等を決定する部門の運用状況，監査委員会の業務の結果及び監査委員会からの指摘への対応状況についての助言があった。
 - ・ リスクマネージャー会議を日勤帯に設ける等働き方改革の視点で高い評価を得ており，引き続きその実効性を維持するように努めている。

当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・ 体制の確保状況
地域連携・患者相談センター：相談窓口にて一次対応を行なっている。
安全管理に関連する事案については、患者安全推進部と連携しながら適切に応じる体制を整えている。

各種相談については、担当者が対応。
地域連携・患者相談センター：相談員 4 名、MSW 12 名、看護師 10 名

職員研修の実施状況

・研修の実施状況

医師：各診療科に所属して、初期研修によって習得された基本的診療能力に上乘せられる、医師としての総合的診療能力の習得に加えて、当該診療科で実施されている先進的な医療に特化した研修を行うことで、医師としての広くかつ専門的経験を蓄積しながら、専門医資格の取得等を目指す後期研修を実施している。また、新しい専門医制度の平成30年4月開始に伴い、全19領域の基幹病院として、日本専門医機構に提出した各領域のプログラムに基づき、専門医資格の取得を目指す後期研修を実施している。

看護師：専門職として自律し、主体的に看護活動ができる看護師の育成を目指して、研修・教育を実施している。新人を対象とする卒後臨床研修制度は、基礎的な看護の知識・技術・態度の習得を図る、看護師としての実践力を身につけること、を目標としている。この制度の研修の1つにフィジカルアセスメントを中心とした Savinglife ナース育成研修がある。これは患者の変化を早急に気づき、患者の早期回復に向けた看護実践ができる看護師を育成するための研修である。看護職員全員が3年間をかけてこの研修を修了している。この他に、高度急性期病院の役割を果たすための病院研修として救命講習会があり、全職員が2年に1度一次救命講習会に参加している。また、手術室、集中治療室等、ハイリスクエリアと定めた部門の職員は、2年に1度二次救命講習会に参加している。全看護職員は、2年間をかけこの講習会に参加している。

全職員、外注業者を対象として、全職員、外注業者を対象として、「安全文化を構成する4要素 あなたの一枚のインシデントレポートが命を救う」、「インシデント報告の実際」、「患者ケアの引継ぎ」、「急変を未然に防ぐRRSについての理解を深める」等をテーマとした研修を実施した。

新規・中途採用職員を対象として、採用時に患者安全ポケットガイドの内容について研修を実施。チームSTEPPS研修（導入コース）を計9回実施し、795名が受講した。

チームSTEPPS研修（アドバンスコース）を計3回実施し、79名が受講した。

令和4年度からは診療報酬の改訂を受け、e-learning研修で求められる「双方向のコミュニケーション」について以下の対応を実施している。

e-learning研修に「質問」の項目を追加し、寄せられた質問に対する回答を全職員が閲覧する学内サイトに公開している。

(注) 前年度の実績を記載すること (の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者が、公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する「2023年度特定機能病院管理者研修」を受講した。

(注) 前年度の実績を記載すること

医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況，当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況，当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・ 第三者による評価の受審状況

2022年3月にJCIによる評価を受審し、認証を受けた。

・ 評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

病院ホームページの学内専用サイトに掲載する等して、構成員向けに周知している。

・ 評価を踏まえ講じた措置

部分的達成とされた21項目について、関係部署が対策を検討し、毎月の関係会議にて対応状況を報告することで、病院全体としてのモニタリングを実施している。

(注) 記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準

・ 基準の主な内容

- 1．人格が高潔で、学識が優れ、医学部附属病院内外の信頼を得ることができる者であること。
- 2．医学部附属病院等における学生への教育、学術研究及び社会貢献に関して、調和のとれた運営を行うことができる者であること。
- 3．医学部附属病院の運営にあたり、構成員の意見に耳を傾けつつ、迅速な意思決定を行う強い指導力を発揮することができる者であること。
- 4．診療、臨床教育、臨床研究など大学病院特有のミッションに精通し、医療機関の管理者としてリスク対応を含めた高いマネジメント能力を持ち、多職種からなる構成員に対して、優れたリーダーシップを発揮できる者であること。
- 5．医療安全管理業務の経験並びに医療安全を第一に考える姿勢及び指導力を備え、医療安全確保のために必要な資質・能力を有する者であること。
- 6．医学部附属病院の安定的財政基盤の確立と効率的な組織編成を実現できる総合的運営能力を有する者であること。
- 7．地域医療へ貢献する姿勢及び国際的な視野を持って医学部附属病院の運営を行うことができる者であること。
- 8．医学部附属病院の現状を正確に分析し、大学執行部との対話を通じ設定された部局の中長期ビジョンを着実に実行するとともに、全学及び医学部附属病院の課題について、大学執行部と連携して取り組むことができる者であること。

・ 基準に係る内部規程の公表の有無（ 有 ・ 無 ）

・ 公表の方法

ホームページにて公表

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無				(有)・無	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 ((有)・無) ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 ((有)・無) ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 ((有)・無) ・ 公表の方法 ホームページにて公表 					
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由					
氏名	所属	委員長 (を付す)	選定理由	特別の関 係	
門松 健治	名古屋大学		副総長のうち総長が指名した者	有	
木村 宏	名古屋大学		医学部教授会において構成員のうちから選出された者	有	
西脇 公俊	名古屋大学		医学部附属病院部長会において構成員のうちから選出された者	有	
小寺 泰弘	名古屋大学		医学部附属病院部長会において構成員のうちから選出された者	有	
柵木 充明	愛知県医師会		総長が委嘱した学外の有識者 名古屋大学医療安全管理業務監査 委員会委員長として、本院の医療 安全管理体制等について深い見識 を有している。	無	
荒井 秀典	国立長寿医療研究 センター		総長が委嘱した学外の有識者 名古屋大学特定臨床研究監査委員 会委員長として、本院の臨床研究 業務等について深い見識を有して いる。	無	
吉田 宏	愛知県保健医療局		総長が委嘱した学外の有識者 愛知県の医療に係る行政の担当責 任者として、愛知県の医療行政に ついて深い見識を有している。	無	

規則第9条の2 3第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無		(有)・無	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 合議体の主要な審議内容 病院の経営, 管理及び人事に関する企画, 立案及び方針を決定する。 ・ 審議の概要の従業者への周知状況 病院部長会において各診療科長に報告するとともに, 病院連絡会において各医局長に決定事項を周知している。 ・ 合議体に係る内部規程の公表の有無 (有 (無)) ・ 公表の方法 ・ 外部有識者からの意見聴取の有無 (有 (無)) 			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (を付す)	職種	役職
丸山 彰一		医師	病院長
江畑 智希		医師	副病院長
高橋 義行		医師	副病院長
長尾 能雅		医師	副病院長
梶山 広明		医師	副病院長
川嶋 啓揮		医師	副病院長
今釜 史郎		医師	副病院長
藤井 晃子		看護師	副病院長
藤江 進		事務	副病院長
曾根 三千彦		医師	病院長補佐
松下 正		医師	病院長補佐
阿部 真治		診療放射線技師	病院長補佐

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有・無）
- 公表の方法
名古屋大学ホームページに掲載
- 規程の主な内容
病院長の権限に関する内容は下記のとおり
 - 病院長は、病院の管理、運営をつかさどり、所属職員を統督する。
 - 病院長は、病院で行われる診療について、その実施状況の報告を求め、又は自ら調査し、必要に応じて是正又は停止を命ずることができる
 - 部長、科長、センター長、部門長等（以下「部長等」という。）の任命は、病院長が行う。
 - 病院長は、部長等が次の各号のいずれかに該当すると認めるときは、これを免ずることができる。
 - 一 勤務実績がよくない場合
 - 二 心身の故障のため職務の遂行に支障があり、又はこれに堪えない場合
 - 三 その他必要な適性を欠く場合
 - 部長等は、別に定める手続きを経ることなく、その意に反して免ぜられることはない。
 - 病院長は、第4項の規定により部長等を免じたときは、その理由を明らかにしなければならない。
- 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
副病院長は、病院長から指示された具体的な事項を担当し、及び病院長が海外渡航等で不在の場合は、あらかじめ病院長が指名した副病院長が、病院長の職務を代行する。
副病院長は、病院長の職務を円滑に遂行させるため、病院の管理・運営等に関する企画・立案にかかわるとともに、広報の職務又は病院の教育・研究・診療にかかわる職務を分担する。
病院長補佐は、病院全体の立場に立ち、病院の管理・運営等に関し提案された企画立案等を検討し、病院長に提言する。
- 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者が、公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する「2023年度特定機能病院管理者研修」を受講。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況					(有)・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年 2 回</p> <p>・ 活動の主な内容： 以下に掲げる事項を監査する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療安全管理に係る体制 ・ 医療安全管理責任者，医薬品安全管理責任者，医療機器安全管理責任者等の業務の状況 ・ 患者安全推進部の業務の状況 ・ 患者安全推進委員会の業務の状況 ・ その他医療安全管理に関して必要な事項 <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 公表の方法： 名古屋大学医学部附属病院ホームページにおいて公開</p>					
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）					
氏名	所属	委員長 (を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
柵木 充明	愛知県医師会		愛知県医師会長を務めており，医療安全に精通しているため。	無	1
三島 信彦	A01 名古屋病院		A01 名古屋病院病院長を務めており，医療安全に精通しているため。	無	1
長谷川 ふき子	成田・長谷川法律相談所		医療安全管理を得意とする弁護士であり，法律に関する高い識見を有しているため。	無	1

松下 敏幸	全国健康保険協会愛知支部		全国健康保険協会愛知支部長を務めており、医療を受ける者として、医療に係る高い見識を有しているため。	無	2
矢野 昌浩	名古屋大学		総長が指名する理事・副総長	有	3

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

名古屋大学監査室において、病院も含めた全学の業務方法書、規程、内規等の整備状況及び実施状況、年度計画に基づく組織及び制度全般の運営状況、人事管理状況などについて監査を行っている。

また、「東海国立大学機構における内部統制システムの整備及び運用に関する規程」を整備し、病院も含めた全学の業務状況を確認するため、内部統制委員会を年一回開催することとしている。

・ 専門部署の設置の有無 (有 ・ 無)

・ 内部規程の整備の有無 (有 ・ 無)

・ 内部規程の公表の有無 (有 ・ 無)

・ 公表の方法

東海国立大学機構ホームページに掲載

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 東海国立大学機構役員会をもって充てることとし、病院の経営に関する事項については病院長又は副病院長が出席し審議を行うこととしている。 ・ 会議体の実施状況（ 年 29 回 ） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ 有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/> ）（ 年 回 ） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ 有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/> ） ・ 公表の方法 東海国立大学機構ホームページで公表 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (を付す)	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)・ 通報件数 (年 0 件)・ 窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)・ 周知の方法 名古屋大学ホームページに掲載するとともに、職員に配付している「医療安全ポケットガイド」においても掲載し、案内している。

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類(任意)

1 果たしている役割に関する情報発信

果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
<p>・ 情報発信の方法、内容等の概要</p> <p>・ 情報発信の方法、内容等の概要</p> <p>1 . 附属病院における臨床研究成果を①名古屋教育記者会会員 15 社へFax、記者会見を通じてプレスリリースを行い、 医学系研究科ホームページに研究トピックスとして掲載し、広く学外・院外に向けて情報発信している。</p> <p>また、臨床研究成果以外の病院の取組みについても、医学部附属病院ホームページに名大病院の活動として掲載し、広く学外・院外に向けて情報発信している。</p> <p>2 . 診療内容・医療サービスや診療実績等の医療情報について、附属病院ホームページにおいて公開している。</p> <p>3 . 患者や地域向けに広報誌を作成し、広く頒布している。また、一般市民を対象とした公開講座を毎年度開催し、地域市民に向けた教育・啓発活動にも取り組んでいる。</p>	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
<p>・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <p>ア．補助人工心臓を用いた重症心不全治療：心臓移植治療は、医師（心臓外科、循環器内科、ICU、麻酔科、精神科）の他に、看護師、臨床工学技士、理学療法士（心臓リハビリ）、臨床心理士、栄養管理士、薬剤師が合同で行っている。植込型補助人工心臓治療は、心臓移植適応患者を対象とするため、多職種カンファレンスで適応を審査し、補助人工心臓移植から在宅管理、将来的な心臓移植までのシームレスな重症心不全治療を多職種で行っている。</p> <p>イ．肝臓移植：図1のとおり、チーム医療で行っている。</p> <p>ウ．肉腫患者に対するサルコーマボード：整形外科、化学療法部、放射線科、緩和ケアチーム、泌尿器科などが参加している。</p> <p>エ．骨転移患者に対する骨転移ボード：整形外科、リハビリテーション科、化学療法部、放射線治療科、緩和ケアチーム、泌尿器科、乳腺・内分泌外科、呼吸器内科などが参加している。</p> <p>オ．大動脈疾患における人工血管治療とステント治療の同時ハイブリッド手術：心臓外科と血管外科が合同で行っている。</p> <p>カ．閉塞性動脈硬化症、血管炎、バージャー病による四肢虚血に対する血管新生療法：循環器内科と血管外科が合同で行っている。</p>	

図1. 肝臓移植とチーム医療

